# ウィズコロナにおける
# オンライン日本語教育実証事業
# 委託業務

業務成果報告書　別冊

# グッドプラクティス事例集

本事例集は、アンケート結果や有識者のご意見を参考にしつつ、今後のオンラインを活用した日本語教育の質の向上を目的に、参考となると考えられる事例を取りまとめたものです

＜グッドプラクティス選定方法＞

事務局アンケート結果を基に、有識者の意見を踏まえてヒアリング候補先及びグッドプラクティスの抽出を実施

Step0

**有識者の「申請時評価」の「合計点」が上位75%に含まれる日本語教育機関を抽出**
実証事業申請時の事業計画に対する有識者評価を活用

**学習者アンケート「総合満足度」が4点～1点の4段階評価のうち3点以上のクラスを抽出**
主に質と構成の総合的な評価が得られる学習者の総合満足度を活用

**教師アンケート「総合満足度」が4点～1点の4段階評価のうち3点以上のクラスを抽出**
質と構成と運営の総合的な評価が得られる教師の総合満足度を活用

Step1

**全実証事業日本語教育機関を対象としたグッドプラクティスのヒアリング候補の精査・選定**
有識者の専門的知見から横展開すべき実証事例を選定

Step2

**有識者との協議結果を踏まえ、実証事業日本語教育機関へのヒアリングを実施**

Step3

**ヒアリング結果を踏まえ、有識者会議・確認を踏まえて、グッドプラクティスを決定**

※各取組詳細ページの上部で重点目標Can-doとして記述した言語活動の図形に例の様に色付けしています。

例：　聞く

# グッドプラクティス

| 機関番号 | 機関名 | # | クラス名 | 日本語レベル | | | | | 手段 | | | | ページ数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | A1 | A2 | B1 | B2 | C | オンライン | ハイブリッド | オンデマンド | ハイフレックス | |
| A01 | A.C.C.国際交流学園 | 1 | 留学生（就職）を対象としたレベルA1のハイブリッド型授業 | ● | | | | | | ● | | | 5 |
| A02 | 神戸東洋日本語学院 | 2 | 留学生（進学・就職・一般）を対象としたレベルA1のハイフレックス型授業① | ● | | | | | ● | ● | ● | ● | 7 |
| | | 3 | 留学生（進学・就職・一般）を対象としたレベルA2のハイフレックス型授業① | | ● | | | | ● | ● | ● | ● | 9 |
| A03 | エール学園日本語教育学科 | 4 | 中上級ビジネス日本語 | ● | ● | | | | ● | | | | 11 |
| | | 5 | 初級日本語会話 | | | ● | ● | | ● | | | | 13 |
| A04 | 熊本YMCA学院日本語科 | 6 | 留学生（進学）を対象とした入門、A1のオンライン型授業＋オンデマンド学習 | ● | | | | | ● | | ● | | 15 |
| A05 | 日本語センター | 7 | 初級オンラインコース（一般） | | ● | | | | ● | | | | 17 |
| | | 8 | JLPT対策オンラインコース | ● | | | | | ● | | | | 19 |
| A07 | 国書日本語学校 | 9 | 日本語初級　バングラデシュクラス | ● | | | | | ● | | | | 21 |
| | | 10 | JLPT　N2　中国クラス／JLPT　N2　ミャンマークラス／JLPT　N3　中国・モンゴルクラス | | | ● | ● | ● | ● | | | | 23 |
| A12 | 日立さくら日本語学校 | 11 | 渡日前留学希望生を対象とした入門クラス　さくらP／さくらR | ● | | | | | ● | | ● | | 25 |
| | | 12 | 渡日前留学希望生を対象に入門から初級への引き上げを目指すクラス　さくらN | ● | ● | | | | ● | | ● | | 27 |
| A18 | ジェット日本語学校 | 13 | 日本事情体験型＋テキストで学ぶサマーコース | | ● | ● | | | ● | | | | 29 |
| A19 | 静岡インターナショナルスクール | 14 | JLPT対策コースAクラス | ● | | | | | ● | | | | 31 |
| A20 | 広島YMCA専門学校 | 15 | A1/A2到達を目指すいろどりクラス | ● | ● | | | | ● | | | | 33 |
| | | 16 | A1/A2到達を目指すおしゃべりクラス | ● | ● | | | | ● | | | | 35 |
| A42<br>A43 | ARMS日本語学校／H&A日本語学校 | 17 | JLPT N5実力アップ／JLPT N4実力アップ | | ● | | | | | | ● | ● | 37 |
| | | 18 | 1からスタート初級クラス（オンライン）／1からスタート初級クラス（ハイフレックス） | ● | | | | | ● | | | ● | 39 |
| | | 19 | コミュニケーション日本語コース　入門 | ● | | | | | ● | | | | 41 |
| A45 | 名古屋国際学院 | 20 | オンライン留学準備150時間コース | ● | ● | | | | ● | | | | 43 |
| A47 | 国際言語文化センター附属日本語学校 | 21 | 渡日前フォローアップクラス1／渡日前フォローアップクラス2／在沖外国人生活者クラス | ● | | | | | ● | | | | 45 |
| B01 | 京都励学国際学院 | 22 | 初中級実力養成クラスA／クラスB | ● | ● | | | | ● | | | | 47 |
| B02 | 大阪YMCA国際専門学校日本語学科 | 23 | A1レベルの前半の到達を目指すクラス | ● | | | | | ● | | ● | | 49 |
| | | 24 | A1レベルの後半の到達を目指すクラス | ● | | | | | ● | | ● | | 51 |
| | | 25 | A2レベルの前半の到達を目指すクラス | | ● | | | | ● | | ● | | 53 |
| | | 26 | A2レベルの後半の到達を目指すクラス | | ● | | | | ● | | ● | | 55 |
| B03 | コミュニカ学院 | 27 | 初級者を対象としたA1レベルのクラス | ● | | | | | ● | | ● | | 57 |
| B05 | 青山スクールオブジャパニーズ | 28 | 渡日前留学予定者を対象としたA1レベルのクラス | ● | | | | | ● | | | | 59 |

# グッドプラクティス活動Candoリスト

| 活動Cando No | レベル | 技能 | 令和３年１０月１２日付『日本語教育の参照枠報告』掲載の「活動CanDo」 | グッドプラクティス集取組詳細参照ページ |
|---|---|---|---|---|
| No.01 | A2 | 話すこと（やりとり） | 【対話相手の理解】時々繰り返しや言い換えを求めることが許されるなら、自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした、共通語での話は大抵理解できる。 | P5参照 |
| No.02 | A1 | 聞くこと | 【包括的な聴解】もし、はっきりとゆっくりとした発音ならば、具体的な必要性を満たすことが可能な程度に理解できる。 | P5参照 |
| No.03 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。 | P7参照 |
| No.04 | A1 | 話すこと（発表） | 【長く一人で話す：経験談】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができる。 | P7参照 |
| No.05 | A2 | 話すこと（やりとり） | 【情報の交換】娯楽や過去の活動について質問をし、答えることができる。 | P9参照 |
| No.06 | B1 | 話すこと（発表） | 【長く一人で話す：経験談】物語を語ることができる。 | P9参照 |
| No.07 | B2 | 話すこと（発表） | 【聴衆の前での講演】事前に用意されたプレゼンテーションをはっきりと行うことができる。ある見方に賛成、反対の理由を挙げて、幾つかの選択肢の利点と不利な点を示すことができる。 | P11参照 |
| No.08 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。 | P13参照 |
| No.09 | A2 | 話すこと（やりとり） | 【情報の交換】娯楽や過去の活動について質問をし、答えることができる。 | P13参照 |
| No.10 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。 | P15参照 |
| No.11 | A1 | 書くこと | 【総合的な書く活動】簡単な表現や文を単独に書くことができる。 | P15参照 |
| No.12 | A1 | 話すこと（発表） | 【総合的な口頭発話】人物や場所について、単純な語句を並べて、述べることが出来る。 | P17参照 |
| No.13 | A1 | 話すこと（発表） | 【長く一人で話す：経験談】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができる。 | P17参照 |
| No.14 | A1 | 話すこと（発表） | 【総合的な口頭発話】人物や場所について、単純な語句を並べて、述べることが出来る。 | P19参照 |
| No.15 | A1 | 話すこと（発表） | 【長く一人で話す：経験談】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を述べることが出来る。 | P19参照 |
| No.16 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。 | P21参照 |
| No.17 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。 | P21参照 |
| No.18 | A1 | 話すこと（発表） | 【総合的な口頭発話】人物や場所について、単純な語句を並べて、述べることができる。 | P21参照 |
| No.19 | A1 | 聞くこと | 【広報・アナウンスや指示を聞くこと】当人に向かって、丁寧にゆっくりと話された指示なら理解できる。短い簡単な説明なら理解できる。 | P21参照 |
| No.20 | B1 | 読むこと | 【情報や議論を読むこと】身近な話題についての簡単な新聞記事から重要点を取り出すことができる。 | P23参照 |
| No.21 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。 | P25参照 |
| No.22 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。 | P25参照 |
| No.23 | A1 | 聞くこと | 【包括的な聴解】意味が取れるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。 | P25参照 |
| No.24 | A1 | 読むこと | 【包括的な読解】非常に短い簡単なテクストを、身近な名前、単語、基本的な表現と一つずつ取り上げて、必要であれば、読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。 | P25参照 |
| No.25 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。 | P27参照 |
| No.26 | A2 | 話すこと（発表） | 【総合的な口頭発話】人物や生活・職場環境、日課、好き嫌い等について、単純な記述やプレゼンテーションができる。その際、簡単な語句や文を並べることができる | P27参照 |
| No.27 | A2 | 話すこと（発表） | 【長く一人で話す：経験談】事項を列挙して簡単に述べたり、物語ることができる。自分の周りの環境、例えば、人や場所、仕事、学習経験等の日常を述べることができる。 | P27参照 |
| No.28 | A2 | 聞くこと | 【包括的な聴解】もし、はっきりとゆっくりとした発音ならば、具体的な必要性を満たすことが可能な程度に理解できる。【広報・アナウンスや指示を聞くこと】短い、はっきりとした、簡単なメッセージやアナウンスの要点は聞き取れる。 | P27参照 |
| No.29 | B1 | 話すこと（発表） | 【長く一人で話す：経験談】本や映画の筋を順序立てて話し、それに対する自分の考えを述べることが出来る。 | P29参照 |
| No.30 | B1 | 話すこと（発表） | 【長く一人で話す：経験談】現実や想像上の出来事を述べることが出来る。 | P29参照 |
| No.31 | B1 | 話すこと（やりとり） | 【非公式の議論（友人との）】何をしたいか、どこに行きたいか、誰を選べばよいか、又はどちらを選べばよいか、などを議論し、代案を比較対照できる。 | P31参照 |
| No.32 | B1 | 聞くこと | 【広報・アナウンスや指示を聞くこと】詳細な指示を理解できる。 | P33参照 |
| No.33 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。 | P35 参照 |
| No.34 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。 | P35 参照 |
| No.35 | A2 | 話すこと（やりとり） | 【対話相手の理解】時々繰り返しや言い換えを求めることが許されるなら、自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした、共通語での話は大抵理解できる。 | P37参照 |
| No.36 | A2 | 話すこと（発表） | 【総合的な口頭発話】人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。その際、簡単な語句や文を並べることができる。 | P37参照 |
| No.37 | A2 | 話すこと（やりとり） | 【対話相手の理解】時々繰り返しや言い換えを求めることが許されるなら、自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした、共通語での話は大抵理解できる。 | P39参照 |

# グッドプラクティス活動Candoリスト

| 活動CandoNo | レベル | 技能 | 令和３年１０月１２日付『日本語教育の参照枠報告』掲載の「活動CanDo」 | グッドプラクティス集取組詳細参照ページ |
|---|---|---|---|---|
| №38 | A2 | 話すこと（発表） | 【総合的な口頭発話】人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。その際、簡単な語句や文を並べることができる。 | P39参照 |
| №39 | A2 | 話すこと（やりとり） | 【対話相手の理解】時々繰り返しや言い換えを求めることが許されるなら、自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした、共通語での話は大抵理解できる。 | P41参照 |
| №40 | A2 | 話すこと（発表） | 【総合的な口頭発話】人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。その際、簡単な語句や文を並べることができる。 | P41参照 |
| №41 | A2 | 日本事情・日本理解 | 【日本事情・日本理解】日本文化について興味関心を持ち、情報を収集することが出来る。 | P43参照 |
| №42 | A1 | 話すこと（発表） | 【長く一人で話す：経験談】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができる。 | P43参照 |
| №43 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。 | P43参照 |
| №48 | A1 | 話すこと（発表） | 【総合的な口頭発話】人物や場所について、単純な語句を並べて、述べることができる。 | P45参照 |
| №49 | A1 | 聞くこと | 【広報・アナウンスや指示を聞くこと】当人に向かって、丁寧にゆっくりと話された指示なら理解できる。短い簡単な説明なら理解できる。 | P47参照 |
| №50 | A2 | 話すこと（発表） | 【長く一人で話す：経験談】事項を列挙して簡単に述べたり、物語ることができる。自分の周りの環境、例えば、人や場所、仕事、学習経験などの日常を述べることができる。 | P47参照 |
| №51 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【会話】 人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。 | P47参照 |
| №52 | A1 | 話すこと（発表） | 【長く一人で話す：経験談】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができる。 | P49参照 |
| №53 | A1 | 聞くこと | 【包括的な聴解】意味が取れるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。 | P49参照 |
| №54 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。 | P49参照 |
| №55 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【目的達成のための協同作業】 人に物事を要求したり、与えることができる。 | P49参照 |
| №56 | A1 | 話すこと（発表） | 【総合的な口頭発話】人物や場所について、単純な語句を並べて、述べることができる。 | P51参照 |
| №57 | A1 | 聞くこと | 【包括的な聴解】意味が取れるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。 | P51参照 |
| №58 | A2 | 話すこと（やりとり） | 【情報の交換】娯楽や過去の活動について質問をし、答えることができる。 | P51参照 |
| №59 | A2 | 話すこと（やりとり） | 【製品やサービスを得るための取引】日常品やサービスを求めたり、提供したりできる。 | P51参照 |
| №60 | A2 | 話すこと（発表） | 【長く一人で話す：経験談】事項を列挙して簡単に述べたり、物語ることができる。自分の周りの環境、例えば、人や場所、仕事、学習経験などの日常を述べることができる。 | P53参照 |
| №61 | A2 | 聞くこと | 【包括的な聴解】もし、はっきりとゆっくりとした発音ならば、具体的な必要性を満たすことが可能な程度に理解できる。 | P53参照 |
| №62 | A2 | 話すこと（やりとり） | 【対話相手の理解】時々繰り返しや言い換えを求めることが許されるなら、自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした、共通語での話は大抵理解できる。 | P53参照 |
| №63 | A2 | 話すこと（発表） | 【長く一人で話す：経験談】計画、準備、習慣、日課、過去の活動や個人の経験を述べることができる。 | P55参照 |
| №64 | A2 | 聞くこと | 【他の話者同士の対話の理解】ゆっくりと、はっきりとした議論なら、自分の周りで議論されている話題は大方分かる。 | P55参照 |
| №65 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。 | P57参照 |
| №66 | A1 | 話すこと（発表） | 【長く一人で話す：経験談】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができる。 | P57参照 |
| №67 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。 | P59参照 |
| №68 | A1 | 話すこと（やりとり） | 【目的達成のための協同作業】 人に物事を要求したり、与えることができる。 | P59参照 |

※現状において、JLPTのレベルと日本語参照枠のレベルの対応付けは公表されていませんが、本事業では、
おおよそのレベル相当として、N5をA1、N4をA2、N3をB1、N2をB2、N1をC1と読み替えて記載しています。

# A.C.C.国際交流学園学校（静岡県富士宮市）

## 実施クラス：留学生（就職）を対象としたレベルA1のハイブリッド型授業

A1 | ハイブリッド | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1991年 | 主要コース | 進学 | 主要な学習者 | 大学進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | ● 30年の伝統と多くの進学・就職実績を持ち、一人ひとりに合わせて選べる目的別指導を提供<br>● 大学院進学特化カリキュラム等様々なカリキュラムに加え、オリジナル教材を提供することで、外国人留学生の能力向上を目指す<br>● A.C.C国際交流学園の分校であるACCミャンマーは、日本での就職を希望する200名余りが在学している | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **現地ミャンマー校の教師と協力し、現地教師による対面のサポートと日本校教師によるオンライン授業の両方をハイブリット形式で行うことで、学習者の能力向上を実現した。また、現地教師と日本校の教師でハイブリッドの授業を行うことで、来日経験のない現地教師の能力向上にも寄与した。**
- **今後はオンライン授業を継続していくにあたっての意義や、対面授業では得られない効果といった点をより深堀、整理した上で、オンライン授業の継続を検討していきたい。**

### 実証事業背景

ミャンマーの不安定な国情により経費支弁能力が低下する中、来日後1年後に就職を希望する学習者がほとんどであり、そのニーズを満たすためには、ミャンマーでの教育の質を上げることが課題となっており、オンライン授業の必要性を感じていた。

### 実証目的

オンライン授業の教材や技術、また教育を担える人材が不足していたため、本事業に参加することで、課題を解決することができると考え実証に参加。また、入国がまだ確定できない学習者のモチベーションも維持できると期待した。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| レベル | A1 | 言語能力 | 話す（やりとり）、聞く、読む、書く |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | ハイブリッド | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生 |
| 参加スタイル | オンライン | 学習者人数 | 2クラス40名（1クラス20名） |
| 学習者の主な出身国・地域 | ミャンマー | 実施期間 | 2022年10月～12月<br>授業3時間半×計20回 |
| 使用教材 | いろどり　生活の日本語、　スーパー日本語 | 学習者の使用機器 | スマートフォン・PC |

| | |
|---|---|
| 重点目標 Can-Do | ①話す（やりとり）：【対話相手の理解】時々繰り返しや言い換えを求めることが許されるなら、自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした、共通語での話は大抵理解できる。<br>②聞く：【包括的な聴解】もし、はっきりとゆっくりとした発音ならば、具体的な必要性を満たすことが可能な程度に理解できる。 |
| 独自目標 | ①受講後の学習者・ミャンマー校職員対象のアンケートにおいて「満足」が70％以上<br>②終了後実施の言語知識を問うテストの成績が、開始前と比較し90％の学習者が、20％UP |

#### ■カリキュラムの概要

- 日本での就労を希望し、近い将来来日を予定している学習者が、来日後スムーズに日本の生活に慣れ、安定した就労が可能になる日本語教育を目標に実施。（日本語レベルはN4レベル相当の言語習得を目標）
- 日本語についてのある一定の知識は持っているものの、日本語の運用、日本人とのコミュニケーションは困難であるという課題を解決するため、生活の日本語と知識向上を両輪に教育を実施。
- 現地ミャンマー校の教師と協力し、現地教師による対面のサポートと日本語教師によるオンライン授業の両方をハイブリット形式で実施。
- カリキュラム構成は「いろどり」「スーパー日本語」の構成に沿って構築、教材に沿った授業の進行を行った。スーパー日本語は内容を全体的に網羅し、いろどりは日本の生活に特に密着している内容を抜粋して授業を実施。

| 回 | 対象スキル | 概要 | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 全20回 | 対象とする全スキル | 授業は基本的に教材の構成に沿って実施 | いろどり／スーパー日本語 | ハイブリッド |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

- 現地ミャンマー校の教師と協力し、現地教師による対面のサポートと日本校教師によるオンライン授業の両方をハイブリット形式で行うことで、学習者の能力向上を実現した。
- 反転学習を行うことで、日本で必要となる基礎的なコミュニケーション力を身に着けた。一方で、事前学習の実施状況は学習者間で差があり、進捗が芳しくない学習者には連絡を取って実施を促したり、授業で声がけをする等の対応を行った。

**構成**

- オンライン授業は、画面の切り替え等、対面授業にはなかった作業が派生するため、時間に少し余裕を持ったカリキュラム構成とした。結果、スムーズな授業の運営ができ、余った時間などは会話の時間に充てるなどの対応を行った。
- 読む・聞くのインプットが中心になり、話す・書くのアウトプットが劣後しがちにつき、話す・書くの時間をしっかり設けることが大切になると考える。

**運営**

- ミャンマー校と日本校の教師で、クラス開始前に協議の場を設け、Zoomの利用方法やデジタルテキストと音声の活用方法等を学ぶ機会を設けた。ミャンマーは停電の頻度が多いため、インターネット接続が切れた際は、現地教師が確認テストを行うなど、時間を有効的に活用できるように、対応について予め取り決めを行った。
- 学習者の興味関心を維持するために、教材に沿った授業に加え、日本の歌を学び、みんなで歌う機会などを設けた。

オンライン授業の様子①

オンライン授業の様子②

## 成果と課題

**【成果】**

- ミャンマー語を母国語とする教師が参加することで、難しい内容はミャンマー語で補足説明する等、ハイブリットならではの方法で、学習者の理解を深めることができた。
- ミャンマー教師は日本語は堪能であるが、来日経験がなく日本人との交流がないため、日本校の教師と協力して授業を行うことで、教師自身の能力向上にも寄与した。

**【課題】**

- 今回の実証を経て、オンライン教育の効果は実感できたものの、今後継続して実施していくにあたっての意義や対面授業では得られない効果といった点をより深堀して検討していく必要があると感じた。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題等 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | ①【対話相手の理解】時々繰り返しや言い換えを求めることが許されるなら、自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした、共通語での話は大抵理解できる。<br>②【包括的な聴解】はっきりとゆっくりとした発音ならば、具体的な必要性を満たすことが可能な程度に理解できる。 | ①アンケート調査において、多くの学習者が最初は理解度できなかったが、最終的に聞いてわかるようになったと回答していたことから達成と判断する。<br>②教師の説明に対し、序盤の学習者の反応は理解できていなかったように見受けられたが、終盤はミャンマー校の教師が通訳に入る機会もほとんどなく、概ね理解できている様子であり、達成したと判断する。 | – |
| 独自目標 | ①受講後の学習者・ミャンマー校職員対象のアンケートにおいて「満足」が70％以上<br>②終了後実施の言語知識を問うテストの成績が、開始前と比較し90%の学習者が、20%UP | ①アンケート結果において、「とても楽しかった・楽しかった」が、100％　「授業を受けてとてもよかった・良かった」が、100% との回答を得たことにより、「満足」していると判断する<br>②85.2％の割合で20%以上の伸び率を確認。言語知識は、確実に向上したと見られる。 | 目標の90％には届かなかったが、達成に至らなかった4名の事前テストの成績はもとより高く、20%の向上が難しかったと考える。 |

## 今後の取組

- 今後も、オンライン授業の実施は継続していきたいと考えている一方で、継続して実施していくにあたっての意義や対面授業では得られない効果といった点をより深堀して検討していく必要があると感じている。
- オンライン教育を実施していく場合は、入国前の1年（オンライン）で日本語レベルを高め、入国後の1年で就職できるレベルへの教育を行うといった繋がりのあるカリキュラムを提供していきたい。また、他国での実施も検討している。

# 神戸東洋日本語学院（兵庫県神戸市）

## 実施クラス：留学生（進学・就職・一般）を対象とし、A1/A2到達を目指すハイフレックス型授業①

A1 | A2 | ハイフレックス | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 2003年 | 主要コース | 進学 | 主要な学習者 | 進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 大学・大学院・専門学校への進学を目指す学習者が多く、出願から大学院の専門的な研究計画書の書き方の指導等、学習者一人ひとりのニーズに合わせたクラス・サポートを展開。また、日本語能力試験・留学試験等の公的試験対策を、通常授業で対応するとともに、選択式授業も提供している。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **日本人のイントネーションや発話スピードを真似て、来日後の日本語学習をスムーズに実施できるよう「話す」の能力UPに特段注力したカリキュラムを構成**
- **実証の結果、宿題提出の管理に課題が有り、既存の管理アプリケーションや学習者とのSNSグループの活用に加えて、現地校との連携強化を今後検討**

### 実証事業背景

コロナ禍で本校への入学待機者のキャンセルが相次ぎ、今後の入学予定者の留学モチベーションを維持したいと考えていた。また、入学後に学習がスムーズに進まない学習者がおり、入学初期は学習サポートに時間を要してしまう現状があった。

### 実証目的

①日本留学へのモチベーションの維持と、②渡日後の学習効果の向上を目的に、「渡日前」の外国人に対してオンライン授業を展開。今後のオンライン・Eラーニング事業を見据えて、事業を展開する体制を整える。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | 入門からA1到達を目指す<br>A1からA2到達を目指す | 対象スキル | 話す（やりとり）/話す（発表）/聞く/読む/書く/日本事情・日本理解 |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | ハイフレックス | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生（進学） |
| 参加スタイル | 母国からの参加（留学生） | 学習者人数 | 5名 |
| 学習者の主な出身国・地域 | 中国 | 実施期間 | 2022年8月～9月までの2か月間 |
| 使用教材 | JLPT実力アップコース/いろどり 生活の日本語<br>/Magic Pocket | 学習者の使用機器 | ＰＣ、スマートフォン、タブレット |

| 重点目標 Can-Do | 【話す（やりとり）】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる<br>【話す（発表）】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができる |
|---|---|
| 独自目標 | ①事前・事後テストの点数が平均5%程度アップ |

#### ■カリキュラムの概要

- 渡日前に基礎を定着させることを目的に、コミュニケーション力と語彙力アップに重きを置いたカリキュラムを構成。
- 午前・午後合わせて全41回の授業を受けることでA1レベルを充足できることを主な狙いとした。
- カリキュラムは大きく2部構成（①『いろどり』入門（A1）、②スーパー日本語とMagic Pocketを使用したオンライン授業）とし、渡日後の不安を取り除くことを目的に日本文化や神戸の紹介を交えた授業を実施。また、カリキュラムの最後にまとめテストを実施。

| | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 午前 | 話す（やりとり）<br>話す（発表） | 日常会話がスムーズにできる<br>自分の言葉で物事を説明できる | いろどり 生活の日本語 | オンライン（Zoom） |
| 午後 | | 会話で使用する語彙や文型を習得する | スーパー日本語/Magic Pocket | |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

**【教材】**

- 事前のレベル分けテストを基に、学習者が飽きずに日本語学習へのモチベーションを維持できるよう複数教材を組み合わせた。
- 午前の授業で「いろどり」に沿って①その課で活用する語彙を学習して、続けて②会話文を用いて文法を学習する。そして③自分で会話文を作成し、発話を行う。午後の授業は「スーパー日本語」及び「Magic Pocket」を活用し、ドリル形式で演習した後、解説した。これをルーティンとして、授業を実施。

**構成**

**【全般】**

- ひらがなやカタカナの読み書き練習やテストを学習初期の段階で取り入れ、教材が読めないことによる学習ペースが落ちないよう対応した。

**運営**

**【募集】**

- 中国の提携校と連携し、本校に入学する予定の学習者を対象に募集を行った。

**【事前準備】**

- 授業開始前に事務局によるZoomで実施された教材についての説明会に教材開発担当教師が参加。説明会では教材やアプリの使用方法について説明を受けた。
- 教材開発を担当した教師が授業担当の教師に向けて事前トレーニングを実施。事前トレーニングでは教材やアプリの詳細な使い方をレクチャーした。

オンライン授業を実施している教師の様子

Zoomでオンライン授業に参加している学習者の様子

## 成果と課題

**【事前・事後テスト（目標達成基準： 点数平均５％程度アップ）】**

- 事前と事後で同内容のテストを実施することで、授業終了後の成長度合いを測った。
- テストは従来から本校で実施しているクラス分けテストを本事業用に改編した。構成としてA1からB1終了レベルまでの範囲を全て網羅した内容で作成しており、第1問から順番に難易度が上がっていく形で作問している。
- 内容としてはひらがな50音の穴埋めから文法・漢字を含む語彙・読解と多岐にわたる。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | • 【話す（やりとり）】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる<br>• 【話す（発表）】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができる | • 【話す（やりとり）】ゆっくり説明すれば、内容を理解できており、授業内の指示も受け取ることができるようになった。<br>• 【話す（発表）】学習者自身が自分のことを説明したり、学習者間でコミュニケーションを取れるレベルまで達していた。 | **①携帯アプリが使用できる環境**<br>• 一部の機種のスマートフォンを使用している学習者は、自主学習用に準備していたアプリを使うことができなかった。授業では画面共有をすることで対応したが、全員の学習者に当初想定していた自主学習の機会を提供することができなかった。<br>**②継続的な事業の実現**<br>• 本事業が無償であり、オンラインでしかコミュニケーションが取れないことや現地のスケジュールの都合等の理由で一部の学習者が途中から授業に参加しなくなるケースがあった。<br>• 本校に在籍する中国人スタッフがSNSのチャットなどを通してコミュニケーションをとっていたが、状況は改善しなかった。 |
| 独自目標 | • 事前・事後テスト（目標達成基準： 点数平均５％程度アップ） | • 事前事後テストの結果、平均で約5%の点数アップが見られ、目標を達成した。<br>• 多くの学習者が事後テストの方が点数が高く、目標レベルに近いN5、N4の内容の正答率が高い傾向にあった。 | |

## 今後の取組

オンライン教育の提供により、渡日後の日本語学習の効果は向上しているため、今後もオンライン教育を継続していきたい。しかし、オンライン授業だと対面授業と比較してコミュニケーションが不足してしまうため、宿題を適切に管理し、学習者の提出率を高めることが難しいと考えている。今後オンライン教育を実施するにあたり、既存アプリケーションの利用やSNSグループの活用などに加えて、現地校との連携強化を検討していきたい。

# 神戸東洋日本語学院（兵庫県神戸市）

## 実施クラス：留学生（進学・就職・一般）を対象とし、A2/B1到達を目指すハイフレックス型授業①

A1 | A2 | ハイフレックス | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 2003年 | 主要コース | 進学 | 主要な学習者 | 進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 大学・大学院・専門学校への進学を第一にサポートし、出願から大学院の専門的な研究計画書の書き方の指導といった学習者一人ひとりのニーズに合わせたクラスを展開している。また、日本語能力試験・留学試験などの公的試験対策を、通常授業で対応するとともに、選択式授業も提供している。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **日本人のイントネーションや発話スピードを真似て、来日後の日本語学習をスムーズに実施できるよう「話す」の能力UPに特段注力したカリキュラムを構成。**
- **実証の結果、現地の学習者への渡日前学習のニーズはあるが、今後の人員確保や教材開発に課題があり、オンデマンド形式との組み合わせも含めた授業形態等を検討。**

### 実証事業背景

コロナ禍で本校への入学予定者のキャンセルが相次ぎ、留学モチベーションを維持することが課題としてあった。また、入学後に学習がスムーズに進まない学習者が一定数いるため、入学初期は学習のサポートに時間を要してしまう現状があった。

### 実証目的

①留学モチベーションの維持と、渡日後の学習効果の向上を目的に「渡日前」の外国人に対してオンライン授業を展開。
②今後積極的にオンラインを活用した授業を展開するために、推進体制を整える。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | A1からA2到達を目指す<br>A2からB1到達を目指す | 対象スキル | 話す（やりとり）/話す（発表）/聞く/読む/書く/日本事情・日本理解 |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向）/オンデマンド/ハイブリッド/ハイフレックス | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生（進学） |
| 参加スタイル | 母国からの参加（留学生） | 学習者人数 | 8名 |
| 学習者の主な出身国・地域 | 中国 | 実施期間 | 2022年8月～9月までの2か月間 |
| 使用教材 | いろどり 生活の日本語/スーパー日本語/Magic Pocket | 学習者の使用機器 | PC、スマートフォン、タブレット |

| 重点目標 Can-Do | 【話す（やりとり）】娯楽や過去の活動について質問をし、答えることができる<br>【話す（発表）】物語を語ることができる |
|---|---|
| 独自目標 | ①事前・事後テストの点数が平均5%程度アップ |

#### ■カリキュラムの概要

- 来日後の学習がスムーズに進むよう、コミュニケーション力と語彙力アップに重きを置いたカリキュラムを構成。
- 午前・午後合わせて全27回の授業を受けることでA2レベルを充足できることを主な狙いとした。
- カリキュラムは大きく2部構成（①『いろどり』入門（A2）、②スーパー日本語とMagic Pocketを使用したオンライン授業）とし、渡日後の不安を取り除くことを目的に日本文化や神戸の紹介を交えた授業を実施。また、カリキュラムの最後にまとめテストを実施。

| | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 午前 | 話す（やりとり）<br>話す（発表） | 日常会話がスムーズにできる<br>自分の言葉で物事を説明できる | いろどり 生活の日本語 | オンライン（Zoom） |
| 午後 | | 会話で使用する語彙や文型を習得する | スーパー日本語/Magic Pocket | |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

**【教材】**

- 事前のレベル分けテストを基に、学習者が飽きずに日本語学習へのモチベーションを維持できるよう複数教材を組み合わせた。
- 午前の授業で「いろどり」を活用し、①その課で活用する語彙を学習し、続けて②会話文を用いて文法を学習する。そして③自分で会話文を作成し、発話を行う。午後の授業は「スーパー日本語」及び「Magic Pocket」を活用し、ドリル形式で演習した後、解説した。これらをルーティンとして、授業を実施。

**構成**

**【全般】**

- 教材を活用するだけでなく、学校の周囲の様子をカメラで映す等の機会を設け、授業スタイルにバリエーションを持たせ、参加意欲を高める工夫をした。

**運営**

**【募集】**

- 中国の提携校と連携し、本校に入学する予定の学習者を対象に募集した。

**【事前準備】**

- 授業開始前に事務局によるZoomで実施された教材についての説明会に教材開発担当教師が参加。説明会では教材やアプリの使用方法について説明を受けた。
- 教材開発を担当した教師が授業担当の教師に向けて事前トレーニングを実施。事前トレーニングでは教材やアプリの詳細な使い方をレクチャーした。

オンライン授業を実施している教師の様子

Zoomでオンライン授業に参加している学習者の様子

## 成果と課題

**【事前・事後テスト（目標達成基準： 点数平均５％程度アップ）】**

- 事前と事後で同内容のテストを実施することで、授業終了時の成長度合いを測った。
- テストは従来から本校で実施しているクラス分けテストを本事業用に改編した。構成としてA1からB1終了レベルまでの範囲を全て網羅した内容で作成しており、第1問から順番に難易度が上がっていく形で作問している。
- 内容としてはひらがな50音の穴埋めから文法・漢字を含む語彙・読解と多岐にわたる。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | • 【話す（やりとり）】娯楽や過去の活動について質問をし、答えることができる<br>• 【話す（発表）】物語を語ることが出来る | • 話す（やりとり）については、学習者の間で差はあるものの、教師からの問いかけに対し詳細に説明できるようになった。<br>• 話す（発表）については、日本文化と中国文化の違いを自分の言葉で説明できるようになった。 | **①使用教材の活用**<br>• 取り扱う内容に偏りがあり、教材だけでは授業内の演習として不足する場合があった。<br>**②継続的な事業の実現**<br>• 本事業が無料であり、オンラインでしかコミュニケーションが取れないことや現地のスケジュールの都合等の理由で一部の学習者が途中から授業に参加しなくなるケースがあった。<br>• 本校に在籍する中国人スタッフがSNSのチャットなどを通してコミュニケーションをとっていたが、学習者との出席のやり取りに関しては課題が残った。 |
| 独自目標 | • 事前・事後テスト（目標達成基準： 点数平均５％程度アップ） | • 事前事後テストの結果、平均で約5点の点数アップが見られた。 | |

## 今後の取組

現地学習者への渡日前学習のニーズがあることから、今後もオンライン授業を継続したい。オンライン教育によって、本校入学後の日本語教育の学習効果を向上できたと考えている。しかし、学習者の生活スタイルに合わせる形でオンライン授業を提供するためには新規専任教師を探す等、大幅な工数と費用がかかる。そのため、オンデマンド形式の教材を作成し、オンライン授業を補完することで、教師の負担を抑えた事業展開を検討する必要があると考えている。

# エール学園日本語教育学科（大阪府大阪市）

## 実施クラス：中上級ビジネス日本語

B1 | B2 | オンライン | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

## 教育機関概要

| 設立年度 | 1967年 | 主要コース | 進学 | 主要な学習者 | 大学進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | ● エールは50年以上の大学進学指導の歴史、10万人の実績、20年以上の留学生教育をもとに、留学生の志望大学合格を実現<br>● 大阪の日本語学校から東京・名古屋・九州などの大学・大学院にも多数進学実績あり<br>● 独自の日本語能力判定試験を実施。弱点を細かく分析できるので、客観的に実力が把握でき、学習者からも教師からも高い評価を得ている | | | | |

## 実証結果のサマリ

- **オンライン授業を通して学習者が日本の生活やマナーを学ぶことができ、日本留学へのモチベーション維持に繋がった。今後も、海外在住学習者向けのクラスを対象にオンライン授業の継続を検討したい。**
- **話す・聞くといった能力はオンラインでの能力向上を図りやすい一方で、読む・書くといった能力はオンラインでの能力向上は難しいと感じた。そのため、今後はオンライン授業において4つの能力をバランスよく向上できるような方法を検討する必要があると考える。**

## 実証事業背景

新型コロナの影響により海外からの日本留学希望者が減少している状況において、これまで当学園が培ってきたネットワークを生かして日本留学の魅力を海外に発信して留学希望者の掘り起こしを行った。また、海外における教師の不足により、留学希望者からの会話授業のニーズがあった。

## 実証目的

潜在的学習者の掘り起こしや留学モチベーションの維持に向けたフォローを実施を目的とし、本事業へ参加した。

## 取組内容

### ■クラスの基本情報

| レベル | B1,B2 | 言語能力 | 話す（やりとり）、話す（発表）、聞く、読む、書く、日本事情・日本理解 |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生 |
| 参加スタイル | 母国からの参加 | 学習者人数 | 2クラス37名 |
| 学習者の主な出身国・地域 | ベトナム | 実施期間 | 2022年8月～11月 |
| 使用教材 | オリジナルPPT | 学習者の使用機器 | ＰＣ、携帯電話／スマートフォン、iPad／タブレット |

| 重点目標 Can-Do | 話す(発表)：【聴衆の前での講演】事前に用意されたプレゼンテーションをはっきりと行うことができる。ある見方に賛成、反対の理由を挙げて、幾つかの選択肢の利点と不利な点を示すことができる。 |
|---|---|
| 独自目標 | ①学習者による満足度アンケートにおいて「満足」が75％以上<br>②ビジネス場面における日本語表現の理解と発話の定着 |

### ■カリキュラムの概要

- 日本語を専攻している在ベトナムの大学生に対して、中上級レベルのビジネス日本語会話の習得を目的とした授業を実施。
- 日本留学後の日本就職や現地日系企業就職を目指す学習者のニーズを満たすため、ビジネスマナーや日本企業理解に関するテーマも並行して扱うことで実践的な内容で構成。
- 日本事情の理解においては事務局からのデジタル教材を使用することで、効率的なオンライン授業の運営を試みた。受講前と受講後にWEB聴解試験を行い、基本的なビジネス日本語会話の理解度を測るとともに、講座終盤では学習者によるプレゼンテーションにより習得度の評価を行うこととした。

| 週 | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 第1-5週 | 話す（やりとり）・聞く | 日本語を使った簡単なコミュニケーション、ビジネスマナーを学ぶ | オリジナルPPT | オンライン |
| 第6-10週 | 日本事情 | 日本事情（冠婚葬祭、食のマナー等）を学ぶ | オリジナルPPT | オンライン |
| 11週ー14週 | 話す（発表） | 学習者は旅行会社の社員という設定で「ベトナムのおすすめ紹介」に関するプレゼンテーションを実施 | オリジナルPPT | オンライン |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

- 教材は学習者のレベルや興味に合わせてオリジナルに作成し、写真を多く盛り込み、視覚で理解し易い工夫を行うことで、オンライン授業における理解度を高めた。
- 「読む・書く」はオンライン授業での確認が難しく成果を測るのが困難だったが、「読む」は教材を活用して、学習者が読み上げる、また、「書く」はビジネスメールの書き方をカリキュラムに入れ、メール送付してもらうことで指導を行い、成果を確認した。

**構成**

- 対面の場合、日本事情について、学習者は日常的なマナーや食文化を自ら学ぶことができるため授業でのフォーカスはしないが、今回は学習者が全員ベトナムにいたため、日本でしか知ることができないような内容を入れ込むことで日本の生活を追体験できるようにした。例：レストランマナー等
- カリキュラムを日本の日常場面から、ビジネス場面に移行していく構成とすることで、学習者の理解がより深まったと考える。

**運営**

- 教師の事前準備として、オンライン授業への取り組み方や効果、各種ツールの活用と応用に関するWEB研修動画の確認を行うとともに、デジタル教材の内容把握と授業への展開のための教材研究を実施した。
- 学習者に対してSNS（LINE）等を活用した定期的な連絡（授業のアナウンス等）を行うことで受講モチベーション維持に心掛けた。
- 当初想定のカリキュラムにこだわらず、学習者の興味分野に応じて柔軟な授業を行った。（例：七五三について知りたいという要望への対応）

- オンライン授業の様子①

- オンライン授業の様子②

## 成果と課題

**【成果】**

- オンライン授業を通して学習者が日本の生活やマナーを学ぶことができ、日本留学へのモチベーション維持ができた。
- カリキュラムを日本の日常場面から、ビジネス場面に移行していく構成とすることで、学習者の理解がより深まり、能力の向上が図れたと考える。

**【課題】**

- 話す・聞くといった能力はオンラインでの能力向上を図りやすい一方で、読む・書くといった能力はオンラインでの能力向上は難しいと感じた。そのため、今後はオンライン授業において4つの能力をバランスよく向上できるような方法を検討する必要があると考える。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | 【聴衆の前での講演】事前に用意されたプレゼンテーションをはっきりと行うことができる。ある見方に賛成、反対の理由を挙げて、幾つかの選択肢の利点と不利な点を示すことができる。 | プレゼンテーションに向けた練習を複数回行うことで、最終的にプレゼンテーション能力の向上が見られた。プレゼンテーションでは、国についての紹介などを行った。 | 発表用資料のPPT作成などにおいて学習者間で作成スキルのレベルが異なっていたため、スキルの高くない学習者たちへのフォローを行う必要があった。 |
| 独自目標 | ①学習者による満足度アンケートにおいて「満足」が75％以上<br>②ビジネス場面における日本語表現の理解と発話の定着 | ①講座終了後のアンケート調査の結果、回答した全員が「とても満足(76.2%)」または「満足(23.8%)」と回答と目標を達成した。<br>②受講前後の試験では、聴解試験(20点満点)で平均0.75ポイントの上昇、インタビュー及びプレゼン形式の会話試験(30点満点)で平均2.26ポイントの上昇が見られたころから、当初の目標は達成と考える。 | ビジネス場面において、実演が好ましいシーン（例：名刺交換など）について、実演ができないため、写真等を提示することで対応した。 |

## 今後の取組

- 今後のオンライン教育は①コロナの状況で必要とされる場合、②海外に在住している学習者へのクラスを開催する場合、の2つの状況において実施を継続していきたいと考えている。
- オンラインで学習できる文法の動画を作成し、動画を閲覧した後に、オンラインで確認テストを実施する仕組みを現在開発しており、今後実用を試みていきたい。

# エール学園日本語教育学科（大阪府大阪市）

## 実施クラス：初級日本語会話

A1 | A2 | オンライン | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1967年 | 主要コース | 進学 | 主要な学習者 | 大学進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | ● 50年以上の大学進学指導の歴史、10万人の実績、20年以上の留学生教育をもとに、留学生の志望大学合格を実現<br>● 大阪の日本語学校から東京・名古屋・九州などの大学・大学院にも多数進学実績あり<br>● 独自の日本語能力判定試験を実施。弱点を細かく分析できるので、客観的に実力が把握でき、学習者からも教師からも高い評価を得ている | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **今回オンライン授業を行ったことで、海外にいる学習者への日本語教育が実現したことはとても良かったと感じている。現地学習者の日本語能力向上に貢献したと同時に、日本や大阪についての魅力を伝えることで、日本への興味関心が高まり、留学へのモチベーション向上に繋がったのではないかと考える。**
- **今後、オンライ授業を実施する場合は、「授業の運営面」や「4つの能力をバランスよく向上できるような方法」といった点については課題が残っており、改善に向けた検討を行っていきたい。**

### 実証事業背景

新型コロナの影響により海外からの日本留学希望者が減少している状況において、これまで当学園が培ってきたネットワークを生かして日本留学の魅力を海外に発信して留学希望者の掘り起こしを行った。また、海外における教師の不足により、留学希望者からの会話授業のニーズがあった。

### 実証目的

潜在的学習者の掘り起こしや留学モチベーションの維持に向けたフォローを実施を目的とし、本事業へ参加した。

### 取組内容

**■クラスの基本情報**

| レベル | A1,A2 | 言語能力 | 話す（やりとり）、話す（発表）、聞く、読む、書く |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生・その他 |
| 参加スタイル | 母国からの参加 | 学習者人数 | 17名 |
| 学習者の主な出身国・地域 | 中国・インドネシア | 実施期間 | 2022年8月～11月 |
| 使用教材 | 実際の授業で使用しているオリジナル教材、PPT、プリント | 学習者の使用機器 | ＰＣ、携帯電話／スマートフォン、iPad／タブレット |

| | |
|---|---|
| 重点目標 Can-Do | ①話す（やりとり）：【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。<br>②話す（やりとり）：【情報の交換】娯楽や過去の活動について質問をし、答えることができる。 |
| 独自目標 | ①学習者による満足度アンケートにおいて「満足」が75％以上<br>②授業内で導入・練習する日常会話の定着、即時応答における正答率アップ |

**■カリキュラムの概要**

- 初級日本語を学習している学習者に対し、日本留学の促進を目的とした会話授業を実施。
- 海外では日本人教師の不足により会話授業であっても日本人が担当しておらず、学習者の発音や聴解力に問題が見られるケースが多いことから、生活の様々な場面における会話を取扱い、できる限り学習者が発話の機会を多く持てるように、反復練習や代入練習の時間を長く取る形で授業を進行。
- 授業は特に「話す」「聞く」の能力にフォーカスし、日常的な様々なシーンにおける会話の上達や、自分や物事についての説明ができること等を目標とし、オリジナル教材を作成して実施した。

## 取組の特徴や工夫点

**質**

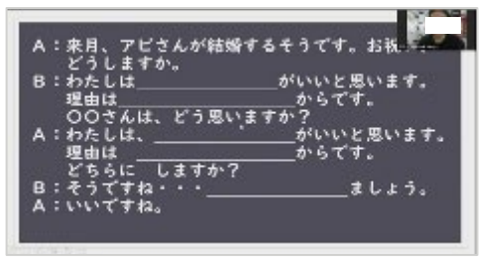
- 教材はクラスレベルや対象スキルに合わせてオリジナルにPPTで作成。学習者が「興味関心を持つことができる」、かつ「海外にいてもイメージがしやすいテーマ」を基に主に話す・聞くの能力にフォーカスした教材を作成。
- PPTはZoomでの画面共有を行うため、イラスト選びや文量の調整を行うことで、視覚的に見やすいものとなるように工夫した。

**構成**

- 自然な日本語のやりとりの定着を目指して、会話の機会を多く設けた。ブレイクアウトルームを活用すること等で、1：1のコミュニケーション機会を増やした。
- 授業は、海外にいる学習者が「イメージしやすいテーマ」を主に構成したが、一部のテーマ（日本の祝日等）については少し内容が難しく一方的な授業となってしまい、学習者の理解度の把握が難しい等の課題も発生したため、レベルに応じたテーマ選びが重要であると考える。

**運営**

- 学習者のモチベーションを維持するために、授業内では漫画や扇子、日本のお土産等実物を用意し、カメラで見せる等の工夫を行った。
- 教師の事前準備として、オンライン授業への取り組み方や効果、各種ツールの活用と応用に関するWEB研修動画の確認を行った。一方で今回は学習者向けのZoom利用マニュアルのようなものはなかったため、そのようなものがあれば、よりスムーズな運営ができたと考える。
- 学習者に対してSNS（LINE）等を活用した定期的な連絡（授業のアナウンス等）を行うことで受講モチベーション維持に心掛けた。




オンライン授業の様子①

オンライン授業の様子②

## 成果と課題

**【成果】**
目標として定めたCan-doや独自目標は達成することができ、オンライン教育における学習者の能力向上は達成できたと考える。また、今回の実証参加目的である、潜在的学習者の掘り起こしや留学モチベーションの維持といった点については、授業の一部として、日本や大阪についての魅力を伝えることで日本への興味関心が高まり、留学へのモチベーション向上にも繋がったと考える。
**【課題】**
今回は主に話す・聞くにフォーカスした授業構成とし、読む・書くは一部でのみしか扱わなかったが、オンライン授業において 4つの能力をバランスよく向上できるような方法を検討する必要があると考える。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | ①【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。<br>②【情報の交換】娯楽や過去の活動について質問をし、答えることができる。 | ①②自分の言いたいことを相手に伝えたり、相手のことや、家族のことを質問したりする等、会話のやりとりができるようになっていたため、達成したと判断する。 | 会話や発表の際に、学習者が話したい内容に対して、教師が事前準備していた語彙や場面が追い付かないときがあり、事前準備を工夫することでもう少し学習者のフォローができたと考える。（例：その国特有の食べ物やイベント等） |
| 独自目標 | ①学習者による満足度アンケートにおいて「満足」が75％以上<br>②授業内で導入・練習する日常会話の定着、即時応答における正答率アップ | ①講座終了後のアンケート調査の結果、回答した全員が「とても満足(76.2%)」または「満足(23.8%)」と回答、目標達成と判断する。<br>②聴解試験(20点満点)で平均2.15ポイントの上昇、インタビュー試験(30点満点)で平均3.15ポイントの上昇が見られたため、目標達成と判断する。 | 今回はテストで成果を図ることができたが、対面授業と異なり、オンラインの場合は翻訳機を使っていないかどうか、等の判断ができないため、そういった点で成果を図るのが難しいと感じた。 |

## 今後の取組

- 今後のオンライン教育は①コロナの状況で必要とされる場合、②海外に在住している学習者へのクラスを開催する場合、の2つの状況において実施を継続していきたいと考えている。
- オンラインで学習できる文法の動画を作成し、動画を閲覧した後に、オンラインで確認テストを実施する仕組みを現在開発しており、今後実用を試みていきたい。

# 熊本YMCA学院日本語科（熊本県熊本市）

## 実施クラス：留学生（進学）を対象とし、A1到達を目指すオンライン型授業＋オンデマンド授業

A1 | オンライン | オンデマンド | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1948年 | 主要コース | 進学 | 主要な学習者 | 進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 進学・就職を見据えたカリキュラムを展開しており、プロジェクトワークやコンピューター演習などの授業内容も取り扱っている。また、「生きた日本語」の習得を目的として、一般社会人との交流機会やボランティア活動の機会を設けている。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **授業の進め方を柔軟に設定することで、その日の学習者の理解度に沿った授業を実施した。**
- **今回の実証の結果、オンライン授業では学習者が書いた文字をタイムリーにフィードバックすることが難しく、学習者の文字の癖を修正する等に課題があり、運用含め対応を検討していく。**

### 実証事業背景

渡日前に本格的な日本語学習を受ける学習者が少なく、入学後に学習がスムーズに進まない学習者が一定数いる。そのため、入学初期は学習のサポートに時間を要してしまい、中・上級の学習時間を十分に確保することが難しい現状があった。

### 実証目的

渡日後の学習効果の向上を目的に、「渡日前」の外国人にオンライン授業を展開。入国前からひらがなやカタカナの読み書きや日常の挨拶など簡単な日本語を話すことに親しみ、自己学習の習慣を早く身に付けることを目指した。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | 入門からA1到達を目指す | 対象スキル | 話す（やりとり）/話す（発表）/聞く/読む/書く/日本事情・日本理解 |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向）/オンデマンド | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生（進学） |
| 参加スタイル | 母国からの参加（留学生） | 学習者人数 | 10名 |
| 学習者の主な出身国・地域 | ネパール | 実施期間 | 2022年7月～9月までの3か月間 |
| 使用教材 | いろどり 生活の日本語入門/初級 I | 学習者の使用機器 | スマートフォン |

| 重点目標 Can-Do | 【話す（やりとり）】：人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる<br>【書く（総合的な書く活動）】：簡単な表現や文を単独に書くことができる |
|---|---|
| 独自目標 | ①受講後のアンケートで「日本留学・日本語学習への意欲が上がった」が学習者の50%以上<br>②ひらがな・カタカナの確認テストで90%以上得点。適切なあいさつがスムーズにできる |

#### ■カリキュラムの概要

- 本カリキュラムは大きく2部構成（①オリエンテーション、②『いろどり』入門と初級（A1）を使用したオンライン授業）とし、自己学習でいろどりのオンデマンド教材を使用。また最後にまとめテストを実施。
- 各課のテーマに関連した日本事情を紹介することで効果的な日本語学習を実現するカリキュラムを構成。

| 課 | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 第1-2課 | 話す<br>聞く | 教科書や教材の音声に慣れる | いろどり 生活の日本語 | オンライン（Zoom） |
| 第3 | | 自分・家族の自己紹介ができるようになる<br>他の学習者の自己紹介が理解できる | | |
| 第4 | | 正しい発音・文法で会話できるようになる<br>正しく返答できるようになる<br>メモが取れる・集中して聞く | | |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

**【教材】**
- ひらがな・カタカナの定着を目標に、授業や宿題で繰り返し学習し、目や耳で教材に触れることができるよう、いろどり 生活の日本語の入門から初級第4課までの教材研究を行った。
- 授業の進め方をルーティン化せず、事前学習の理解度によって会話を先に行うなど進め方を柔軟に変更して授業を実施。

**構成**

**【カリキュラム構築】**
- 「発音に慣れる」、「ことばを増やす」、「日常の挨拶や簡単な会話も練習できるようになる」を達成目標に、1 回の授業に内容を詰め込まず、活動に変化が持たせるカリキュラムを作成した。

**運営**

**【募集】**
- ネパールの提携校と連携し、本校に入学する予定の学習者を対象に募集を行った。

**【事前準備】**
- 教師トレーニングとしてPPTやGoogleサービス関連のセミナーに参加。
- セミナーで学んだ知識を確認する目的で、教師間の模擬授業を実施。

**【学習者フォロー】**
- 留学のモチベーションを維持する目的で授業開始後はじめの3週間で週1回の頻度でカウンセリングを実施し、学習状況の把握の他に日本文化や本校の紹介を行った。

Zoomでオンライン授業に
参加している学習者の様子①

Zoomでオンライン授業に
参加している学習者の様子②

## 成果と課題

**【学校独自の効果検証】**
- 日本語学校が独自に実施した効果検証アンケートでは学習者の授業への満足度が高く、日本語で感想を記載する学習者もいた。習得度テストにおいても、学習者の得点率は70%以上であり、ひらがな・口語テストに関しては80%以上の正答率だった。
- ひらがな・カタカナテスト：50音表の虫食い問題、語彙・文字の定着を図る問題を出題。また、リスニング用問題として、教科書で取り扱った問題も出題した。
- 口語テスト：授業で使用したZoomのメインルームにおいて、一人ずつ指名しながら家族の紹介や挨拶などのやりとりなどを通して、発話を確認した。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | • 【話す（やりとり）】<br>人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる<br>• 【書く】<br>簡単な表現や文を単独に書くことができる | • 【話す（やりとり）】<br>人に元気かどうかを聞く等、簡単な日常会話はできるようになった。<br>• 【書く】<br>ひらがな・カタカナの文字の癖を50音の繰り返し練習を通して、少しづつ向上した。 | • オンライン授業の中で①書き方や修正ポイントを示したり、②添削した宿題を確認するだけでは、ネパールの学習者特有の文字の癖を修正することは難しかった。<br>• 全体授業では学習者それぞれが記載した文字をその場で添削することが難しかった。 |
| 独自目標 | • ひらがな・カタカナの確認テストで90％以上得点<br>• 適切なあいさつがスムーズにできる | • 全体の得点率としては、ひらがなテストが82.6%、カタカナテストが70.5%であったが、90%以上得点できた学習者がひらがなテストは3名、カタカナテストは2名おり、一定の効果を確認できた。 | • テストの点数が低い学習者は宿題提出が不完全な傾向にあった。また、授業が進むにつれて、点数が下がる学習者もおり、予復習の力の入れ方に個人差があったと考えている。 |

## 今後の取組

今後もオンライン教育を継続し、様々な背景を持った学習者にオンライン授業を提供したいと考えている。本事業では学習のポイントや宿題提出の必要性を十分に伝達することができなかった。学習者が授業の流れや教師の指示等の授業運営上で必要なことが最低限理解できれば、対面授業と同様の質の授業をオンラインで提供することが可能だと考えている。効率的な授業運営のための具体的な施策を今後検討していく。

# 日本語センター（京都府京都市）
## 実施クラス：初級オンラインコース（一般）

A2 | オンライン | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1979年 | 主要コース | 進学・就職 | 主要な学習者 | 留学生（進学）、留学生（一般） |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | プロのインストラクターが独自に開発した習得ノウハウを活かして、「本当に使える日本語」を学習者に教え込むプログラムを構築している。日々の授業のほかに、授業での学びを総合的に用いることが出来るように学習活動や、プロジェクトワークなど「体験する」「興味のあるテーマを決める」「調査する」「準備する」「発表する」「振り返る」を大事にしていることが特徴である。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **カリュキュラム構成時に、Japanese Expressに基づいてクラスのレベルに沿った構成を検討し、分析を行ったことで、学習者のレベルに合った授業の展開が出来た。また、対話を重視した授業を少人数で行い、個々のニーズに適した授業を実施出来たため、満足度と学習者のスキル向上にも寄与した。**

### 実証事業背景

留学生が減少した新型コロナウイルスの水際対策中に実施していたオンライン授業をより充実したものにしたいと考え、今回の実証事業への参画を決めた。

### 実証目的

渡日後の学習効果の向上を目的に、「渡日前」の外国人にオンライン授業を展開した。また、日本語学習の機会を得ることが困難な日本在住者への潜在的な学習ニーズの検証も行った。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | A2 | 対象スキル | 話す（やりとり）/話す（発表）/聞く/読む/書く/日本事情・日本理解 |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向） | 対象学習者 | 渡日前留学予定/希望生 |
| 参加スタイル | 母国からの参加（留学生） | 学習者人数 | 15名（内本事業対象者数5名） |
| 学習者の主な出身国・地域 | アメリカ、インドネシア、スリランカ、タイ、チェコ、フランス | 実施期間 | 9月~11月（3ヶ月間）<br>※週2回×2時間の全24回 |
| 使用教材 | Japanese Express | 学習者の使用機器 | PC、スマートフォン、タブレット |

| 重点目標 Can-Do | 【話す（発表）】人物や場所について、単純な語句を並べて、述べることが出来る。<br>【話す（発表）】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることが出来る。 |
|---|---|
| 独自目標 | ①受講後の学習者によるアンケート「満足」が70％以上<br>②確認テスト80%以上 |

#### ■カリキュラムの概要

- 将来的に日本留学を希望している海外在住者はもちろん、日本語学習の機会を獲得することが難しい日本在住者を対象に、JLPT N4レベルの語彙・文法を用いた会話（アウトプット）中心の授業を実施した。
- カリキュラムは基本双方のコミュニケーションを重視し、最後の授業では自国の文化などについてプレゼンテーションを行った。

| 週 | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 第1回 | 聞く、話す | レベルチェックで自身のレベルを視覚的に把握する | Japanese Express | オンライン（Zoom） |
| 第2~22回 | 聞く、話す | 対話を重視して日本語を話すことに慣れる | Japanese Express | オンライン（Zoom） |
| 第23回 | 話す | プレゼンテーションとディスカッションを通じて日本語を話すことに慣れる | Japanese Express | オンライン（Zoom） |
| 第24回 | 聞く、話す | インタビュー形式のテストでは当初の日本語力より向上を目指す | Japanese Express | オンライン（Zoom） |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

- 7~8名の少人数制のオンラインクラスを実施し、全ての質問が全員に渡るように心掛けたため、学習者全員に発話のチャンスを作った。
- クラスを引き継ぐ際は、担当しないクラスの進捗も同時に把握することで、現状と今後の授業の進め方を整理でき、円滑に授業を実施出来た。
- PCと携帯の2台でZoomに入り、携帯でブレイクアウトルームの様子を確認するように用途を分けて機器を活用し、状況の把握を行った。

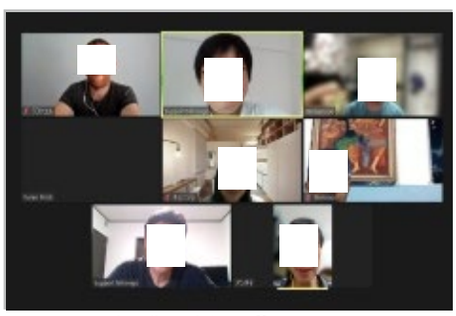
**構成**

- JLPTN4レベルの語彙・文法を用いた会話中心の授業を実施するカリキュラムを作成し、教科書上の例文を扱わず、学習者に身近な場面や実態について扱い、架空ではなくリアルな状況の質問を例文にした。
- 教科書通りの構成ではなく、学習者にとって身近な食や大衆文化から授業を始め、その後は学習者のレベルを慣らすことを考慮し、社会的なテーマを扱う授業を構成した。

**運営**

- 2レベル計4クラスの学習者を募集し、128名の応募者の中から開講するクラスレベルに合う15名を選考した。その後は定員に達するまで3次選考を行い、連絡を取り合いながら、最終的に参加する学習者を確定させた。
- 各指導員が教材を確認しながら、クラスごとに必要なスキルを分析し、授業準備を行った。また、授業開始前は週1回、その後は適宜MTGを設け、進度や文法項目のすり合わせを行い、円滑な運営を心掛けた。

オンライン授業の様子①


オンライン授業の様子②

## 成果と課題

**【学習者向けアンケート結果】**
日本語学校が独自に実施した効果検証アンケートでは学習者の授業への満足度が非常に高く、100%の学習者が「この授業はとても楽しかった」と回答し、目標であった満足度70％以上を達成することが出来た。加えて、12週間で自身の日本語能力が向上したと100％の学習者が回答しており、やりとりを重視した授業の楽しさを結果で垣間見ることが出来た。

**【確認テスト】**
2クラス共に実施前のレベルを超えることが出来た。例えば、A2-1は、授業実施前の平均52項目を大幅に超え、事業実施後には項目82まで答えることが出来るようになり、67/82で81.7%の正答率を達成し、目標の80%を超えることが出来たと言える。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | • 【話す（発表）】人物や場所について、単純な語句を並べて、述べることが出来る。<br>• 【話す（発表）】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることが出来る。 | • 「やりとり」を重視した授業且つプレゼンテーションの機会を多く取り入れたことで、学習者全員が発話する機会を得られ、レベルの違いはあってもミス少なく、やり取りが出来た。また、宿題で課した自国のプレゼンテーションも達成できた。 | • 人数が少なかったため、全員に質問が届き、発話のチャンスを得ることは出来たが、もし人数が多ければ、個々にニーズを合わせた授業を行うことは困難であると感じた。<br>• 対面の場合はラグが発生しないが、オンライン授業の場合はラグが発生するため、発表や個別の時間を増やすことを心掛けた。 |
| 独自目標 | ①受講後のアンケート満足度が70%以上<br>②確認テスト80%以上 | ①100%の学習者が、「授業がとても楽しかった」、「12週間で自分自身のに言語力が向上し」たと回答しており、非常に充実したカリキュラム構成だった。<br>②2クラスとも授業実施前の平均値を大幅に超え、授業実施後のテストは正答率80%以上に到達し、目標を達成できた。 | • 授業内容に関する課題は特にないが、事前準備にまつわる課題はあった。例えば、インターネット環境準備の練習や機器の取り扱いなどである。既に慣れている教師は問題ないが、慣れていないと使いこなすのに時間を要する。事前のIT系の研修動画で使い方を取得したことで円滑な授業開始を心掛けた。 |

## 今後の取組

今後も学校としては、オンライン授業の導入を検討していきたいと考えている。具体的には、将来的に日本に来る予定のある学習者向けの日本語能力向上や、来日した際の不安を少しでも払拭するために、入国前のオンライン授業の実施を検討している。実際にオンライン授業を行う際には、7~8名の少人数クラスを整え、学習者と教師の双方にとって円滑なコミュニケーションが取れる環境づくりが重要だと認識している。

# 日本語センター（京都府京都市）
## 実施クラス：JLPT対策オンラインコース

A1 | オンライン | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1979年 | 主要コース | 進学・就職 | 主要な学習者 | 留学生（進学）、留学生（一般） |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | プロのインストラクターが独自に開発した習得ノウハウを活かして、「本当に使える日本語」を学習者に教え込むプログラムを構築している。日々の授業のほかに、授業での学びを総合的に用いることが出来るように学習活動や、プロジェクトワークなど「体験する」「興味のあるテーマを決める」「調査する」「準備する」「発表する」「振り返る」を大事にしていることが特徴である。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **8名以内であれば全学習者に目が行き届き、ブレイクアウトルームで学習者同士コミュニケーションを十分に図ることが出来る。また、学習者の好きなことや趣味を扱うテーマを授業内に組み込み、理解だけでなく実際の運用まで見据えた構成により、学習者のモチベーションを維持・継続することが出来た。**

### 実証事業背景

留学生が減少したコロナ禍の水際対策中に実施していたオンライン授業をより充実したものにしたいと考え、今回の実証事業への参画を決めた。

### 実証目的

渡日後の学習効果の向上を目的に、「渡日前」の外国人にオンライン授業を展開した。また、日本語学習の機会を得ることが困難な日本在住者への潜在的な学習ニーズも検証を行った。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | A1 | 対象スキル | 話す（やりとり）/話す（発表）/聞く/読む/書く/日本事情・日本理解 |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向） | 対象学習者 | 渡日前留学予定/希望生 |
| 参加スタイル | 母国からの参加（留学生） | 学習者人数 | 15名（内本事業対象者数3名） |
| 学習者の主な出身国・地域 | アメリカ、インド、インドネシア、スイス、台湾、フィリピン、ベトナム | 実施期間 | 9月~11月（3ヶ月間）<br>※週2回×1時間の全24回 |
| 使用教材 | 主に、初級日本語げんきと学校オリジナル教材を使用し、学習者の自習用としてJLPT対策実力アップコースを活用した。 | 学習者の使用機器 | PC、スマートフォン、タブレット |

| 重点目標 Can-Do | 【話す（発表）】人物や場所について、単純な語句を並べて、述べることが出来る。<br>【話す（発表）】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることが出来る。 |
|---|---|
| 独自目標 | ①受講後の学習者によるアンケート「満足」が70％以上<br>②確認テスト80%以上 |

#### ■カリキュラムの概要

- 将来的に日本留学を希望している海外在住者や日本語学習の機会を獲得することが難しい日本在住者を対象に、JLPT N5レベルの語彙・文法を用いた会話（アウトプット）中心の授業を2クラスで実施した。
- 口頭の能力を伸ばすためには練習が必要であるため、全体で文法説明を行った後、ブレイクアウトルームを活用し、ペアワークを行った。ペアワークは学習者同士が交流を図りつつ、日本語を楽しく話すことが出来るようになるべく対話する時間を多く設けた。

| 週 | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 第1回 | 聞く、話す | 個別のレベルチェックインタビューで自身のレベルを視覚的に把握する | 初級日本語げんき、学校オリジナル教材 | オンライン（Zoom） |
| 第2~23回 | 聞く、話す | 文法だけでなく、ブレイクアウトルームでのやりとりを通じて、日本語を話すことに慣れる | 初級日本語げんき、学校オリジナル教材 | オンライン（Zoom） |
| 第24回 | 聞く、話す | インタビュー形式のテストでは当初の質問項目より多くの項目に答えることが出来るように目指す | 初級日本語げんき、学校オリジナル教材 | オンライン（Zoom） |

## 取組の特徴や工夫点

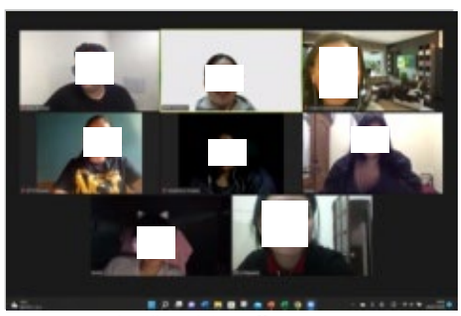
**質**

- 7~8名の少人数制のオンラインクラスを実施し、全ての質問が全員に渡るように心掛けたため、学習者全員に発話のチャンスを作った。
- 自習目的でJLPT対策教材を使用し、WEBサイトで学習者ごとに自習の進捗状況を把握して、勉強状況の確認やフォローを実施した。
- ブレイクアウトルームを活用し、学習者同士コミュニケーションを図る時間を設け、毎回教師がルームに入って様子を確認するように心掛けた。

教師の例文説明の様子①

**構成**

- 学習者が興味ある「趣味」や「好きな物」を活用し、日本語を話したいと思うことが出来るカリキュラムを作成した。例えば初級クラスでは、文法説明から授業を始めるのではなく、学習者の好きなトピックからそのテーマを話すためにどの勉強が必要なのかといった目的から逆算した授業で文法の説明を行い、会話の機会を増やした。文法理解だけでなく「話す」を中心に授業を構成し、最後は発表する機会を設けた。



オンライン授業の様子②

**運営**

- 2レベル計4クラスの学習者を募集し、開講するクラスレベルに合う15名を選考した。その後は定員に達するまで選考を行い、連絡を取り合いながら、最終的に参加する学習者を確定させた。その際、全員が同じ国籍にならないようにアジアだけでなくヨーロッパの学習者も取り入れ、国際色豊かなクラスを実現した。また途中で離脱する方もいたが、ウェイティングリストを用意し、そこから参加者を増やすことの出来る対策を講じた。

## 成果と課題

**【受講後のアンケート満足度70%以上】**
日本語学校が独自に実施した効果検証アンケートでは学習者の授業への満足度が非常に高く、この授業は楽しかったかという質問に対し、約70％の学習者がとても楽しかったと回答。その他30%も楽しかったと回答し、目標であった満足度70％以上を達成することが出来た。加えて、学習者の100％が「12週間で自身の日本語能力は向上した」と回答し、充実した授業だったと認識している。

**【確認テスト80%以上】**
授業前は質問項目12まで理解し、適切に答えることが出来ていたが、オンライン授業実施後には項目30まで答えることが出来るようになり、30/36と考えると、83.3%を達成したと言える。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | • 【話す（発表）】人物や場所について、単純な語句を並べて、述べることが出来る。<br>• 【話す（発表）】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることが出来る。 | • 最大8名までに限定したクラスで「やりとり」を重視した授業且つ最終授業で発表する機会を取り入れたことで、学習者全員が発話する機会を得られた。クラスのレベルによって、最初は言葉が出ないこともあったが、最終的には自分で自分のことを話せるようになった。 | • 人数を限定したため、全員に質問が届き、発話のチャンスを得ることは出来たが、もし人数が多ければ、個々にニーズを合わせた授業を行うことは困難であると感じた。<br>• 自己申告のレベルと実際のレベルが異なり、差があったため、Zoomのチャットでメッセージのやりとりを出来るようにしていた。 |
| 独自目標 | ①受講後のアンケート満足度70%以上<br>②確認テスト80%以上 | ①楽しくなかったと回答した学習者はおらず、70％が「とても楽しかった」、30%が「楽しかった」と回答し、目標の70%を達成した。<br>②受講前の平均を大幅に超え、オンライン授業後は83.3%の正答率を達成した。もう一クラスも、81.7%の正答率を達成している。 | • 特に大きな問題はなかったが、元々使用しようとしていた教材はクラスによって学習者のレベルと合わなかった。そのため、対面授業で使用していたオリジナル教材を使用したり、初級日本語げんきから項目を抜き出してレベル別にPPTで教材を教師が作成するなど工夫を重ねた。 |

## 今後の取組

オンライン授業は場所を選ばず、仕事の合間に気軽に受講出来るなどのメリットがあるため、今回実施したような構成で今後もオンライン授業の導入を検討していきたいと考えている。実際にオンライン授業を導入する場合、授業実施自体に問題はないが、学習者募集や開講するクラス別の教師の確保、国ごとに発生する時差の問題を考慮した授業時間の制限等の課題を解決した上で、費用対効果を念頭に置き、取り組まなければならない。

# 国書日本語学校

## 実施クラス：MagicPocketを活用した、オンライン日本語教育 初級クラス

A1 | オンライン | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1987年 | 主要コース | 進学 | 主要な学習者 | 留学生（進学） ※専門学校・大学・大学院等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 創立34年を迎え、経験豊かな教師陣の元で進学率97％を誇る優良日本語学校として、様々な国からの留学生を受け入れ、日常生活から大学や大学院・専門学校への進学・就職に至るまで様々なサポートを実施。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **①留学が決定した渡日前の学習者、②留学が決まっていない学習者の双方に対して初級のオンライン教育を展開。全く日本語を学んでいない学習者も対象としており、通訳サポートを授業において活用。**
- **受講前後の1対1の会話テストを活用して効果測定を実施し、受講前後で顕著な成果が見られた。**
- **学習者の特性として、母国語と日本語の親和性や無料に対する意識の違い等、クラス分けや運用に際しての課題を整理。**

### 実証事業背景

現在実施しているオンライン授業の教材は、著作権の問題があり、教材を空輸して実施する等、運用上で非効率な側面があった。今回の実証事業を通じ、より効率的さらには効果的なオンライン教育を検討したい。

### 実証目的

主に、以下3点を目的に実施。
① 学習効果の向上（言語取得レベルの向上）
② 潜在的学習者の掘り起こし
③ 学習・留学モチベーションの向上

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | 未学習・A1レベルからA2到達（N5）を目指す | 対象スキル | 話す（やりとり）/ 聞く / 読む |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向） | 対象学習者 | 渡日前の進学予定/希望の外国人 |
| 参加スタイル | 母国からの参加 | 学習者人数 | 合計19名（対象国ごとに分けて実施） |
| 学習者の主な出身国・地域 | 中国10名 / バングラデシュ5名 /モンゴル4名<br>※独自の海外拠点がある国を対象とした | 授業期間 | 概ね7月下旬~10月下旬の3ヶ月間 |
| 使用教材 | Magic Pocket<br>※Zoom上に投影するための資料は、各担当教師が用意 | 学習者の使用機器 | スマートフォン |

| | |
|---|---|
| 重点目標 Can-Do | ・話す（やりとり）：【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。<br>・話す（やりとり）：【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。<br>・話す（発表）：【総合的な口頭発話】人物や場所について、単純な語句を並べて、述べることができる。<br>・聞く：【広報・アナウンスや指示を聞くこと】当人に向かって、丁寧にゆっくりと話された指示なら理解できる短い簡単な説明なら理解できる。 |
| 独自目標 | ・事前・事後テストの点数平均５％程度アップ<br>※事前・事後テスト：教材の内容を踏まえて、独自の1対1の対話テストを実施<br>※応対内容で点数化。学習した文法を正しく活用できているか等をが加点要素 |

#### ■カリキュラムの概要

- ゼロから学習を始める学習者のため、MagicPocketを使用し全66回の授業でN5レベルまで引き上げられるようたカリキュラムを準備
- MagicPocketの初期導入項目に準拠した構成とし、授業は1日2コマ実施（1h/コマ）し、頻度は3日/週で実施した。

| 回 | 対象スキル | 概要 | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 全66回 | 対象とする全スキル | 授業は基本的に教材の構成に沿って実施 | Magic Pocket | オンライン |

## 取組の特徴や工夫点

### 質

**【教材】**

- 基本的に、MagicPocketの構成に沿って補完教材を各教師が準備。
- 文法解説や授業内での指示などは教師とは別に、通訳付きで実施。初期段階では有用であったが、通訳同席期間が長いと、学習者・教師が頼ってしまうケースがあり、通訳が入る期間は留意が必要。
- 授業は基本的に文法導入→ドリル練習→文法を活用した会話練習をルーティンとし、知識の習得ではなく、「使える日本語」を目指した。

### 構成

**【全般】**

- ゼロから学習を始める学習者に対応する為、MagicPocketを使用。初期導入項目に準拠した構成で、N5レベルに到達することを目的に全66回の授業で構成。

### 運営

**【募集】**

- 現地事務所または現地の仲介会社と連携。
- ①すでに留学を申請している学習者及び②留学希望の学習者、③日本語学習に興味のある学習者を募集。

**【事前準備】**

- 教師・学習者に対して、Zoom及びMagicPocketの使用について事前トレーニング（Zoomの使い方のレクチャーが中心）を実施。
- また、MagicPocket（アプリ）インストールは、通訳担当者が国別に説明会を開催。インストールが難しい場合は、個別にサポートした。

**【授業の基本構成】**

文法学習 → 練習問題 → 文法を活用した会話練習

形容詞の文法導入理解のために、先生が用意した資料

過去形の文法導入理解

## 成果と課題

**【事前・事後テスト（目標達成基準： 点数平均５％程度アップ）】**

- 事後テスト結果は、事前テストと比較してバングラデシュの学習者は55％、モンゴルの学習者は7250％、中国の学習者は3077％アップ。多くの学習者が日本語を学んだことのない学習者であり、顕著に目標を達成。
- モンゴルの学習者は、日本語文法と類似しており、伸び率が高いと想定。
- 中国の学習者の場合、漢字に抵抗感がないため、比較的スムーズに理解が進む傾向があった。
- 今回の実証において、バングラデシュの学習者は、母国語の日本語に対する親和性が他国と比較すると低いことが考えられ、他国の学習者と比較して向上率が低い傾向となったのではないかと考える。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | 以下のスキルのCan-Doから重点項目を設定<br>• 話す（やりとり）<br>• 話す（発表）<br>• 聞く<br>※詳細は前項に記載 | • 個人差はあるが、カリキュラムが進むにつれて自分の話や先生への質問ができるようになり、また、意思表示をできるようになった。<br>• 全く発話ができなかったところから、自分の希望・理由を伝えることができるようになった。 | ①ネット環境等環境要因による問題<br>• 事業開始前は学習用アプリ（MagicPocket）のインストールが進まない等の問題が相次ぐ。また開始後は頻繁に停電、Wi-Fiが弱くて入れない等が発生。<br>• 必要に応じて通訳サポートが個別にフォローを実施。<br>②価値観の違いによる問題<br>• 今回の実証において、出身国によって「無料」に対する価値観が異なる傾向があり、学習者の態度に大きく影響（受講しない、課題を行わない、宿題をしない等）したと思われる。<br>③ 教師の経験等による問題<br>• 教師によって、Zoomが未経験であったため操作方法のレクチャーに多くの時間が必要となった。また教師によってはインタラクティブな授業ができておらず、教師品質にバラツキが発生。時間をかけ、品質担保を目的に丁寧な準備が必要。 |
| 独自目標 | • 事前・事後テスト：<br>点数平均５％程度アップ | • テストの結果、事前・事後で以下の成果を確認できた<br>• バングラデシュの学習者：55％<br>モンゴルの学習者：7250％<br>中国の学習者：3077％アップ | |

## 今後の取組

今後も継続してオンラインを活用した日本語教育を展開予定。対面クラスと比較するとオンラインを活用したクラスは、前述した以外に①教師と学習者間の信頼関係構築に一定の時間を要する、②学習者の個性を把握することに時間を要する、③授業以外の学習者間のコミュニケーションが希薄になり結果的に日本語習得度に影響、等の課題があると考える。これらの課題を授業以外の運用でカバーする等、今後対応をすすめたい

# 国書日本語学校

## 実施クラス：A2以上の学習者を対象にした、JLPT実力アップクラス

A1 | オンライン | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1987年 | 主要コース | 進学 | 主要な学習者 | 留学生（進学） ※専門学校・大学・大学院等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 創立34年を迎え、経験豊かな教師陣の元で進学率97％を誇る優良日本語学校として、様々な国からの留学生を受け入れ、日常生活から大学や大学院・専門学校への進学・就職に至るまで様々なサポートを実施。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **概ね、終了時の目標を達成したが、同一教材であってもクラスによって成果にバラツキが生じた。より学習者-教師間でインタラクティブ授業を展開していたクラス程、出席率が高く、事前・事後テストで成果を確認できたと考える。**
- **オンライン教材等の扱い方に限らず、教師と授業スタイルのすり合わせを十分に取る必要がある。**

### 実証事業背景

現在実施しているオンライン授業の教材は、著作権の問題があり、教材を空輸して実施する等、運用上で非効率な側面があった。今回の実証事業を通じ、より効率的さらには効果的なオンライン教育を検討したい。

### 実証目的

主に、以下3点を目的に実施。
① 学習効果の向上（言語取得レベルの向上）
② 潜在的学習者の掘り起こし
③ 学習・留学モチベーションの向上

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | A2、B1、B2を対象（それぞれ1ランクUPを図る） | 対象スキル | 話す（やりとり）/ 聞く / 読む |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向） | 対象学習者 | 渡日前の進学予定/希望の外国人 |
| 参加スタイル | 母国からの参加 | 学習者人数 | 合計41名 |
| 学習者の主な出身国・地域 | 中国11名 / モンゴル8名/ミャンマー22名 | 授業期間 | 概ね7月中旬~10月中旬の3ヶ月間 |
| 教材 | スーパ日本語の「JLPT対策コース」教材を活用<br>※テストは「スーパー日本語」内の「総確認テスト」を活用 | 学習者の使用機器 | 主にスマートフォンで参加 |

| 重点目標 Can-Do | ・読む：【情報や議論を読むこと】身近な話題についての簡単な新聞記事から重要点を取り出すことができる |
|---|---|
| 独自目標 | ・事前・事後テストの点数平均５％程度アップ<br>※事前・事後テスト：教材の内容を踏まえて、独自の1対1の対話テストを実施 |

#### ■カリキュラムの概要

- スーパー日本語を活用し、合計24回の授業で、A2以上（A2、B1、B2）の学習者を対象に、それぞれランクアップを図る
- カリキュラムはスーパー日本語の教材の構成に沿って設定
- ①授業参加前に教材を事前に解く、②授業内で語彙・文法を解説、③授業内で読解・聴解問題を解く・解説、これらを基本のルーティンとして、各クラスを展開

| 回 | 対象スキル | 概要 | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 全24回 | 対象とする全スキル | 授業は基本的に教材の構成に沿って実施 | スーパー日本語 JLPT対策コース | オンライン |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

**【教材】**

- スーパー日本語を利用し、学習者のレベルや知識量にあわせてクラスごとに教師判断で進捗をコントロール。
- ①語彙・文法解説、②読解・聴解の問題を解く、③読解・聴解問題を解説、これらを授業の基本構成とした。
- 活用した教材の印象として、文法の項目がレベルに応じてバリエーション豊かに設定されており、各課で掲載されている例文も扱いやすいものであった。
- 文法・語彙の時間配分は、参加している学習者のレベル・リクエストにあわせて、担当教師の裁量で対応。

**運営**

**【募集】**

- 現地事務所または現地の仲介会社と連携。
- 渡日前の150時間以上の日本語学習を完了し、すでに留学を申請している学習者を対象とした。

**【事前準備】**

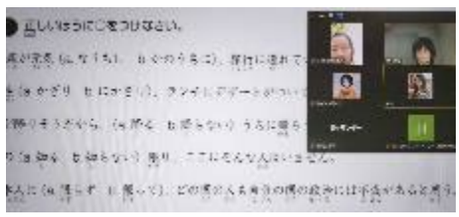
- 初回授業開始前に、学習者への事前レクチャー（集合形式）を実施し、教材の活用・オンライン参加方法等を展開。
- 教師に対しては、個別にレクチャーを実施。

**【管理】**

- 教師用サイト内で、教材の内容も把握できるとより使いやすくなっただろう（教材は学習者用サイトでしか確認できない）。また、学習者が間違えた問題までシステム上で把握できると、フィードバックに有用となる。

**【授業の基本構成】**

語彙・文法解説 → 読解・聴解を解く → 読解・聴解解説



文法授業の解説画面

長文読解の解説画面

## 成果と課題

**【事前・事後テスト（目標達成基準： 点数平均５％程度アップ）】**

- 事前・事後テストは、「スーパー日本語」内の「総確認テスト」を用いて実施。
- 概ねのクラスで目標を達成した。他方で、同じ教材・類似カリキュラムに関わらず目標未達のクラスがある。教師と学習者間でインタラクティブな授業展開ができていたクラス程、成果が高い傾向があったと考える。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | • 読む：<br>【情報や議論を読むこと】身近な話題についての簡単な新聞記事から重要点を取り出すことができる | • 文法解説について学習者からの要望が多く、比較的どのクラスも時間をかけて実施<br>• 自ら感想を述べられるようになる等、目標とした重点Can-doに対し、一定の成果が確認できた | ①ネット環境等環境要因による問題<br>• 事業開始前はオンライン教材「スーパー日本語」のログイン作業が進まない等の問題が相次ぐ。また開始後は頻繁に停電、Wi-Fiが弱くて入れない等が発生。<br>• 必要に応じて通訳サポート及び事務局が個別にフォローを実施。<br>②価値観の違いによる問題<br>• 今回の実証において、出身国によって「無料」に対する価値観が異なる傾向があり、学習者の態度に大きく影響（受講しない、課題を行わない、宿題をしない等）。<br>③ 教師の経験等による問題<br>• 教師によって、Zoomが未経験であったため操作方法のレクチャーに多くの時間が必要となった。また教師によってはインタラクティブな授業ができておらず、教師品質にバラツキが発生。時間をかけ、品質担保を目的に丁寧な準備が必要。 |
| 独自目標 | • 事前・事後テスト：<br>点数平均５％程度アップ | • 結果は以下の通り<br>中国N2：26％<br>中国N4：- 6.8％<br>ミャンマーN2：20.8％<br>ミャンマーN3：40.5％<br>ミャンマーN4：31.8％<br>モンゴルN5：1.5％ | |

## 今後の取組

今後も継続してオンラインを活用した日本語教育を展開予定。対面クラスと比較するとオンラインを活用したクラスは、前述した以外に①教師と学習者間の信頼関係構築に一定の時間を要する、②学習者の個性を把握することに時間を要する、③授業以外の学習者間のコミュニケーションが希薄になり結果的に日本語習得度に影響、等の課題があると考える。これらの課題を授業以外の運用でカバーする等、今後対応をすすめたい。

# 日立さくら日本語学校（茨城県日立市）

## 実施クラス：渡日前留学希望生を対象とした入門クラス（さくらP・さくらR）

A1 | オンライン | オンデマンド | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 2018年 | 主要コース | 進学 | 主要な学習者 | 大学進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 主に進学を目標とする留学生を対象としており、JLPT N3N2合格や大学・専門学校への進学指導、日本留学試験対策等を提供している。日本文化教育も充実させており、書道や着物、お茶、日本料理等の体験や、学校周辺地域の住民との交流、地域向けにやさしい日本語講座等も実施している。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **学習効果の向上、日本語学習・日本留学へのモチベーション向上を目的にオンライン授業を実施した。**
- **授業のスピードや取り扱う内容は学習者の理解度に柔軟に合わせ、会話練習の際はイメージしやすいシチュエーションや流行のドラマ・アニメを題材にすることで、学習者のモチベーション維持・向上を図った。**

### 実証事業背景

今まで行っていたオンライン授業では教材の種類が少なく、カリキュラムの充実をる必要があった。
また、オンライン授業では学習効果を正確に測ることが難しく、学習者のモチベーションも維持・向上しにくいため、改善策を検討する必要があった。

### 実証目的

実施しているオンライン授業のカリキュラムをより充実させる
教師のICT技術を向上させることで、学習効果の向上、学習モチベーションの向上、日本留学モチベーションの向上を目指す。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | A1 | 対象スキル | 話す（やりとり）/話す（発表）/聞く/読む/書く/その他 |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向）、オンデマンド | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生 |
| 参加スタイル | 母国からの参加 | 学習者人数 | さくらP：10名（うち1度も受講しなかった学習者は1名）、さくらR：14名 |
| 学習者の主な出身国・地域 | さくらP：ネパール<br>さくらR：インドネシア | 実施期間 | さくらP：8月3日~12月9日<br>さくらR：8月3日~12月9日 |
| 使用教材 | いろどり（入門、初級1） | 学習者の使用機器 | ＰＣ、スマートフォン、タブレット |

| | |
|---|---|
| 重点目標 Can−Do | 話す（やりとり）：【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。<br>【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。<br>聞く：【包括的な聴解】意味が取れるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。<br>読む：【包括的な読解】非常に短い簡単なテクストを、身近な名前、単語、基本的な表現と一つずつ取り上げて、必要であれば、読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。 |
| 独自目標 | ①受講後の学習者による満足度アンケートにおいて「満足」が70％以上<br>②オンライン授業における学習者の出席率80％以上<br>③「読む・聞く・話す」においての日本語能力向上。学習者のアンケートと教師のアンケート（教師の主観）の評価で測る4段階評価で（4が一番高い）向上すること |

#### ■カリキュラムの概要

- 授業は週に2回（水・金）、50分2コマを実施した。
- ０ベースの学習者が授業を通して日本人（教師）と交流することで、日本人の発音や日本人とのコミュニケーションに慣れてもらうことを目標とした。
- いろどりを使用し、母国語で学習の理解を深めたり、各コラム部分で日本文化への理解を得ることを狙いとした。
- いろどろ入門では、日常で話されるような会話を紹介した。
- いろどり初級1では文法を3~4コマで1課程度のスペースで学んだ。授業で残った時間は、復習や日本文化の紹介を行った。

| 回 | 対象スキル | 授業内容 | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 第1-20回頃まで | 話す・聞く・読む | • 会話の紹介 | いろどり（入門） | オンライン（Zoom） |
| 第20回以降 | 話す・聞く・読む・書く・その他 | • 文法の学習<br>• 日本文化の紹介 | いろどり（初級1） | オンライン（Zoom） |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

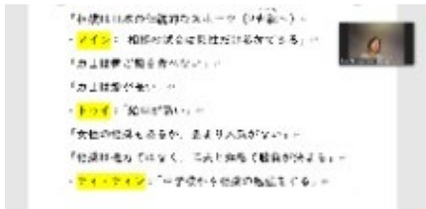
- 文字や漢字の読みや表記の学習等は、毎回授業の始めに取り組むことで定着がみられ、比較的短時間で学習効果が見られた。
- オンライン授業でも学習者を名指しで当てることで、対面授業と同じような緊張感を持たせた。また、できたことに対してはきちんとほめるようにした。
- 若者がイメージしやすいシチュエーションやインドネシアではやっているドラマ・アニメを題材に、会話文を教師が作成して授業で活用することで、学習者のモチベーション維持・向上を図った。

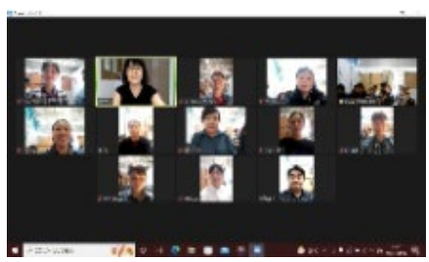
**構成**

- 教師に向けて、教材研修を行った。学習者のレベルや現地の状況・教師との兼ね合いを考慮して、使用する教材等を検討した。
- 学習者の反応や理解度によって、授業の進捗スピードを柔軟に変えた。
- いろどり教材のコラムで掲載されている日本文化紹介を授業で取り上げ、留学へのモチベーション向上を図った。

**運営**

- 学習者に対しては、現地状況・使用教材に応じて事前演習を行い、さらに各クラス開始日の１時間目にオリエンテーションとしてzoomの使用方法の説明やアンケートなどの実施を行った。
- さくらRはインドネシアの日本語学校からの受講であったため、受講環境を整えたうえで、現地教師が母国語でサポートしながら授業提供した。授業の進め方や宿題等を通訳して伝えることで、スムーズな事務連絡が可能になった。





オンライン授業の様子

## 成果と課題

**【日本語学校が実施する事後アンケート結果】**
日本語学校が独自に実施した事後アンケートでは満足度がさくらPは80%、さくらRは100%と、目標値より高い数値となった。
**【学習者向けアンケート結果】**
日本語能力が向上したかに関しては、2クラスともに回答者の平均値が4段階中約3.8であり、評価が高かった。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | • 話す（やりとり）：【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。<br>• 聞く：【包括的な聴解】意味が取れるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。<br>• 読む：【包括的な読解】非常に短い簡単なテクストを、身近な名前、単語、基本的な表現と一つずつ取り上げて、必要であれば、読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。 | • 話す（やりとり）：日本語で会話する時に2ターンのやり取りであればある程度できていた。<br>• 聞く：教師の質問に対して、出席率が高い学習者はきちんと答えられるようになった。<br>• 読む：カタカナを読むのが苦手なようだったが、カタカナの教材を用いて勉強したところ、読めるようになった。 | • 授業を通して会話ができるようになったが、能力を維持するためには継続が必須であると思われる。<br>• 「聞く」の言語活動に関しては、マイクを通したオンライン授業の環境では、発音や調音の識別が伝わりにくく、課題であると感じた。<br>• オンラインでのテスト（文法等）は結果の信ぴょう性が低かった。（学習者同士で答えを共有しているように思われるこシーンがあった。） |
| 独自目標 | ①学習者満足度アンケートにおいて「満足」が70％以上<br>②学習者の出席率80％以上<br>③「読む・聞く・話す」においての日本語能力向上。学習者のアンケートと教師のアンケート（教師の主観）の評価で測る4段階評価で（4が一番高い）向上すること | ①さくらP(回答者5名)：80%<br>さくらR(回答者14名)：100%<br>②さくらP(9名で集計)：62%<br>さくらR(14名で集計)：62%<br>③さくらP(回答者5名)：【学習者】読む2.8聞く2.6話す2.6【教師】読む3.2聞く3.2話す3.2<br>さくらR(回答者14名)：【学習者】読む3.0聞く3.0話す3.0【教師】読む2.3聞く2.4話す2.6 | |

## 今後の取組

スマートフォンでの受講では制約があると思われ、学習者へのタブレット端末の貸し出し等を検討したい。オンライン授業は対面授業と比較して学習者が飽きやすい傾向があると考えられ、学習者を飽きさせない授業スキルの習得に向け、教師に対する研修会開催等も必要と考えられる。また、よりリラックスした状態で受講できるよう交流を深める機会を頻繁に設け、学習者と教師・学習者同士の関係を構築する等、運用上の工夫もあわせて検討していきたい。

# 日立さくら日本語学校（茨城県日立市）

## 実施クラス：渡日前留学希望生を対象に入門から初級への引き上げを目指すクラス（さくらN）

A1・A2 | オンライン | オンデマンド | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 2018年 | 主要コース | 進学 | 主要な学習者 | 大学進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 主に進学を目標とする留学生を対象としており、JLPT N3N2合格や大学・専門学校への進学指導、日本留学試験対策等を提供している。日本文化教育も充実させており、書道や着物、お茶、日本料理等の体験や、学校周辺地域の住民との交流、地域向けにやさしい日本語講座等も実施している。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **現地の仲介業者を通して学習者の募集を行い、応募学習者に対しては受講目的等を記入する参加申込書の提出を求め、日本語学習への意欲が見られる学習者を募った。**
- **話す能力の強化を希望する学習者が多かったため、特に「話す（やりとり）」「話す（発表）」の能力を重点に置き、いろどり入門・初級Ｉを用いてクラスを実施した。会話のロールプレイや教師・学習者全員での会話、週に1度の発表を通して能力の向上を目指した。**

### 実証事業背景

今まで行っていたオンライン授業では教材の種類が少なく、カリキュラムの充実をる必要があった。
また、オンライン授業では学習効果を正確に測ることが難しく、学習者のモチベーションも維持・向上しにくいため、改善策を検討する必要があった。

### 実証目的

実施しているオンライン授業のカリキュラムをより充実させる
教師のICT技術を向上させることで、学習効果の向上、学習モチベーションの向上、日本留学モチベーションの向上を目指す。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | A1・A2 | 対象スキル | 話す（やりとり）/話す（発表）/聞く/読む/書く/日本事情・日本理解/その他 |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向）、オンデマンド | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生 |
| 参加スタイル | 母国からの参加 | 学習者人数 | 11名（うち1度も受講しなかった学習者は5名） |
| 学習者の主な出身国・地域 | ミャンマー | 実施期間 | 9月6日~12月7日 |
| 使用教材 | いろどり（入門、初級Ｉ） | 学習者の使用機器 | ＰＣ、スマートフォン、タブレット |

| | |
|---|---|
| 重点目標 Can−Do | 話す（やりとり）：【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。<br>話す（発表）：【総合的な口頭発話】人物や生活・職場環境、日課、好き嫌い等について、単純な記述やプレゼンテーションができる。その際、簡単な語句や文を並べることができる。【長く一人で話す：経験談】事項を列挙して簡単に述べたり、物語ることができる。自分の周りの環境、例えば、人や場所、仕事、学習経験等の日常を述べることができる。<br>聞く：【包括的な聴解】もし、はっきりとゆっくりとした発音ならば、具体的な必要性を満たすことが可能な程度に理解できる。【広報・アナウンスや指示を聞くこと】短い、はっきりとした、簡単なメッセージやアナウンスの要点は聞き取れる。 |
| 独自目標 | ①受講後の学習者による満足度アンケートにおいて「満足」が70％以上<br>②オンライン授業における学習者の出席率80％以上<br>③「読む・聞く・話す」においての日本語能力向上。学習者のアンケートと教師のアンケート（教師の主観）の評価で測る4段階評価で（4が一番高い）伸びること |

#### ■カリキュラムの概要

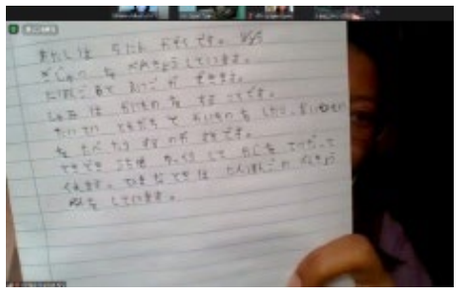
- 授業は週に2回（火・水）、50分2コマを実施した。
- A1レベルの学習者は学力の向上、A2レベルの学習者は学力・モチベーションの維持を目的として授業を実施した。
- いろどりを使用して語彙の導入、リスニング、文法の確認、会話のロールプレイを実施した。加えて、週に1回発表の時間を設けた。

| 回 | 対象スキル | 授業内容 | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 第1-18回 | 話す・聞く・読む・書く・日本事情 日本理解 | 語彙の導入、リスニング、文法の確認、会話のロールプレイ | いろどり（入門） | オンライン（Zoom） |
| 第18-25回 | | | いろどり（初級1） | オンライン（Zoom） |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

- 事前アンケートでは話す能力を強化したい、と希望する学習者が多かったため、「話す（やりとり）」「話す（発表）」の能力を向上させることを重点に置いてクラスを実施した。具体的には、いろどりの会話文を用いたロールプレイ、教師と学習者による身近な話題での会話等を取り入れた授業を行った。週に1度、テーマを決めて学習者による発表も実施した。
- 学習者のレベルがA1-A2と様々であったため、基本はA1レベルに合わせつつ、A2レベルの学習者には発言の機会をより多く与える、会話の際に投げかける質問を難しくする等の対応をすることで、A2レベルの学習者が飽きないように工夫した。



学習者が作成した文章を教師に見せる様子

**構成**

- 学習者の反応や理解度に応じて授業を進めるペースを柔軟に変更した。
- いろどり教材に沿って授業を進め、リスニングや会話文を活用した。

**運営**

- 仲介業者を通して学習者の募集を行った。日本語学習への意欲が強い学習者を募集するために、受講目的等を記入する参加申込書の提出を必須とした。
- ペアワークの際にブレークアウトルームを使用すると、教師が会話内容等を確認しきれないため、学習者の1人が発言して他のメンバーが全員で答える等、学習者全員で取り組めるように工夫した。

オンライン授業の様子

## 成果と課題

**【日本語学校が実施する事後アンケート結果】**

日本語学校が独自に実施した事後アンケートでは満足度が86%と目標値より高い数値となった。

**【学習者向けアンケート結果】**

総合満足度については、回答者の平均値が4段階中3.7であり、評価が高かった。また、日本語能力が向上したかについては回答者の平均値が4段階中約3.7であった。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | • 話す（やりとり）：【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。<br>• 話す（発表）：【総合的な口頭発話】人物や生活・職場環境、日課、好き嫌い等について、単純な記述やプレゼンテーションができる。その際、簡単な語句や文を並べることができる。【長く一人で話す：経験談】事項を列挙して簡単に述べたり、物語ることができる。自分の周りの環境、例えば、人や場所、仕事、学習経験等の日常を述べることができる。<br>• 聞く：【包括的な聴解】もし、はっきりとゆっくりとした発音ならば、具体的な必要性を満たすことが可能な程度に理解できる。【広報・アナウンスや指示を聞くこと】短い、はっきりとした、簡単なメッセージやアナウンスの要点は聞き取れる。<br>• を聞くこと】（A2レベル） | • 話す（やりとり）：あいづちも含めて、自然な会話ができるようになった。自分で質問をしながら、必要な情報を聞き出すことができるようになった。<br>• 話す（発表）：日本語での発表に慣れた。発表する時間や発表内容の深みが増した。<br>• 聞く：自然な速さの日本語でも聞き取れるようになった。 | • 話すの言語活動に関しては、教師の視点から見るとクラス開始時よりも自然でより日本人に近い話し方が身につき成長が感じられた。一方で、学習者のレベルが混在しており、レベルの高い学習者は能力の向上を実感しにくい傾向があった。クラスの内容がレベルの低い学習者に合わせて実施されていたこと、「いろどり入門」の教材がレベルの高い学習者にとっては合っていなかったことが要因として考えられる。<br>• 1度も授業に参加しない学習者が4名おり、その他の学習者に関しても継続的に参加する学習者は数名に限られていた。国内情勢の不安定さや通信環境の悪さが要因と考えられる。 |
| 独自目標 | ①学習者満足度アンケートにおいて「満足」が70%以上<br>②学習者の出席率80%以上<br>③「読む・聞く・話す」においての日本語能力向上。学習者のアンケートと教師のアンケート（教師の主観）の評価で測る4段階評価で（4が一番高い）向上すること | ①(回答者6名)86%<br>②(1度も受講しなかった学習者を除く6名で集計)66%<br>③(回答者6名)<br>【学習者】読む3.3聞く2.8話す3.0<br>【教師】読む3.2聞く3.3話す3.2 | |

## 今後の取組

スマートフォンでの受講では制約があると思われ、学習者へのタブレット端末の貸し出し等を検討したい。オンライン授業は対面授業と比較して学習者が飽きやすい傾向があると考えられ、学習者を飽きさせない授業スキルの習得に向け、教師に対する研修会開催等も必要と考えられる。また、よりリラックスした状態で受講できるよう交流を深める機会を頻繁に設け、学習者と教師・学習者同士の関係を構築する等、運用上の工夫もあわせて検討していきたい。

# JET日本語学校（東京都北区）

## 実施クラス：日本事情体験型＋テキストで学ぶサマーコース

A2 | B1 | オンライン | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1988年 | 主要コース | 進学・就職 | 主要な学習者 | 留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 大学・大学院進学を目指す「進学コース」と日本での就職や専門学校進学を目指す「日本語コース」を設置している。その他、学習者の学習目的に応じた様々な「短期コース」や「オンラインコース」を設けており、授業内容の幅が広く、目的に応じたクラスを選択できることが特徴である。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **来日を前提に、反転学習と発表機会を組み込んだカリキュラムを構築し、日本への早期順応に向けて「話す・聞く」の能力を強化した。また、近日中に来日予定のある留学生であれば、オンラインで日本事情や文化を理解する体験型学習は学習者の満足度90%の結果を考慮すると、有益であると考えられる。**

### 実証事業背景

新型コロナウイルスの影響で、オンライン授業は約2年前から導入していたが、オンライン実施期間が長期的になるのであれば、学習者のニーズを踏まえ、どのような形でオンライン授業の質を向上させていくべきか、検討する必要性を感じていた。

### 実証目的

目的は、以下のとおり。
①主に学習効果の向上（言語取得レベルの向上）とカリュキュラムの充実化（拡大・更新等）
②授業に必要な学習者の姿勢や日本語力、ニーズ等を事業で把握

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | A2、B1 | 対象スキル | 話す（やりとり）、話す（発表）、聞く |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向） | 対象学習者 | 渡日前留学予定/希望生 |
| 参加スタイル | 母国からの参加（留学生） | 学習者人数 | 7名 |
| 学習者の主な出身国・地域 | 台湾・澳門・香港 | 実施期間 | 2022年8月～9月<br>※授業2.5時間×週3回の全13回 |
| 使用教材 | Japanese Express | 学習者の使用機器 | PC、スマートフォン、タブレット |

| 重点目標 Can-Do | ・【話す（発表）】本や映画の筋を順序立てて話し、それに対する自分の考えを述べることが出来る。<br>・【話す（発表）】現実や想像上の出来事を述べることが出来る。 |
|---|---|
| 独自目標 | ・受講後の学習者によるアンケート「満足」が70％以上。 |

#### ■カリキュラムの概要

- 教材を活用した反転授業だけでなく、交流会・漫才講座・料理教室など外部機関と連携した日本文化を味わうためのアクテビティを構築し、留学前の学習者の不安を払拭するために、日本に馴染める環境づくりを目指した。
- 計13回の授業において、主にJapanese Expressを使用した日本事情の理解に注力し、最終日のスピーチに向けて会話力向上に努めた。
- クラスでは、事前に日本文化を調べる宿題を提示し、授業で発表する機会を反転授業として多く設けた。

| 各授業回 | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 第1-13回 | 話す | 日本事情や文化の理解を深める | Japanese Express | オンライン（Zoom） |
| 第4.8.11回 | 話す・聞く | 交流会・漫才講座・料理教室等を通じて日本文化を体験し、学ぶ | なし | オンライン（Zoom） |
| 第12回 | 話す・聞く | 専門学校体験授業で日本の物作りを学ぶ | なし | オンライン（Zoom） |
| 第13回 | 話す | スピーチ大会を通じて日本語を話すことに慣れる | なし | オンライン（Zoom） |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

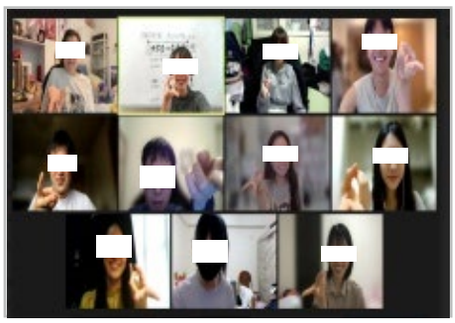
- 体験型授業で日本文化を学ぶ機会を複数提供したことで、各授業の話題が豊富になり、学習者の興味関心度を向上させることが出来た。
- 今回はJapanese Expressを使用し、事前に調べたものを授業内で発表する反転型授業を取り入れたことで、学習者の学習に対する意識や会話力が向上した。

**構成**

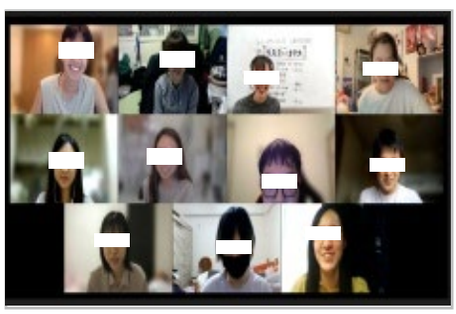
- 「日本事情を理解する」「日本語を話すことに慣れる」を達成目標に、反転型と体験型の2構成で授業のカリキュラムを作成した。
- 留学前の学習者の不安を考慮し、来日する前提での話で授業を進め、実際に訪れた際に体験出来る事柄なども出来る限り授業内で扱い、紹介するように心がけた。

**運営**

- 7月の契約後に10月に入学する予定の学習者向けに案内を送り、応募可能な枠をN3レベル以上と限定した上で、留学センターを通じた応募を開始し、スムーズな募集を心がけた。
- 学校では、既に学習者の情報が記載してある書類を所持していたため、募集から応募までの流れはあまり問題がなかった。



オンライン授業の様子①



オンライン授業の様子②

## 成果と課題

**【受講後アンケート】**

- 日本語学校が独自に実施した効果検証アンケートでは、学習者の授業への満足度が非常に高く、「満足」90％以上を達成でき、目標であったオンライン授業の質の向上を達成することが出来た。
- 恐らく、効果検証アンケートで得られた高い満足度は、授業内容に組み込んだ「体験型」授業が大きく影響していると認識している。その「体験型」授業では、主に交流会、漫才講座、料理教室、専門学校体験等を取り入れ、「勉強」という形ではなく「学ぶ」という側面で日本事情や文化を体験することで、飽きがなく常に楽しい空間を生み出したと言える。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | ・【話す（発表）】本や映画の筋を順序立てて話し、それに対する自分の考えを述べることが出来る。<br>・【話す（発表）】現実や想像上の出来事を述べることが出来る。 | • 日本の文化を理解し、何かの形で実践したり、表現したりできるようになった。<br>• 身近な話題について、リハーサルをして、短い基本的なプレゼンテーションができるようになった。また、PPTなどを駆使して興味深いプレゼンテーションを考え、発表している学習者もいた。 | • 学習者によって、内容についていくことが出来る学習者と遅れてしまう学習者がおり、結果として途中で辞めてしまった学習者が2名いた。<br>• 学習者のモチベーションを維持させることが難しかった。 |
| 独自目標 | ・受講後の学習者によるアンケートの「満足」が70％以上 | • 学習者による満足度アンケートにおいて、全てのクラスで90％以上の学習者が「満足」と回答し、授業の質の向上に寄与した。 | • 学習者への事前の注意事項や授業参加姿勢（カメラONや名前の表示等）の徹底が必要であった。 |

## 今後の取組

「日本事情体験型＋テキストで学ぶサマーコース」は今回で2回目の実施になり、昨年より授業回数は減ったものの学習者の満足度は高いまま授業を継続することが出来た。そのため、オンライン教育を今後推進するのであれば、対面授業の質を重視した上で、時差と教師の負担を軽減できる見込みが見えた段階で、オンライン授業の推進は検討していきたい。

# 静岡インターナショナルスクール（静岡県静岡市）
## 実施クラス：B1到達を目指すJLPT対策コースAクラス

A2・B1 | オンライン | オンデマンド | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1991年 | 主要コース | 進学 | 主要な学習者 | 進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 漢字の学習に重点を置き、日本語能力検定N2以上の合格を達成目標に定めた授業を提供している。日本の高等教育機関や企業において、専門知識や技術・技能および文化を学びたい学習者に対して、2年間のコースと1年半のコースの2種類を提供している。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **実証の結果、双方向授業とeラーニングの活用（オンデマンド）における渡日前学習は渡日後の学習効果向上に寄与することが確認できた。他方で、事前・事後学習をeラーニングで効果的に実施するためには教材の選定に課題があり、知見を積み上げ、教材選定・活用方法の精度向上が必要である。**

### 実証事業背景

渡日前の日本語学習を現地指導に頼ってしまうと、指導内容にばらつきがあり、入学後に学習がスムーズに進まない学習者が一定数居た。そのため、本校入学初期は初級内容を学び直すといった学習のサポートに時間を要してしまい、中・上級の学習時間が不足してしまっていた。

### 実証目的

①日本留学へのモチベーションの維持向上と、②渡日後の学習効果の向上を目的に、「渡日前」の外国人に対してオンライン授業を展開。今後のオンライン・Eラーニング事業を見据えて、教師の教授スキルを高める。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | A2からB1到達を目指す | 対象スキル | 話す（やりとり）/聞く/読む |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向） | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生（進学） |
| 参加スタイル | 母国からの参加（留学生） | 学習者人数 | 13名 |
| 学習者の主な出身国・地域 | ミャンマー/インドネシア/ベトナム | 実施期間 | 2022年8月～9月までの2か月間 |
| 使用教材 | JLPT実力アップコース/eラーニング | 学習者の使用機器 | ＰＣ、スマートフォン |

| 重点目標 Can-Do | 【話す（やりとり）】何をしたいか、どこに行きたいか、誰を選べばよいか、又はどちらを選べばよいか、などを議論し、代案を比較対照できる<br>【聞く】詳細な指示を理解できる |
|---|---|
| 独自目標 | ①受講後の学習者による満足度アンケートにおいて「満足」が70%以上<br>②事前・事後テストの点数が平均5%程度アップ |

#### ■カリキュラムの概要

- カリキュラムは大きく2部構成（①オリエンテーション、②『JLPT実力アップコース』N3を使用したオンライン授業）とし、授業ごとの中で教師が学習者の名前を呼んで質問を投げかけることで学習者全員の均等なアウトプットの機会を作成した。
- 授業開始10分前から質問を受け付ける時間を設け、学習者と1on1で会話を実施し学習状況を把握した。

#### ■授業、授業前後の学習の狙い

| | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 授業前 | ・話す<br>・聞く<br>・読む | フリートークの時間を設定することで、積極的な発話を促す | 【授業時教材】<br>JLPT実力アップコース<br><br>【自習時教材】<br>eラーニングシステム | オンライン（Zoom） |
| 授業中 | | 教師からの質問に対して、自分の言葉で説明する | | |
| 授業後 | | 自主学習を通して、語彙・文法をインプットする | | |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

**【教材】**

- 事前学習した内容を基に、①語彙・文法を学習する。そして②日常的な事例を組み込んだ文章を作成し、作成した文章を実際に発話する。これをルーティンとして、授業を実施。
- 学習補助教材としてeラーニングシステムである「学びーと」を活用できるよう準備。幅広いレベルの問題を組み入れることで、学習者自身が自分のレベルにあった予習・復習を実施。

**構成**

**【全般】**

- 学習者の理解度や理解が難しかった点を把握する目的で、授業開始時に予習問題をもとに易しい言葉で身近な事柄を短い文例に直して提示。

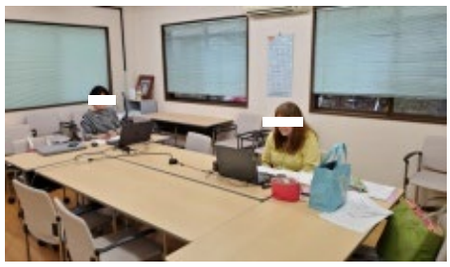
**運営**

**【出席管理】**

- 無断欠席を防ぐことを目的に、欠席連絡の仕方をオリエンテーションで詳細に説明。

**【事前準備】**

- 授業を担当する教師のトレーニングを実施。トレーニングは、Zoomやeラーニングシステムについてレクチャーする基本研修と教師個人が個別にオンラインやYouTubeを使用して研修を行った。個別研修ではオンライン授業計画や授業方法について学んだ。



オンライン授業を実施している教師の様子①

オンライン授業を実施している教師の様子②

## 成果と課題

**【事前・事後テスト（目標達成基準： 点数平均５％程度アップ）】**

- 事前と事後テストの問題は異なっているが、内容的には事後テストの方がレベルが高い問題構成。それでもほとんどの学習者が事後テストの方が点数が高くなっており、平均で14.9%点数がアップした。
- 事前テスト：クラス分けを目的として難易度別に2種類作成して実施。語彙・文法を網羅的に出題した。
- 事後テスト：授業の理解度を把握する目的で、スーパー日本語で学習した内容を基に作成。一度取り扱っている問題から出題した。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | • 【話す（やりとり）】何をしたいか、どこに行きたいか、誰を選べばよいか、又はどちらを選べばよいか、などを議論し、代案を比較対照できる<br>• 【聞く】詳細な指示を理解できる | • 【話す（やりとり）】趣味等、自分についての詳細な説明ができるようになった。<br>• 【話す（やりとり）】、【聞く】教師に対して、学習者自ら積極的に質問することができるようになった。 | • 学習者のネット環境を事前に把握し、必要に応じた調整を図る等、問題発生を事前に抑制する対策を検討する必要がある。<br>• また、学習者がスマホ画面に近づいて授業を受けていることがあり、見えづらそうにしていることがあった。学習者の使用機器に応じて、講義形式だけではなく、会話形式を主とする等のカリキュラム構築を検討する必要がある。<br>• 予習と復習にeラーニングを用いて行う授業は、学習者の意欲次第で十分な学習を進めていく利点がある一方で予習としてeラーニングを取り扱う場合には学習者にとって、新しいことを学ぶため理解が難しい場合があった。そのため、学習者の理解度に応じて、的を絞った授業を展開することが難しく感じた。<br>• レベルに応じて効果的な授業を提供するためには、学習者の能力やeラーニングの学習状況を十分に把握する必要があると考えている。 |
| 独自目標 | • 受講後の学習者による満足度アンケートにおいて「満足」が70%以上<br>• 事前・事後テスト（目標達成基準： 点数平均５％程度アップ） | • 授業への満足度・日本語能力の向上実感の観点で、87%の学習者が「満足」と回答した。<br>• 事前事後テストの結果、平均で14.9%の点数アップが見られた。 | |

## 今後の取組

今後もオンライン授業は継続したい。学習者にとって初めて習う内容をeラーニング教材のみで学習することは難しく、双方向授業で解説を実施する必要があると考えている。今後オンライン教育を展開するうえで、事前・事後の学習素材としての適切にeラーニング教材を活用するための選び方や活用方法には課題が残っているため、実践しながら検討していく必要があると考えている。

# 広島YMCA専門学校（広島県広島市）
## 実施クラス：A1/A2到達を目指すいろどりクラス

A1 | A2 | オンライン | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1989年 | 主要コース | 進学 | 主要な学習者 | 進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | アカデミックな日本語だけでなく、ビジネスの場面で役に立つ日本語や、日常生活で困らないコミュニケーション能力を身に付けるといった学習者のニーズに合わせた授業を提供している。各コースは1年～2年間の期間別で設定されており、入学後にレベルチェックを行い、クラス分けを実施する。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **活用教材の「いろどり」に沿った体系的な授業を提供し、グループワークで会話の機会を十分に提供することで「話す（やりとり）」の能力を強化した。**
- **実証の結果、日本語能力の習得・上達を目指す授業では各種機能を活用し、学習者と関係構築をしながら実施する双方向型授業が効果的であるが、ネット環境や使用サービスの不具合などの課題があり、現地校との連携等による学習者とのコミュニケーション機会の強化を今後検討する。**

### 実証事業背景

海外在住の日本語初学者の留学モチベーションを維持・向上させるために、日本語を初めて学ぶ人に合った「渡日前」の日本語教育の提供が重要だと考えていた。
また、今後オンライン授業を事業展開するには、教師のスキルアップは必要不可欠であると考えていた。

### 実証目的

日本留学へのモチベーションの維持と、潜在的な学習者の掘り起こしを目的に、「渡日前」の外国人に対してオンライン授業を展開。
また、今後のオンライン・eラーニング事業を見据えて、教師のオンライン教育スキル向上を目的に授業を展開。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | 入門からA1到達を目指す<br>A1からA2到達を目指す | 対象スキル | 話す（やりとり）/聞く/読む/書く/日本事情・日本理解 |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向） | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生（進学）/（就職）/（一般） |
| 参加スタイル | 母国からの参加（中国）/日本からの参加（ウクライナ） | 学習者人数 | 15名 |
| 学習者の主な出身国・地域 | 中国、ウクライナ | 実施期間 | 2022年7月～9月までの3か月間 |
| 使用教材 | いろどり 生活の日本語初級Ⅰ | 学習者の使用機器 | ＰＣ、スマートフォン、タブレット |

| 重点目標 Can-do | 【話す（やりとり）】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる |
|---|---|
| 独自目標 | ①受講後の学習者による満足度アンケートにおいて「満足」の回答割合が70%以上<br>②Can-doの達成度について、「よくできた」、「できた」が90%以上 |

#### ■カリキュラムの概要

- カリキュラムは大きく2部構成（①オリエンテーション、②いろどり 生活の日本語初級Ⅰを使用したオンライン授業）で授業を実施。
- また、毎授業の開始時に「いろどり」に記載されているCan-doを授業のゴールとして学習者に共有することで学習者自身が目的をもって授業を受けることができるようにカリキュラムを構成。

| 授業時間 | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 1授業<br>60分 | 話す<br>聞く | いろどり 生活の日本語の中に記載されているCan-doを毎授業の到達目標として授業を実施<br><br>（例：飲み物をすすめられたとき、何を飲みかなど答えることができる。相手を誘ったり、誘われたりしたとき、自分の都合を言うことができる） | いろどり 生活の日本語 | オンライン（Zoom） |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

**【教材】**
- 日常生活における基礎的なコミュニケーション能力を身に付けることを目標に、いろどり 生活の日本語に沿って授業を展開。
- いろどりに沿って①基礎的な語彙を学習して、②教材の音声を使用して会話文の文法を学習する。そして③グループに分かれて会話練習をする。これらを授業の基本構成として、授業を実施。

**構成**

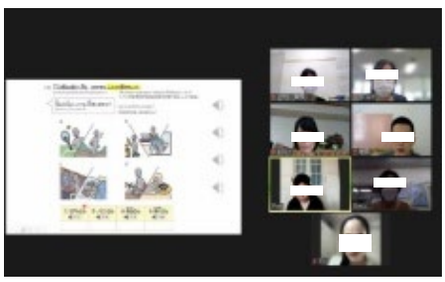
**【全般】**
- 授業を通して「話す」能力を向上させることを目的に、学習者それぞれの発話量を重視したカリキュラムを構成。

**運営**

**【募集】**
- 中国の募集担当者と連携し、本校留学希望の学習者を対象にチラシとメールを活用して募集を行った。

**【教師研修】**
- 授業を担当する教師の事前トレーニングを実施。事前トレーニングは、オンライン形式で実施し、教材研究やオンライン授業の組み立て等をレクチャー。
- 授業開始後もOJT形式でオンラインにおける教授スキルの向上を目的としたトレーニングを実施。

学習者がオンライン授業を受講している様子①



学習者がオンライン授業を受講している様子②

## 成果と課題

**【毎授業後に実施したアンケート】**
- 授業時に設定しているCan-doの達成度を測ることを目的として、毎回授業後に学習者アンケートを実施。
- アンケートはCan-doに対する3段階評価（よくできた、できた、まだ難しい）と自由記述で構成。
- 自由記述には学習者の母語だけではなく、日本語でもコメントがあった。自分自身に内省しているものや教師の指導に対する感謝を記載する学習者が多かった。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | • 【話す（やりとり）】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる | • 【話す（やりとり）】簡単な会話は聞き取ることができており、よく使われる日常表現や言い回しであれば用いることができるようになった。 | **①ネット環境の不具合**<br>• Zoomのブレイクアウト等、各種ツールの活用を通して、日本語学習への意欲を失わないよう留意していたが、学習者・教師双方にとって通信状況の不具合の問題は大きく、学習者が途中でやめてしまうケースがあった。そのため、学習者のニーズに沿って細かなレベル差に対応した授業を展開することが難しいと感じた。<br>**②使用サービスの展開**<br>• Googleクラスルームやジャムボード等のツールにアクセスすることができない地域があったため、活用が制限された。教師が授業内でも様々な試みをしてみたが、接続が切れてしまうことがあった。<br>**③学習者との関係構築**<br>• 対面と比較し、オンライン上で日本語のみの学習者の母語によるサポートがない状態だと教師の意図が十分に伝わり難く、コミュニケーションが不足してしまい人間関係が十分に構築できなかった。 |
| 独自目標 | • 受講後の学習者による満足度アンケートにおいて、「満足」が70%以上<br>• Can-doの達成度について、「よくできた」、「できた」が90%以上 | • 学習者の自己評価として「満足」と回答した割合が83%を占めた。また、モチベーションアップにつながる前向きな記載をする学習者もいた。<br>• 各項目のCan-doについて「よくできた」、「できた」と答えた割合は99％を占めた。 | |

## 今後の取組

今後もオンライン授業を継続したい。個々のネット環境等を鑑みると、可能な限りシンプルな形式でオンライン授業を展開することが望ましい。他方で、各種ツールを活用し、学習者と十分に関係を構築しつつ双方向型の授業を展開することも効果的であると考えており、必要不可欠な機能を見極める必要がある。また、今後は現地校スタッフとの連携等を通じて、学習者と密接なコミュニケーションを取る方法も検討する。

# 広島YMCA専門学校（広島県広島市）
## 実施クラス：A1/A2到達を目指すおしゃべりクラス

A1 | A2 | オンライン | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1989年 | 主要コース | 進学 | 主要な学習者 | 進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | アカデミックな日本語だけでなく、ビジネスの場面で役に立つ日本語や、日常生活で困らないコミュニケーション能力を身に付けるといった学習者のニーズに合わせた授業を提供している。各コースは1年～2年間の期間別で設定されており、入学後にレベルチェックを行い、クラス分けを実施する。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **これまで日本人と話す機会がなかった日本語学習者を対象に、「話す」能力のUPに特段注力して会話機会を多く設定したカリキュラムを構成。**
- **シンプルな教材と授業形態によって、学習者の継続的な授業参加を実現。また、オンライン授業の経験が浅い教師でも円滑な授業運営を展開。**

### 実証事業背景

海外在住の日本語初学者の留学モチベーションを維持・向上させるために、日本語を初めて学ぶ人にあった「渡日前」の日本語教育の提供が重要だと考えていた。
また、今後オンライン授業の事業展開するには、教師のスキルアップは必要不可欠であると考えていた。

### 実証目的

①日本留学へのモチベーションの維持と、潜在的な学習者の掘り起こしを目的に、「渡日前」の学習者に対してオンライン授業を展開。
②今後のオンライン・Eラーニング事業を見据えて、教師のオンライン教育スキル向上を目的に授業を展開。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | 入門からA1到達を目指す<br>A1からA2到達を目指す | 対象スキル | 話す（やりとり）/聞く/読む/書く/日本事情・日本理解 |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向） | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生（進学）/（就職）/（一般） |
| 参加スタイル | 母国からの参加（留学生） | 学習者人数 | 15名 |
| 学習者の主な出身国・地域 | 中国とミャンマー | 実施期間 | 2022年9月～11月までの3か月間 |
| 使用教材 | オリジナルの会話教材 | 学習者の使用機器 | ＰＣ、スマートフォン、タブレット |

| 重点目標 Can-do | 【話す（やりとり）】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる |
|---|---|
| 独自目標 | ①受講後の学習者による満足度アンケートにおいて「満足」の回答割合が70%以上<br>②Can-doの達成度について、「よくできた」、「できた」が90%以上 |

#### ■カリキュラムの概要

- カリキュラムは大きく2部構成（①オリエンテーション、②オリジナルの会話教材を使用したオンライン授業）で授業を実施。
- また、毎授業の開始時に教師がクラスの進捗にあわせて独自に作成したCan-doを授業のゴールとして学習者に共有することで、学習者自身が目的をもって授業を受けることができるようにカリキュラムを構成。

| 授業時間 | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 1授業<br>60分 | 話す<br>聞く | 授業時に取り扱うトピックごとに教師が独自作成したCan-doを毎授業の到達目標として授業を実施<br><br>（例：自分のことを話すことができる。趣味や自分の好きなものについて質問することができる。） | オリジナルの会話教材 | オンライン（Zoom） |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

**【教材】**

- 日常生活における基礎的なコミュニケーション力を身に付けることを目標に、オリジナルの会話教材を作成し授業を展開。
- 自作教材に沿って、①取り扱う質問の確認を行い、その後②ブレイクアウトルームで学習者間の会話を行う。最後に③全体でポイントを確認する。これらを基本構成として、1回の授業で3周行った。

**構成**

**【全般】**

- 授業終了時には簡単な会話ができることを目的に、日本人と話すことを重視したカリキュラムを構築。
- 学習者の発話を促すために各ブレイクアウトルームに日本人教師とボランティアを配置した。

**運営**

**【募集】**

- 中国とミャンマーの募集担当者と連携し、これまで日本人と話したことがない本校留学希望の学習者を対象にチラシやメールで募集を行った。

**【教師トレーニング】**

- 授業を担当する教師の事前トレーニングを実施。事前トレーニングは、オンライン形式で実施し、教材研究やオンライン授業の組み立てなどをレクチャー。
- 授業開始後もOJT形式でオンラインにおける教授スキルの向上を目的としたトレーニングを実施。

授業で使用した会話教材
（独自教材）

## 成果と課題

**【毎授業後に実施したアンケート】**

- 授業時に設定しているCan-doの達成度を測ることを目的として、毎授業後に学習者アンケートを実施。
- アンケートはCan-doに対する3段階評価（よくできた、できた、まだ難しい）と自由記述で構成。
- 自由記述には学習者の母語だけではなく、日本語でもコメントがあった。自分自身に内省しているものや教師の指導に対する感謝を記載する学習者が多かった。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | • 【話す（やりとり）】<br>人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる | • 【話す（やりとり）】<br>簡単な会話は聞き取ることができており、よく使われる日常表現や言い回しであれば用いることができるようになった。 | **①使用サービスの展開**<br>• Googleクラスルームやジャムボード等のツールにアクセスすることができない地域があったため、活用が制限された。教師が授業内でも様々な試みをしてみたが、接続がきれてしまうことがあった。<br>**②会話テーマの興味**<br>• 各ブレイクアウトルームに日本人教師とボランティアを配置することで、学習者の会話機会を担保することができ、日常会話レベルの応答ができるようになった。<br>• 学習者間での会話は、取り扱うテーマによって会話量に差が生じる傾向があり、学習者の興味と離れていた場合は会話が盛り上がらないことがあった。学習者の会話スキルの状況に沿ったテーマ選定の精度を担保していく必要がある。 |
| 独自目標 | • 受講後の学習者による満足度アンケートにおいて、「満足」が70%以上<br>• Can-doの達成度について、「よくできた」、「できた」が90%以上 | • 学習者の自己評価として「満足」と回答した割合が83%を占めた。また、モチベーションアップにつながる前向きな記載をする学習者もいた。<br>• 各項目のCan-doについて「よくできた」、「できた」と答えた割合は99％を占めた。 | |

## 今後の取組

今後もオンライン授業を継続したい。本事業ではシンプルな授業構成であったため、オンライン授業の経験が浅い教師でも円滑に授業を運営することができた。また、本事業ではネット環境の不具合の頻度が少なく、また学習者-教師間、学習者間のコミュニケーションが機会が多い特徴もあり、参加率が高い傾向であった。オンライン授業で活用するツールの必要機能を見極め、可能な限りシンプルな運営方法を構築することを念頭に、精度を高めていきたい。

# ARMS日本語学校/H&A日本語学校（愛知県名古屋市・知立市）

## 実施クラス：A2の学習者を対象にしたJLPT N5/N4対策用クラス

A2 | ハイフレックス | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **設立年度** | 2010年（ARMS）<br>2019年（H&A） | **主要コース** | 進学/一般 | **主要な学習者** | 進学・就職を目指す留学生 |
| **機関概要** | 両学校は、ARMS㈱が運営している日本語学校であり、大学入学要件レベルの「書く、読む、聞く」の能力とともに、コミュニケーション能力に重点を置き、留学生活に必要な実用的な日本語能力を育成している。また、日本での生活における規範やマナー等を踏まえたきめ細かい生活・進路指導等により、日本での生活への順応力や学習意欲の高い人材を育成している。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **JLPT対策（N5/N4）として教材（スーパー日本語）を利用した結果、実施問題の正答率も高く、オンライン事業の学習効果を確認することができた。また、本教材で足りない部分（「話す」「書く」）もカリキュラム構成に工夫を行うことで補完した結果、目標Can-Doも概ね達成することができた。**

### 実証事業背景

入国がストップした時期にオンライン事業を開始したが、オンライン授業の実施方法に問題点があった。
海外における日本発信の教育の実施による学習者の獲得・オンライン授業の品質向上を目指し、本実証事業を実施した。

### 実証目的

日本語能力試験Ｎ５/Ｎ４の合格を目指す学習者向けのオンライン授業を検討することで、学習者の日本語能力の向上及び、日本への留学モチベーション向上につなげる。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| | | | |
|---|---|---|---|
| **学習者レベル** | A２ | **対象スキル** | 話す（やりとり）/聞く/読む/その他 |
| **提供方法** | ハイフレックス | **対象学習者** | ①渡日前留学予定／希望生、②在日留学生 |
| **参加スタイル** | 母国からの参加（留学生）、教室からの参加 | **学習者人数** | 13名（N5）、17名（N4） |
| **学習者の主な出身国・地域** | 東南アジア（インドネシア、ネパール、スリランカ） | **実施期間** | 9月～12月 |
| **使用教材** | スーパー日本語、初級パワーポイント教材 | **学習者の使用機器** | ＰＣ、スマートフォン、タブレット |

| | |
|---|---|
| **重点目標 Can-Do** | ① 話す（やり取り）：【対話相手の理解】時々繰り返しや言い換えを求めることが許されるなら、自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした、共通語での話は大抵理解できる。<br>② 話す（発表）：【総合的な口頭発話】人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。その際、簡単な語句や文を並べることができる。 |
| **独自目標** | ① 学習者に対するアンケート（満足度60％）<br>② 「実力アップN4,N5」：スーパー日本語の「理解度テスト（実施問題）」のランクがS・A・B・C・Dであること（落第者無） |

#### ■カリキュラムの概要

- スーパー日本語N5・N4の問題を宿題として繰り返し解いてもらった上で、同じ問題の解説を授業内で実施した。
- 学習カリキュラムとして、各回の問題⇒理解度テスト⇒確認テストの順番で学習するよう設計し、授業内で間違いが多いものや理解できていない項目について導入練習を実施した。

| 授業時間 | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 1授業<br>120分 | 話す<br>聞く<br>読む | 授業時に理解度テストを実施し、教師が独自作成した重点目標Can-do及び、理解度テスト（実施問題）で落第者がでないことを毎授業の到達目標として授業を実施 | スーパー日本語 | ハイフレックス（対面＋オンライン＋オンデマンド） |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

- 指定教材（スーパー日本語）とはほかに、初級前半の文法導入及び練習用教材として間違いが多そうなポイントを抽出したオリジナル教材（初級パワーポイント教材）を作成した。
- 学習効果を高めることを意識し、語彙・漢字→読解→聴解の順で問題を解くように案内した。

教材（スーパー日本語）活用の様子

**構成**

- JLPT対策という前提で「スーパー日本語」（教材）を利用したが「話す」「書く」の要素が本実証の目標達成には不足していると考え、授業の構成上で以下の補完を行った。
  ① 「話す」の部分を補うため、授業内で問題に出てきた内容を元に日本語で雑談する等、会話を授業の中で実施
  ② 「書く」は、リスニング情報を紙に記載するよう指示

**運営**

- 本教材の仕様上、学習者の「わからない」部分に対するフォローが難しかったため、授業の中で意図的に学習者に質問を投げかけ、理解度チェックを実施した。
- 「読む」について、学習者全員が１画面上で確認する状況だったため、協調したい重要部分をハイライトする工夫や、学習者が見えるよう画面の拡大表示を実施する等、学習者に情報が伝わるよう工夫した。

ハイフレックス授業の様子

## 成果と課題

**【成果】**

独自に実施した学習者向けの独自アンケートでは、両学校とも「N5」の満足度は高いものの、「N4」が当初目標を下回る結果となった。その要因として、N4を目指す学習者にとって、教材として難易度が低く、対象者のレベルに合っていなかったことが考えられる。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | ① 話す（やり取り）：【対話相手の理解】<br>② 話す（発表）：【総合的な口頭発話】 | • 時々繰り返しや言い換えを求めることが許される場合、自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした、共通語での話は大抵理解できるレベルであったため、概ね達成できた | • N5はレベルがあっていなかったため、問題を解く前の学習（エントリーレベル）のフォローの構成検討が必要だった。 |
| 独自目標 | ① 学習者に対するアンケート（満足度60％）<br>② 「実力アップN4,N5」：スーパー日本語の「理解度テスト（実施問題）」のランクがS・A・B・C・Dであること | **①アンケート結果**<br>【N5】<br>（ARMS）とてもよかった100%<br>（H&A） とてもよかった92.0%、よかった8.0%<br>【N4】<br>（ARMS）とてもよかった52.0%、よかった48.0%<br>（H&A） とてもよかった50.0%、よかった50.0%<br><br>**②実施問題の達成率**（※落第者無のため）<br>【N5】<br>（ARMS）クラス全員の平均得点率 62.5%<br>（H&A） クラス全員の平均得点率 88.0%<br>【N4】<br>（ARMS）クラス全員平均得点率 91.0%<br>（H&A） クラス全員平均得点率 89.6% | • A2レベルであることを踏まえると優しめであったため、対象者のレベルと教材に対してギャップがあった。<br>• JLPT対策という前提を踏まえると「読む」「聞く」は強いが、「話す」「書く」が抑えられていなかった。<br>• 試験対策としてみた場合、文法・漢字の問題は対応できたが、読解の場合は文字が小さくて見えにくいとの問題あった。<br>• 現地のインフラ環境（インターネット状況・音声・カメラ）によって、学習環境が左右されるため、授業以外の側面で満足度に差が見られた。 |

## 今後の取組

本取組みは、現地で日本語を学ぶ学習者にとって、他の国籍の学習者とともに生の日本語を学べる機会を提供できた点で有意義であった。一方、ネットワーク環境は国のインフラ整備状況によってばらつきがあり、安定的なオンライン教育の実施するにはハードルが高いのが現状のため、通信環境が不安定なことを前提に、現地の日本語学校との連携体制構築に取り組んでいきたい。

# ARMS日本語学校/H&A日本語学校（愛知県名古屋市・知立市）
## 実施クラス： 1からスタート初級クラス

A1 | オンライン | ハイフレックス | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解

## 教育機関概要

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **設立年度** | 2010年（ARMS）<br>2019年（H&A） | **主要コース** | 進学/一般 | **主要な学習者** | 進学・就職を目指す留学生 |
| **機関概要** | 両学校は、ARMS㈱が運営している日本語学校であり、大学入学要件レベルの「書く、読む、聞く」の能力とともに、コミュニケーション能力に重点を置き、留学生活に必要な実用的な日本語能力を育成している。また、日本での生活における規範やマナー等を踏まえたきめ細かい生活・進路指導等により、日本での生活への順応力や学習意欲の高い人材を育成している。 | | | | |

## 実証結果のサマリ

- **現地のインターネット環境によって、対面・インラインの学習者の反応に差がたものの、現地教師のサポートを得る等の運営面で工夫を行ったことで、目標Can-do及び独自目標を達成することができた。**
- **また、運営側としてZoom機能の習熟に努めた結果、学習者から高い満足度を得ることができた。**

## 実証事業背景

入国がストップした時期にオンライン事業を開始したが、オンライン授業の実施方法に問題点があった。
海外における日本発信の教育の実施による学習者の獲得・オンライン授業の品質向上を目指し、本実証事業を実施した。

## 実証目的

途中で日本語教育の学習を中断した人、または日本への留学をあきらめた人への学び直しの機会を創出することを目的として、初級クラス向け講座の実証を行った。

## 取組内容

### ■クラスの基本情報

| | | | |
|---|---|---|---|
| **学習者レベル** | A1 | **対象スキル** | 話す（やりとり）/聞く/読む/日本事情・日本理解 |
| **提供方法** | オンライン、ハイフレックス | **対象学習者** | ①渡日前留学予定／希望生、②在日留学生 |
| **参加スタイル** | 母国からの参加（留学生）、対面授業による参加 | **学習者人数** | 23名（オンライン）、15名（ハイフレックス） |
| **学習者の主な出身国・地域** | 東南アジア（ネパール、スリランカ） | **実施期間** | 9月～12月 |
| **使用教材** | 初級PPT教材、Magic Pocket | **学習者の使用機器** | ＰＣ、スマートフォン、タブレット |

| | |
|---|---|
| **重点目標 Can−Do** | ① 話す（やり取り）：【対話相手の理解】時々繰り返しや言い換えを求めることが許されるなら、自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした、共通語での話は大抵理解できる。<br>② 話す（発表）：【総合的な口頭発話】人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。その際、簡単な語句や文を並べることができる。 |
| **独自目標** | ① 学習者に対するアンケート（満足度60％）<br>② 「1からスタート初級」：毎回の宿題（文法）達成率が60%以上 |

### ■カリキュラムの概要

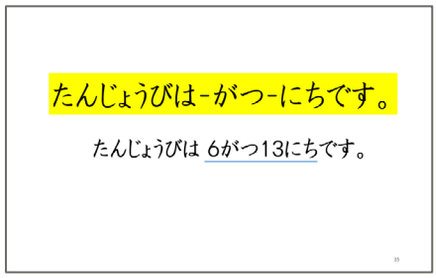
- パワーポイント教材による初級文型の導入・練習を実施。語彙を導入後、文型を導入・定着練習を実施した。
- 授業の最後に、習った文型を使用した会話練習をさせ、発表する形式とした（なお、ハイフレックスは、オンラインでの学習者と対面での学習者がいたため、オンラインと対面の学習者でのやりとりも導入した）。
- Magic Pocketの練習を宿題とし、文型の定着をはかった。

| 授業時間 | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 1授業<br>120分 | 話す<br>聞く<br>読む | 教師が独自作成した重点目標Can-doの他、初級クラスであることを踏まえ、文法の定着を目的に毎回の宿題提出の達成率を到達レベルに設定 | 初級PPT教材、MagicPocket | オンライン（Zoom）<br>ハイフレックス（対面＋オンライン＋オンデマンド） |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

- 学習者に対する日本語の導入研修が可能な初級PPTを作成することで、Magic Pocketの理解を促した。
- Magic Pocket上から発せられる日本語音声を活用し、聞き取りの練習にもなるよう利用を促した。



製作した初級PPT

**構成**

- 本受業のあるべき授業構成イメージを設定した上で、それに該当する練習をMagic Pocket上から抜き出した上で授業の構成を検討した。
- 本講座の学習者ターゲット（勉強やめたり・留学をあきらめた人）を踏まえ、効率的に日本語が学べるよう、授業内で理解ができるよう必要最低限の語彙に絞って学習してもらうことを重視した。

**運営**

- 学習者がMagic Pocketの使い方が分からず、アプリが使えない・課題が送付できない等のトラブルを踏まえ、使い方のアフターフォローに努めた。
- また、現地の日本語学校教師へアプリ導入の支援を求めた。
- オンライン授業の会話を活性化させることを目的として、Zoom機能の習熟に努めた（例：発表者にスポットライトが当たるようオンライン上の表示を工夫等）。

ハイフレックス授業の様子

## 成果と課題

**【成果】**

日本語学校が独自に実施した効果検証アンケートでは、両学校とも学習者の授業への満足度が高く、当初目標60％に対し、オンライン・ハイフレックスのいずれも高い評価を得た。また、毎回の宿題（文法）の達成率もオンライン・ハイフレックスそれぞれ90％以上と高い評価を得た。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | ① 話す（やり取り）：【対話相手の理解】<br>② 話す（発表）：【総合的な口頭発話】 | • 学習者のCan-doの達成状況として、必ずしも均一的ではないものの概ね達成できた。<br>• 今回は当初よりも想定人数が多くなったため、実施環境として難しい部分があったが、お互いが教え合う環境を創出することができた。 | • 画面越しの学習者と対面の学習者との両方に等しい学習環境が提供ができていなかった。<br>• どうしても対面で授業を受けている学習者の声スピードにオンラインの学習者が遅れて反応し、こちらがうまく対応できないことがあった。 |
| 独自目標 | ① 学習者に対するアンケート（満足度60％）<br>② 「1からスタート初級」：毎回の宿題（文法）達成率が60%以上 | ①アンケート結果<br>【オンライン】<br>（ARMS）とてもよかった100％<br>（H&A）とてもよかった81.8%、よかった18.2%<br>【ハイフレックス】<br>（ARMS）とてもよかった87.5%、よかった13.5<br>（H&A）とてもよかった75%　よかった25%<br>②宿題の達成率（平均得点率）<br>【オンライン】<br>（ARMS）97%/（H&A）95.6%<br>【ハイフレックス】<br>（ARMS）94.3%/（H&A）97.6% | • 現地の環境（インターネット状況・音声・カメラ）などによって、快適さが左右された。授業が中断され、複数の学校をつなげて行う場合は 復旧までの待ち時間が発生した。<br>• Magic PocketとPPT教材のみの場合、学習者の手元に学習教材が残らないため、復習用教材を予め用意する必要がある<br>• 現地の日本語学校の先生方と連携体制を構築する必要がある。 |

## 今後の取組

オンライン及びハイフレックスでは、「目の前にいる学習者（リアル）」と「画面上に投影された学習者（バーチャル）」に対する授業の実施が難しく、授業の臨場感に差が生まれた。今後は、リアルとバーチャルの学習者の差を少しでも埋めれるよう、最新技術を活用しながら授業環境の向上に努めていきたい。
また、海外と日本ではインフラ環境が異なるため、現地日本語学校の教師とも連携を深めていきたい。

# ARMS日本語学校/H&A日本語学校（愛知県名古屋市・知立市）
## 実施クラス：コミュニケーション日本語コース入門

A1 | オンライン | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

## 教育機関概要

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **設立年度** | 2010年（ARMS）<br>2019年（H&A） | **主要コース** | 進学/一般 | **主要な学習者** | 進学・就職を目指す留学生 |
| **機関概要** | 両学校は、ARMS㈱が運営している日本語学校であり、大学入学要件レベルの「書く、読む、聞く」の能力とともに、コミュニケーション能力に重点を置き、留学生活に必要な実用的な日本語能力を育成している。また、日本での生活における規範やマナー等を踏まえたきめ細かい生活・進路指導等により、日本での生活への順応力や学習意欲の高い人材を育成している。 | | | | |

## 実証結果のサマリ

- **両学校とも学習者の授業への満足度が高く、Can-Doの理解度に対する学習者・教師の評価も高く、当初の目標設定を上回る結果となった。一方、インフラ環境・言語対応状況等の要因により、満足度が低くなった学習者も一部見られた。**

## 実証事業背景

入国がストップした時期にオンライン事業を開始したが、オンライン授業の実施方法に問題点があった。
海外における日本発信の教育の実施による学習者の獲得・オンライン授業の品質向上を目指し、本実証事業を実施した。

## 実証目的

日本語を母語語とする教師による授業の機会を創出し、日本の留学をリアルにイメージができるようにすることで、学習者の日本への留学モチベーション向上につなげることを目的として本実証事業を実施した

## 取組内容

### ■クラスの基本情報

| | | | |
|---|---|---|---|
| **学習者レベル** | A1 | **対象スキル** | 話す（やりとり）/聞く/読む/日本事情・日本理解 |
| **提供方法** | オンライン（双方向） | **対象学習者** | ①渡日前留学予定／希望生、②在日留学生 |
| **参加スタイル** | 母国からの参加（留学生） | **学習者人数** | 15名 |
| **学習者の主な出身国・地域** | 東南アジア（ミャンマー） | **実施期間** | 10月～12月 |
| **使用教材** | いろどり入門 | **学習者の使用機器** | ＰＣ、スマートフォン、タブレット |

| | |
|---|---|
| **重点目標 Can−Do** | ① 話す（やり取り）：【対話相手の理解】時々繰り返しや言い換えを求めることが許されるなら、自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした、共通語での話は大抵理解できる。<br>② 話す（発表）：【総合的な口頭発話】人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。その際、簡単な語句や文を並べることができる。 |
| **独自目標** | ① 学習者に対するアンケート（満足度60％）<br>② Can-Doリストの自己評価 |

### ■カリキュラムの概要

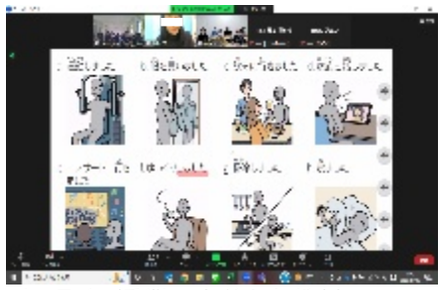
- 「いろどり」を使用して、日本に来てからの生活で日本人とコミュニケーションをとる場面を想定した活動内容を中心にカリキュラムを作成した。
- 教材の音声を使った聞き取り練習後、モデル会話の定着練習を実施し、最後にペアで会話練習をして発表を行う流れとした。

| 授業時間 | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 1授業<br>180分 | 話す<br>読む<br>聞く | 重点目標Can-do及び学習者の自己評価を到達目標として授業を実施 | いろどり入門 | オンライン（Zoom） |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

- 学習教材「いろどり」の学習者想定として、「日本で日本語を学ぶ留学生」用であったことから、実際に来日していない学習者にとってイメージすることが難しい語彙があったため、頻度の高い語彙をイメージ映像で補足することで、学習者の質を高める工夫をした。



オンライン授業で実施した教材（いろどり）

**構成**

- 学習教材「いろどり」を活用しながらも、授業目標と照らし合わせて必要なところを抜粋するなど、構成を変更した。
- 学習教材内容の構成として、パーソナルな情報発信から第三者へ意見が言えるよう、教材の構成を編集し直した（例：家族等の身近な情報→本人の好き嫌い・興味の発信→第三者への働きかけ→日本にきた時の必要な知識→自己主張）。

**運営**

- 受業の会話（話す）学習では、発表までのロールプレイングが実施できるよう、現地の日本語学校教師と協力し、学習者に情報を伝達した。
- オンライン先の学習者の反応を確認するために、大型モニターを設置し、学習の反応をみながら実施した。

オンライン授業の様子

## 成果と課題

**【成果】**

日本語学校が独自に実施した効果検証アンケートでは、両学校とも学習者の授業への満足度が高く、当初目標60％に対し、いずれも高い評価を得た。また、Can−Doの自己評価も理解度として95％であり、教師側も概ね達成できたと評価している。

一方、インフラ環境の差や言語の未対応等の要因により、満足度を低く回答した国も一部見られた。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | ① 話す（やり取り）：【対話相手の理解】<br>② 話す（発表）：【総合的な口頭発話】 | 学習者のCan-doの達成状況として、必ずしも均一的ではないものの概ね達成できた。 | **【レベルの近い学習者の見極め】**<br>学習者の日本語レベルに差があり、一部の学習者にはハードルが高かったり、逆に簡単すぎる等の状況が見られた。 |
| 独自目標 | ① 学習者に対するアンケート（満足度60％）<br>② Can-Doリストの自己評価 | **①アンケート結果**<br>（ARMS）とてもよかった100％<br>（H&A）とてもよかった69.2%、良かった23.0%<br>**②Can-Doリストの自己評価**<br>（ARMS）理解度　100％<br>（H&A）理解度　95.3% | **【授業用教材の言語整備】**<br>一部の言語（クメール語）の語彙リストがなく学習教材の利用方法が伝わりにくかった。<br>**【安定的なインフラ環境】**<br>インフラ環境が国毎に差があり、安定的に授業が受けれない国も見られた。 |

## 今後の取組

「いろどり」は、特に日本に来ることを想定した内容になっており、本実証の学習者の関心とマッチし日本語教材として使用しやすい内容となっていたと考える。また、オンラインの活用により、来日前に日本文化や生活に根差した場面を想起しやすく、学習者の留学前の橋渡しの場が創出できた。一方で、オンライン授業を行う上での機材が十分に揃っておらず課題が残った側面があり、円滑な双方向コミュニケーション創出する体制構築を進めていきたい。

# 名古屋国際学院（愛知県名古屋市）
## 実施クラス：オンライン留学準備150時間コース

A1 | オンライン | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 2017年 | 主要コース | 進学、就職 | 主要な学習者 | 渡日前の留学生（進学） |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 就職・進学等を目的とした留学生の他、日本に住む外国人生活者に対する日本語教育にも対応している。また、日本語コースでは、基礎レベルから上級レベルまで、確実な日本語力を身に着けるための勉強を行っており、自身の目的に応じた日本語力を着実に身に着けることが出来る有意義なコースを展開していることが特徴である。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **渡日前の150時間以上の学習要件を満たすオンラインコースを構築することを目的に実証事業を展開。学習者-教師間の円滑なコミュニケーションを図ることを重視し、少人数でのクラスで授業を展開することで、学習者のモチベーションを維持しやすい環境を用意。事後テストでは顕著な向上が見られた。**

### 実証事業背景

新型コロナウイルスの影響で日本への留学者数が減少したことをきっかけに、パンデミック前の水準にいち早く戻るための一助として、留学ビザ取得条件の１つとなっている、150時間以上の日本語学習証明を発行できるオンラインコースを運営することにした。

### 実証目的

渡日後の学習効果の向上を目的に、「渡日前」の外国人に留学ビザの取得条件の一つである150時間以上のオンライン授業を展開。それにより、留学するモチベーションの向上につなげたいと考える。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | A1からA2到達を目指す | 対象スキル | 話す（やりとり）/話す（発表）/聞く/読む/書く/日本事情・日本理解 |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向） | 対象学習者 | 渡日前留学予定/希望生、その他 |
| 参加スタイル | 母国からの参加（留学生） | 学習者人数 | 6名（内本事業対象者4名） |
| 学習者の主な出身国・地域 | タイ、中国 | 実施期間 | 10月~12月（3カ月）<br>※週4回×10回の全40回 |
| 使用教材 | Japanese Express～Reading Bank、【JLPT】実力アップコース、Magic Pocket | 学習者の使用機器 | PC、スマートフォン、タブレット |

| 重点目標 Can-Do | 【日本事情・日本理解】日本文化について興味関心を持ち、情報を収集することが出来る。<br>【話す（発表）】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることが出来る。 |
|---|---|
| 独自目標 | ①修了生の1年以内の留学ビザ申請率20%<br>②事前・事後テストの点数平均5%程度アップ |

#### ■カリキュラムの概要

- 留学ビザの取得条件の一つとなっている150時間以上の日本語学習クラスを構築するため、今回は週に4回（1.5時間×2回、3時間×2回）の授業を行った。
- カリキュラムは「読む」や「書く」ことよりも「話す」ことを重視し、最後の発表会では自分自身の興味のあるテーマについて話す機会を作った。

| 各授業回 | 対象スキル | 授業概要 | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 第1回 | 読む・聞く・話す | クラスルールやMagic Pocket操作等の説明を行い、自己紹介も実施した。 | 【JLPT】実力アップコース・Magic Pocket | オンライン（Zoom） |
| 第2-39回 | 読む・聞く・話す | 日本に興味を持ち、知りたい情報について質問や回答が出来るようになるため、「話す」ことにフォーカスして授業を実施した。 | 【JLPT】実力アップコース<br>Japanese express | オンライン（Zoom） |
| 第40回 | 聞く・話す | 自身の興味関心のあるテーマについて事前に選択し、そのテーマについて言いたいことを話すことが出来るようになるため、最後の授業に発表会を設けた。 | 【JLPT】実力アップコース | オンライン（Zoom） |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

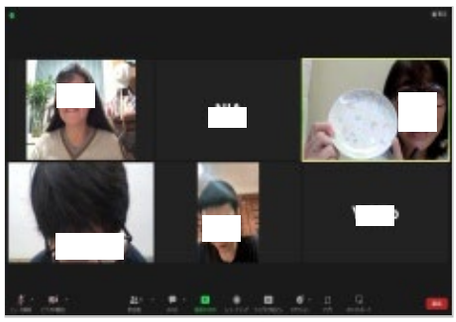
- 「話す」については、オンライン授業でも少人数であれば、対面と同じ質を保ちながら、会話力を向上させることが可能である。
- 今回はMagic Pocketを自習教材として使用し、前もって学習に取り組むことが出来る環境を整えた。
- Zoomのチャットや休み時間、授業後を活用し、頻繁に学習者とコミュニケーションが取れるように心掛けたことで、学習者の会話力が向上した。

**構成**

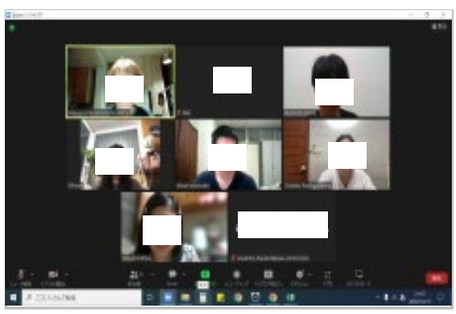
- JLPT対策のための文法理解を主眼に置いたが、日本に留学した際に学習内容を実践的に活用できるよう留意して指導を行った。具体的には、日本で生活する上で直面するであろうシチュエーションを具体的に示しながら文法学習を行った。また、インプット偏重にならぬよう、学習者同士での会話練習や発表を多く取り入れた。

**運営**

- 学習者の募集に関しては、直近で実施された学校主催のセミナーの参加者リスト宛てに事業案内を送付した結果、想定内の応募を得ることが出来た。
- オンライン授業で懸念とされるZoom設定の準備など授業開始前に2回MTGを実施して備え、授業開始後は3回MTGを行い、大きなトラブルなく円滑に授業を始めることが出来るように整えた。



オンライン授業の様子①



オンライン授業の様子②

## 成果と課題

**【修了生の1年以内の留学ビザ申請率20%】**
途中で離脱する学習者が多かったが、最終的に留学対象となる学習者が1名残り、その学習者については将来的な留学ビザ申請を前向きに検討中である。

**【事前・事後テストの点数平均5%程度アップ】**
授業実施前に行った確認テストでは、学習者6名の平均点は22.5点だったが、オンライン授業後に行った確認テストでは、学習者全員が30点満点を取ることが出来た。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | • 【日本事情・日本理解】日本文化について興味関心を持ち、情報を収集することが出来る。<br>• 【話す（発表）】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることが出来る。 | • 授業の最終回に発表する機会を設けたが、学習者全員が1人約5~10分で事前に決めたテーマを伝えることが出来ていた。その発表では、自身の言いたいことや伝えたいことを話すことが出来ていた。 | • 講師によってZoomなどの機器の取扱いが上手くできない場合があったため、事前研修の必要性を感じた。<br>• インターネット環境は国によって異なり、途中で接続が切れる可能性があることから、読解や聴解に注力したオンライン授業の実施は難しい。 |
| 独自目標 | ①修了生の1年以内の留学ビザ申請率20%<br>②事前・事後テストの点数平均5%程度アップ | ①留学対象となる1名の学習者が前向きに留学ビザの申請を検討している。<br>②授業実施前に行った確認テストでは、学習者6名の平均点は22.5点だったが、オンライン授業実施後に行った確認テストでは、学習者全員が30点満点を取得出来るまで向上した。 | • 学習者のレベルに合った教材がなく、学習者に適切な授業の提供が出来なかったため、離脱者が増えてしまった。また離脱者のその後を確認出来なかった。<br>• 国よっては、教材アプリにアクセス出来ない状況が発生したため、Zoomのチャット機能を使い、コミュニケーションをとるように心掛けた。 |

## 今後の取組

今回学校として150時間以上のオンライン授業の構築を試みたが、実証事業且つ少人数で実施出来たというプラスの要素があったため、単発的な実施が可能であったが、継続的な運営を目指すならば、収益面を確保しなければならない。今後のオンライン授業は、留学予定のある学習者向けに最大10人程度の少人数制クラスでの展開を考えているが、実際に実施するのであれば離脱者を減らす方策を考え、収益を維持出来る方法を検討していきたい。

# 国際言語文化センター附属日本語学校（沖縄県那覇市）

**実施クラス：渡日前の外国人留学生を主な対象とした入門クラス** ※受講目的（進学・就労・一般）は問わない

A1 | オンライン | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

## 教育機関概要

| 設立年度 | 1983年 | 主要コース | 進学 | 主要学習者 | 大学・専門学校への入学を目的とした学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 就職・進学等を目的とした留学生の他、沖縄県に住む外国人生活者に対する日本語教育にも対応。主要コースでは、2年間の留学を通じて概ねB2レベルまでの達成を目指している。外国人のための日本語教育の他、文化庁受理講座として本格的な日本語教師養成講座も行っており、日本語教師の養成にも力を入れている。 | | | | |

## 実証結果のサマリ

- **①留学モチベーションの向上②渡日後授業開始時のレベルの底上げを目的に、留学準備～渡日・本格的な学習スタートまでの空白期期間におけるオンライン授業を実施。授業時間中は、対面授業と遜色なく学習者コミュニケーションが取れ、学習者のモチベーションの高まり、自信に繋がっていることが分かった**

## 実証事業背景

本校で学ぶ留学生のほとんどが、「渡日後」から本格的な学習を開始するため、日本語教育カリキュラムの初期段階に時間を割かなくてはならない状況。また、沖縄県には日本語を学びたいが、通学が難しい外国人生活者が多い実態がある

## 実証目的

留学開始までのモチベーション維持、渡日後の学習効果の向上を目的に、「渡日前」の外国人にオンライン授業を展開。また、県内在住の外国人生活者を対象とするクラスも設置し、通学が難しい潜在的な学習ニーズを検証

## 取組内容

### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | 開始時：A1レベル<br>完了時：A1レベル充足 | 対象スキル | 話す（やりとり）/話す（発表）/聞く/読む/書く/日本事情・日本理解 |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向） | 対象学習者 | ①渡日前留学予定/希望生<br>②県内外国人生活者<br>※進学・就労等の目的を問わない |
| 参加スタイル | 母国からの参加（留学生）、沖縄県内からの参加（生活者） | 学習者人数 | 39名（内訳：ネパール28人/ベトナム6人/アメリカ2人/プエルトリコ1/ブラジル2） |
| 学習者の主な出身国・地域 | ネパール、ベトナム<br>その他（アメリカ、プエルトリコ、ブラジル） | 授業期間 | 2022年10月～12月 / 全72回（1コマ45min） |
| 使用教材 | いろどり 生活の日本語<br>※別途、確認テストを独自に作成して進捗を把握 | 学習者の使用機器 | スマートフォンが主流<br>その他、PC・タブレット等 |

| 重点目標 Can-Do | ・話す（やりとり）：【会話】相手が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる<br>・話す（やりとり）：【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる 短い簡潔な指示を理解できる<br>・話す（発表）：【総合的な口頭発話】人物や場所について、単純な語句を並べて、述べることができる。<br>・聞く：【広報・アナウンスや指示を聞くこと】自身に対する、丁寧でゆっくりと話された指示なら理解できる。短い簡単な説明なら理解できる |
|---|---|
| 独自目標 | ①受講後の学習者によるアンケート「満足以上」が75％以上<br>②本校設定の初級1クラスレベルに到達 ※初級1レベル：『みんなの日本語』初級1 第20課までの学習済みと同等レベル |

### ■カリキュラムの概要

【スケジュール】
- 1回2コマ、1週間に3回のペースでスケジュールを構成した

【概要】
- 本校の設定する初級1クラス終了レベル（『みんなの日本語』初級Ⅰ第20課まで学習済み）到達を目指す
- 活用教材「いろどり」の教材構成に沿って、カリキュラムを設定。教材の「オリエンテーション」を題材にしたコマを第1回目で活用する等、一部教材の構成を組み替えてカリキュラムを構成した
- 「いろどり」の他、独自の補助教材（Googleフォームを活用した選択式の確認テスト）を用いて、1課ごとに確認テストとフィードバックを実施し、カリキュラムの最後に「まとめテスト」を実施した

## 取組の特徴や工夫点

**質**

**【教材・授業】**

- いろどり 生活の日本語の「入門」を活用。各課の初めに、いろどりに付随する①「ことばリスト」でその課で活用する言葉を学習して、その後②「文法ノート」を活用して文法を学習。そして③本編を学んだ後に毎回④「確認テスト」で授業の振り返りを行う。①～④をルーティンとして、第18課まで実施
- 確認テストは、Googleフォームを活用して授業ごとに各担当教師が作成
- 教材は、プリントアウトする前提で構成されており、オンラインでは、問題と回答が画面上で同時に確認できる仕様であると、より使いやすいと思われる。

**【授業の基本構成】**

「ことばリスト」を活用した語彙学習

↓

「文法ノート」を活用した文法学習

↓

本編学習（聞く・話す・読む・書く）

↓

確認テスト

オンライン授業を実施する教師の様子

**構成**

**【全般】**

- 基本的には、いろどり 生活の日本語【入門】のカリキュラムに沿って実施。
- 本冊中の課を一部「オリエンテーション」で使用する等、独自に組換を実施。

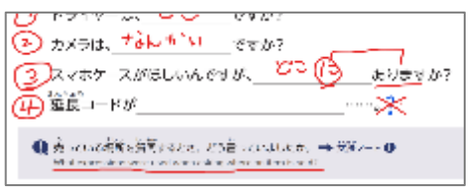
**運営**

**【募集】**

- ネパールの学習者に対して、現地の日本語学校を通して募集。また、ベトナムからは技能実習生の研修施設からの受講希望を受け入れた。県内外国人生活者の募集は、SNSを活用して募集。

**【事前準備】**

- オンライン授業の経験がない教師に対して、事前にオンライン授業の仕方についての事前研修を実施。また、授業日ごとに共有ドライブにフォルダを作成し、活用教材を仕分し、教材の活用・共有のしやすさを工夫。



PDF教材に教師が解説（マウスで描写）

## 成果と課題

**【学習者の満足度アンケート（目標達成基準：「満足」以上が75%）】**

- 最終日出席者に、アンケート調査を実施担当教師の評価とコースについて、1人40点満点でクラスごとの平均を出したところ、それぞれ34.6点（86.5%）、33.9点（84.8%）36.0点（90%）という結果となり、当初の目標成果を達成。

**【Google formsを使用したテスト（目標達成基準：6割以上の正答）**

- 最終日出席者に、**まとめテスト**を実施（テストは1問1点で30問30点満点）。各クラスの平均点を出したところ、それぞれ、15.5点（52%）、21.3点（71%）、23.0点（77%）だった。6割以上の得点を取った人数割当は、72%（16/22）であり、概ね当初目標を達成。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | 以下のスキルをのCanDoから、重点項目を設定<br>• 話す（やりとり）<br>• 話す（発表）<br>• 聞く | • 日本人の先生と日本語と話すことで、自信がつき、カリキュラムが進むにつれ学習者達の耳もなれてきた様子であった。<br>• カリキュラムが進むにつれて、質問が対面クラスと遜色なく増え、重点CanDoは概ね達成したと考える。<br>• オンライン授業でも想定以上にコミュニケーションが取れることが分かった。 | • ここ、そこ、あそこといった位置的概念や、授受表現を教えることが困難であり、動画が教材に組み込まれているとより良い。<br>• テキストに音声だけでなく動画もあれば、さらにスムーズな授業展開が可能と考える。 |
| 独自目標 | ① 学習者の満足度アンケート：「満足」以上が75%<br>② まとめテストで6割以上の正答 | ① 全てのクラスで80%以上が「満足」以上を回答し目標達成。<br>② 6割以上の得点を取った人数割合は72%（16/22）概ね当初目標を達成。 | • ②の目標得点に届かなかった学習者に対してフォローアップすることが困難なスケジュールとなり、今後の展開ではフォローアップを踏まえた運用を検討したい。<br>• 今後は授業に後れを取っている学習者に対してフォローできる授業構成にする等の工夫が必要だと考える。 |

## 今後の取組

本実証を通じて、学習者の留学モチベーションが高まり、入国前の学習者の期待が高まったことが伺えた。渡日後入学時のレベルが上がれば、卒業時の習得レベルも上がることが期待される。今後、①入学決定~渡日前の学習者のモチベーション向上、②日本での授業開始段階のレベルの底上げを目的に、オンライン授業を継続する方法を検討したい。有料オプションの一つとする等、マネタイズ方法が課題となる。また、留学未決の学習者も対象にする等、対象の拡張も検討したい。

# 京都励学国際学院（京都市伏見区）
## 実施クラス：初中級実力養成クラス

A1 | A2 | オンライン | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 2006年 | 主要コース | 進学 | 主要な学習者 | 大学進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | ● 日本という外国で暮らしながら国際感覚を養い、高度な日本語の能力を身につけ、さらに世界へ羽ばたこうとする若者に、日本の大学や大学院に進学する機会を提供することを目的として設立<br>● 本学院が設置する「進学コース」では、進学希望者のほぼ全員が半年から二年の勉学の後、日本の大学院・大学・専門学校へ進学<br>● 学習者のニーズに柔軟に応える姿勢、目的と能力に合わせて効率よく日本語が学べる、校外学習や課外活動を通じて体験学習、の3つの特色を重視 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **自国での学習ではアウトプットの機会が少ない学習者にとって、今回のオンライン授業は渡日前学習として非常に良い機会だったと考える。また、クラスを通して日本語能力の向上も見られ、オンライン教育の実施は成果があったと考える。**
- **今後、オンライン授業を継続をする際は、渡日前のオンライン教育から、渡日後の対面授業における教育の提供といった流れを確立していくことで、学習者の増加に繋げていく必要があると考える。**

### 実証事業背景

コロナ禍における2年間、日本語のオンライン授業を実施してきた。これまでの開発教材とノウハウを活かし、より多様な外国人学習者に日本語教育を行っていきたいと考えた。本実証を通じ、本学院のオンライン授業の更なる質の向上を図る。

### 実証目的

学習効果の向上（言語取得レベルの向上）、カリキュラムの充実化（拡大・更新等）、オペレーションの効率化、潜在的学習者の掘り起こし、学習モチベーションの向上、留学モチベーションの向上を狙う。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| レベル | A1,A2 | 言語能力 | 話す（やりとり）、話す（発表）、聞く、読む、書く |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生 |
| 参加スタイル | 母国からの参加 | 学習者人数 | 4クラス38名 |
| 学習者の主な出身国・地域 | 中国 | 実施期間 | 2022年7月～9月、10月～12月 |
| 使用教材 | NEJ, Magic Pocket | 学習者の使用機器 | ＰＣ、携帯電話／スマートフォン、iPad／タブレット |

| 重点目標 Can-Do | 話す（発表）：【長く一人で話す：経験談】事項を列挙して簡単に述べたり、物語ることができる。自分の周りの環境、例えば、人や場所、仕事、学習経験などの日常を述べることができる。 |
|---|---|
| 独自目標 | ①満足度アンケートによる「満足」が全体で70%以上。<br>②中間、期末テストの伸び率を確認する。 |

#### ■カリキュラムの概要

- 将来日本へ留学することを計画し、初級段階（日本教育の参照枠A1レベル）の実力を身につけた学習者（主に高校上級生や高校卒業生）を対象に、「留学」という学習者の将来の目的に適した初中級段階の日本語能力を養成することを目標とした。
- 特に「留学」の場面で重要になる口頭および書記での自己表現能力を伸ばすため、NEJを教科書として使用。
- 授業は期間内90分で毎日実施し、主にNEJの教材に沿ってカリキュラムの構成。
- 事前・事後学習にはMajic Poketを併用して活用。

## 取組の特徴や工夫点

**質**

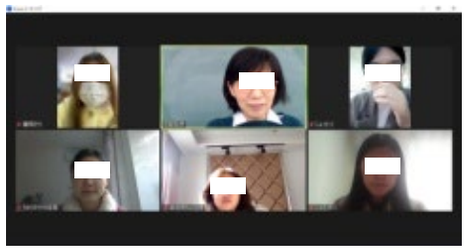
- 使用している教材（NEJ）の出版社が運営するHPから、音声やトレーニングシートのダウンロードが可能であり、学習者が各自ダウンロードし、授業の事前・事後学習に活用することで、効果的な学習効果が得られた。
- NEJではカバーできない文法等については、Majic Poketを併用して活用することで補填した。

**構成**

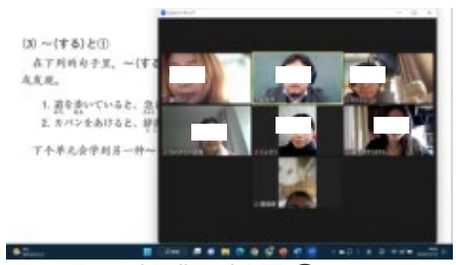
- カリキュラム構成は基本的にNEJ教材に沿って構築。授業はブレイクアウトルームを活用し、会話の機会を作ることで、双方のコミュニケーション機会を創出し、対面授業に相当する効果が得られるように配慮した。
- また、オンライン授業は対面と比較して、教師と学習者が1：1で会話できる機会が少ないため、授業の終盤などに1：1で会話する時間を設定することで、教師・学習者間のコミュニケーションを図った。

**運営**

- 教師間で共通のG-mailアドレスを作成し、学習者への連絡や課題の送付等を行った。また教師間ではGoogleドライブを活用し、学習者の課題を共通で閲覧できるようにするなど運用面の効率化を図った。
- 学習者の利用デバイスは必ずしもPCではなく、スマホを利用する学習者もいたため、資料の文字は大きく作成する等の工夫を行った。また、スマホで参加している場合、Zoomチャットによる資料の受け取りができないことが発覚し、技術的な知識を事前に習得しておく必要があると感じた。



オンライン授業の様子①



オンライン授業の様子②

## 成果と課題

**【全体的な成果と課題】**

中国にいる学習者を対象に渡日前の日本語能力向上といった観点では成果があったと考える。一方で運営面やコスト面など、課題が残るところもあり、今後の継続を検討する際に、渡日前のオンライン教育から、渡日後の対面授業における教育の提供といった流れを確立していくことで、学習者の増加に繋げていく必要があると感じている。

**【学習者向けアンケート結果】**

オンライン授業による日本語能力の向上度合いについては4段階中3.5pt以上と評価が高く、また、日本語学習への継続意欲は4ptと高得点の結果となった。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | 【長く一人で話す：経験談】事項を列挙して簡単に述べたり、物語ることができる。自分の周りの環境、例えば、人や場所、仕事、学習経験などの日常を述べることができる。 | 下記の要因から、渡日前の学習として一定効果があったと判断する。<br>・学習者が日常的に話す内容や言葉の表現が増えた<br>・インプットとアウトプットを繰り返す授業を行ったことで、最終的に「話す」能力の向上が見られた | 「話す」能力については、オンライン授業の場合、教師と学習者の1：1の会話の機会が少なかったため、授業とは別に1：1の会話の機会を設けたり、ブレイクアウトルームを活用する等の工夫が必要 |
| 独自目標 | ①満足度アンケートによる「満足」が全体で70%以上。<br>②中間、期末テストの伸び率を確認する。 | ①学習者アンケートの結果、満足度は4段階中3.7ptと非常に高く、達成したと判断する。<br>②テストの点数においては平均点の維持に留まったが、ヒアリング等において学習者の能力向上を確認することができた。 | |

## 今後の取組

運営面やコスト面など課題が残るところもあり、今後の継続を検討する際に、渡日前のオンライン教育から、渡日後の対面授業における教育の提供といった流れを確立していくことで、学習者の増加に繋げていく必要があると感じている。

# 大阪YMCA国際専門学校・大阪YMCA学院（大阪府大阪市）
## 実施クラス：A1レベルの前半の到達を目指すクラス（初級1）

A1 | オンライン | オンデマンド | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1969年 | 主要コース | 進学・就職 | 主要な学習者 | 大学進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 進学・就職等を目的とした留学生の他、現地に住む外国人生活者に対する日本語教育や語学研修等にも幅広く対応。特に、進学・就職を目的とする留学生に対しては複数の種類のコースが提供されており、日本語レベルや目標に合わせて選択することが可能。外国人のための日本語教育の他、日本語教育の振興に向けた研究や、日本語学習教材の開発等も実施している。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **A1レベル前半の到達を目標にクラスを実施。特に「話す」「聞く」の力を伸ばすための、反転型授業を想定した教材を作成し、入国・留学前のオンライン学習に活用。学習者がきちんと事前学習を行っていたため、授業中は事前学習にはない難易度の高い文型や表現も取り扱い、学習効果の向上を図った。**

### 実証事業背景

入国のめどが立たない学習者に対してオンライン授業を展開していたが、入国後の本校コースへの移行をスムーズに行うためには、自律的に学ぶ方法を身につけてもらうことが重要であると感じた。また、感染状況や入国制限等の状況を鑑みて、オンラインを活用した教育をより幅広く提供すべきと考えた。

### 実証目的

① 特に「話す」「聞く」の力を伸ばすための、反転型授業を想定した初級教材を作成する。
② ①の教材を入国・留学前の事前学習や入学後の自習用教材として活用するほか、「日本語オンラインステップコース」の整備を図り国内外の学習者に対して学習の機会を拡充する。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | A1レベルの前半の到達を目指す | 対象スキル | 話す（やりとり）/話す（発表）/聞く |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向）、オンデマンド | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生 |
| 参加スタイル | 母国からの参加（2023年入学希望者）、日本国内からの参加（在校している留学生等） | 学習者人数 | 10名（最終受講数7名） |
| 学習者の主な出身国・地域 | 東アジア（中国、台湾、香港、韓国）、東南アジア（ベトナム） | 実施期間 | 9月6日~9月29日 |
| 使用教材 | オリジナル教材①～⑥を活用<br>①ことばのリスト②ひょうげんノート（PDF）③じゅぎょうのまえに④かいわのれんしゅう（動画）⑤オンラインクイズ⑥オンラインテスト（LMS） | 学習者の使用機器 | ＰＣ、スマートフォン、タブレット |

| 重点目標 Can-Do | 話す（やりとり）【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。<br>話す（発表）【長く一人で話す：経験談】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができる。<br>聞く【包括的な聴解】意味が取れるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。 |
|---|---|
| 独自目標 | ①授業終了後、学習者及び教師に向けて行ったアンケートの「満足」が5段階評価のうち4段階以上の回答が70%以上<br>②LMSのアクセス数（授業前にログインして予習を行ったか、また授業後にログインして復習を行ったか）<br>③オンラインテストの点数が70%以上 |

#### ■カリキュラムの概要

- 第1-3回、第5-7回では事前のオンデマンド学習を前提に、表現の形・意味・使い方の確認や「話す」「聞く」を中心とした会話練習を行った。第4回と第8回ではロールプレイを行い、それまでに学んだ言葉や表現を実践で使えるように練習した。

| 回 | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 第1-3回 | 話す、聞く | オンライン上で名前、出身地などの自己紹介、好きなもの、今いる場所など自分のことについて話せるようになる | 教師自作のPPT資料 | オンライン（Zoom） |
| 第4回 | 話す、聞く | 第1-3回で学んだ言葉や表現を実践で使うことができる | 教師自作のPPT資料 | オンライン（Zoom） |
| 第5-7回 | 話す、聞く | 自分の日常行動について話せるようになる | 教師自作のPPT資料 | オンライン（Zoom） |
| 第8回 | 話す、聞く | 第5-7回で学んだ言葉や表現を実践で使うことができる | 教師自作のPPT資料 | オンライン（Zoom） |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

- 学習者はきちんと事前学習を行って授業に臨んでいたため、授業中は事前学習にはないような難易度の高い文型や表現も取り扱い、＋αの要素を組み入れた。
- 会話練習でブレークアウトルームを使用する際は、学習者同士がきちんと日本語で練習できるように、国籍や日本語レベルが分かれるようにメンバーを調整した。

**構成**

- 特に「話す」「聞く」の力を伸ばすための、反転型授業を想定した初級教材を作成した。【作成教材】①ことばのリスト：新語の意味、漢字表記、品詞を記したリスト、②ひょうげんノート：学習する表現の文法の説明、③じゅぎょうのまえに：学習する表現の説明および練習の動画、④かいわのれんしゅう：③で学習した表現を用いた短い会話を練習する動画
- 初級を4レベルに分け、初級1と2はA1レベル、初級3と4はA2レベルとしてクラスを設置した。

**運営**

- 授業で取り扱った資料のやり取りや事務連絡のみにとどまらず、日本での生活に関する疑問等授業外の内容についても学習者と教師でメールでやり取りすることで、信頼関係を築くことができた。
- PPTで授業中の指示を明確にすることで、スムーズに会話練習に移行でき、また質問の時間を十分にとることができた。

作成したオンライン教材

オンライン授業の様子

## 成果と課題

**【授業終了後のオンラインテスト】**

日本語学校が独自に実施した授業終了後のオンラインテストでは、学習者全員が合格点をとることができた。

**【学習者向けアンケート結果】**

総合満足度については4段階中全員が最高評価である4を選択し、評価が高かった。また、日本語能力が向上したかについては回答者の平均値が4段階中3.6であった。継続して日本語学習を続けたいかについては、、4段階中全員が最高評価である4を選択した。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | • 話す（やりとり）【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。<br>• 話す（発表）【長く一人で話す：経験談】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができる。<br>• 聞く：【包括的な聴解】意味が取れるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。 | • 話す（やりとり）【会話】相手の名前や国、趣味、相手の行動、今いる場所の気候、日本語を勉強している理由などを聞いて、反応ができた。<br>• 話す（発表）【一人で長く話す】簡単な日本語で自己紹介や自分の日常的な行動、1週間のスケジュールを話すことができた。<br>• 聞く：【包括的な聴解】短い文でゆっくりと注意深く発音してもらえれば、相手の発話が理解できた。 | • オンライン授業を選択する際の日本語レベルチェックは自己判断で行ってもらったため、一部では学習者とクラスのレベルが合わない、というケースが一部あった。今後は、オンライン上で簡単に判断できるテストを実施できればよい。<br>• 学習者が自由に話せる機会を多く設けてもよかったと思われる<br>• 会話練習のブレークアウトルームの時間が短いという意見があった。相手を変えて練習する回数を多くしたことが原因と考えられる。<br>• 10月に学習者が来日する予定であったため、その準備が忙しく欠席してしまう学習者がいた。今後は、来日時期を考慮したうえでオンライン授業を実施することが望ましいと考えられる。 |
| 独自目標 | ①授業終了後、学習者及び教師に向けて行ったアンケートの「満足」が5段階評価のうち4段階以上の回答が70%以上<br>②LMSのアクセス数（授業前にログインして予習を行ったか、また授業後にログインして復習を行ったか）<br>③オンラインテストの点数70%以上 | ①学習者：100％（回答者数7名）、教師：100％<br>②LMSへはほぼ全員がログインしており、予習・復習をきちんと行っていることが伺えた。<br>③学習者全員がオンラインテストで合格点に到達していた。 | |

## 今後の取組

今後オンライン教育を継続するにあたり、①反転授業を行う前に学習者へ授業の進め方や教材の説明を十分に行う、②開講前に通訳をつけたオリエンテーションを開く、③オリエンテーションビデオを作成する、等の取組を行い、反転授業の進め方や授業前の予習・復習等学習への取り組みを十分に理解してうことが重要である。また、対面とは違いオンラインではコミュニケーションを図るのが難しいため、授業外での学習者への働きかけや連絡を密に取ることが必要である。

# 大阪YMCA国際専門学校・大阪YMCA学院（大阪府大阪市）
## 実施クラス： A1レベルの後半の到達を目指すクラス（初級2）

A1 | オンライン | オンデマンド | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1969年 | 主要コース | 進学・就職 | 主要な学習者 | 大学進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 進学・就職等を目的とした留学生の他、現地に住む外国人生活者に対する日本語教育や語学研修等にも幅広く対応。特に、進学・就職を目的とする留学生に対しては複数の種類のコースが提供されており、日本語レベルや目標に合わせて選択することが可能。外国人のための日本語教育の他、日本語教育の振興に向けた研究や、日本語学習教材の開発等も実施している。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **A1レベル後半の到達を目標にクラスを実施。特に「話す」「聞く」の力を伸ばすための、反転型授業を想定した教材を作成し、入国・留学前のオンライン学習に活用。会話ロールプレイのテストを行う際は、学習者に目標を提示したうえで実施することで、モチベーション向上を図った。**

### 実証事業背景

入国のめどが立たない学習者に対してオンライン授業を展開していたが、入国後の本校コースへの移行をスムーズに行うためには、自律的に学ぶ方法を身につけてもらうことが重要であると感じた。また、感染状況や入国制限等の状況を鑑みて、オンラインを活用した教育をより幅広く提供すべきと考えた。

### 実証目的

① 特に「話す」「聞く」の力を伸ばすための、反転型授業を想定した初級教材を作成する。
② ①の教材を入国・留学前の事前学習や入学後の自習用教材として活用するほか、「日本語オンラインステップコース」の整備を図り国内外の学習者に対して学習の機会を拡充する。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | A1レベルの後半の到達を目指す | 対象スキル | 話す（やりとり）/話す（発表）/聞く |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向）、オンデマンド | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生<br>在日留学生 |
| 参加スタイル | 母国からの参加（2023年入学希望者）、日本国内からの参加（在校している留学生等） | 学習者人数 | 17名（最終受講数8名） |
| 学習者の主な出身国・地域 | 東アジア（中国、台湾、香港、韓国）、東南アジア（ベトナム）、ヨーロッパ（ウクライナ）、オーストラリア | 実施期間 | 11月1日~11月24日 |
| 使用教材 | オリジナル教材①～⑥を活用<br>①ことばのリスト②ひょうげんノート（PDF）③じゅぎょうのまえに④かいわのれんしゅう（動画）⑤オンラインクイズ⑥オンラインテスト（LMS） | 学習者の使用機器 | ＰＣ、スマートフォン、タブレット |

| | |
|---|---|
| 重点目標 Can-Do | 話す（やりとり）【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。【目的達成のための協同作業】人に物事を要求したり、与えることができる。<br>話す（発表）【総合的な口頭発話】人物や場所について、単純な語句を並べて、述べることができる。<br>聞く【包括的な聴解】意味が取れるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。 |
| 独自目標 | ①授業終了後、学習者及び教師に向けて行ったアンケートの「満足」が5段階評価のうち4段階以上の回答が70%以上<br>②LMSのアクセス数（授業前にログインして予習を行ったか、また授業後にログインして復習を行ったか）<br>③オンラインテストの点数が70%以上 |

#### ■カリキュラムの概要

- 第1-3回、第5-7回では事前のオンデマンド学習を前提に、表現の形・意味・使い方の確認や「話す」「聞く」を中心とした会話練習を行った。第4回と第8回ではロールプレイを行い、それまでに学んだ言葉や表現を実践で使えるように練習した。

| 週 | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 第1-3回 | 話す、聞く | 自分の周りの人について話せるようになる | ②④ | オンライン（Zoom） |
| 第4回 | 話す、聞く | 第1-3回で学んだ言葉や表現を実践で使うことができる | 教師作成のPPT（②や④を基に作成） | オンライン（Zoom） |
| 第5-7回 | 話す、聞く | 休日の過ごし方について話せるようになる | ②④ | オンライン（Zoom） |
| 第8回 | 話す、聞く | 第5-7回で学んだ言葉や表現を実践で使うことができる | 教師作成のPPT（②や④を基に作成） | オンライン（Zoom） |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

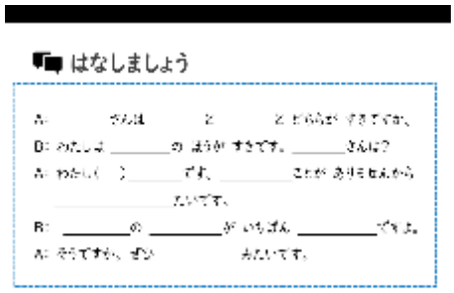
- 会話ロールプレイのテストを行う際は、学習者に目標を提示したうえで実施することで、モチベーション向上を図った。
- 学習者がオンライン授業に飽きないよう、クイズ形式にする等授業内容を工夫した。
- 学習者のレベル差がかなり大きく、様々なレベルの学習者が混在する形だったが、レベルの高い学習者には手本になってもらう等して、学習者同士で助け合える雰囲気を醸成した。

**構成**

- 特に「話す」「聞く」の力を伸ばすための、反転型授業を想定した初級教材を作成した。【作成教材】①ことばのリスト：新語の意味、漢字表記、品詞を記したリスト、②ひょうげんノート：学習する表現の文法の説明、③じゅぎょうのまえに：学習する表現の説明および練習の動画、④かいわのれんしゅう：③で学習した表現を用いた短い会話を練習する動画
- 初級を4レベルに分け、初級1と2はA1レベル、初級3と4はA2レベルとしてクラスを設置した。

**運営**

- 教師に対しては授業開始前に説明会を実施し、カリキュラム、教材、LMSの使い方の資料を提供した。教師側も、使ったことのない機能については、事前研修を受ける等してオンライン授業実施に向けて準備した。
- 学習者側のネットワーク環境があまりよくなかったため、授業中は話すスピードを遅くし、学習者が内容を聞き取れるように配慮した。




- 作成したオンライン教材

- オンライン授業の様子

## 成果と課題

**【授業終了後のオンラインテスト】**
日本語学校が独自に実施した授業終了後のオンラインテストでは、学習者2名が合格点をとることができた。

**【学習者向けアンケート結果】**
総合満足度は4段階中3.5以上と評価が高かった。また、各言語能力の向上度合については、「話す（やりとり）」が3.4、「話す（発表）」が3.2、「聞く」が3.3と比較的評価が高かった。日本語学習継続のモチベーションも、3.8と高評価であった。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | • 話す（やりとり）【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。【目的達成のための協同作業】人に物事を要求したり、与えることができる。<br>• 話す（発表）【総合的な口頭発話】人物や場所について、単純な語句を並べて、述べることができる。<br>• 聞く【包括的な聴解】意味が取れるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。 | • 【会話】相手の家族について、人数や年齢、どんな人かを質問し、それに答えることができた。<br>• 【目的達成のための協同作業】人に物事を要求したり、依頼することができた。<br>• 【総合的な口頭発話】人物や場所、自分の経験について、単純な語句を並べて、簡単に説明することができた。<br>• 【包括的な聴解】意味が取れるように、ゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話や教師の指示を理解できた。 | • 比較的日本語能力の高い学習者にとっては教材のレベルが簡単であったため、全体的に能力が伸びにくかった。<br>• 一方でレベルが低めの学習者は、PPT資料と口頭の両方で説明してもなかなか理解できないケースがあった。<br>• カメラをオフにして授業を受ける学習者が多く反応が分かりにくかったため、学習者と教師感で関係性を築くことが難しかった。<br>• 学習者への説明が十分ではなかったため、予習や復習のオンラインテストを実施する割合が低かった。 |
| 独自目標 | ①授業終了後、学習者及び教師に向けて行ったアンケートの「満足」が5段階評価のうち4段階以上の回答が70%以上<br>②LMSのアクセス数（授業前にログインして予習を行ったか、また授業後にログインして復習を行ったか）<br>③オンラインテストの点数が70%以上 | ①学習者：50%（回答者数8名）、教師：50％<br>②最後まで授業に出席していた学習者に関しては、概ねがLMSにログインしていた<br>③合格者は全体の25%と高くはなかったが、授業を進めるにつれて学習者は正確に話せるようになり会話力の向上が確認できた | |

## 今後の取組

今後オンライン教育を継続するにあたり、①反転授業を行う前に学習者へ授業の進め方や教材の説明を十分に行う、②開講前に通訳をつけたオリエンテーションを開く、③オリエンテーションビデオを作成する、等の取組を行い、反転授業の進め方や授業前の予習・復習等学習への取り組みを十分に理解してうことが重要である。また、対面とは違いオンラインではコミュニケーションを図るのが難しいため、授業外での学習者への働きかけや連絡を密に取ることが必要である。

# 大阪YMCA国際専門学校・大阪YMCA学院（大阪府大阪市）
## 実施クラス： A2レベルの前半の到達を目指すクラス（初級3）

A2 | オンライン | オンデマンド | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1969年 | 主要コース | 進学・就職 | 主要な学習者 | 大学進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 進学・就職等を目的とした留学生の他、現地に住む外国人生活者に対する日本語教育や語学研修等にも幅広く対応。特に、進学・就職を目的とする留学生に対しては複数の種類のコースが提供されており、日本語レベルや目標に合わせて選択することが可能。外国人のための日本語教育の他、日本語教育の振興に向けた研究や、日本語学習教材の開発等も実施している。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **A2レベル前半の到達を目標にクラスを実施。特に「話す」「聞く」の力を伸ばすための、反転型授業を想定した教材を作成し、入国・留学前のオンライン学習に活用。授業で会話練習を行う際は、学習者と一緒に考えて会話文を作成することで、学習者の参加意欲向上を図った。**

### 実証事業背景

入国のめどが立たない学習者に対してオンライン授業を展開していたが、入国後の本校コースへの移行をスムーズに行うためには、自律的に学ぶ方法を身につけてもらうことが重要であると感じた。また、感染状況や入国制限等の状況を鑑みて、オンラインを活用した教育をより幅広く提供すべきと考えた。

### 実証目的

① 特に「話す」「聞く」の力を伸ばすための、反転型授業を想定した初級教材を作成する。
② ①の教材を入国・留学前の事前学習や入学後の自習用教材として活用するほか、「日本語オンラインステップコース」の整備を図り国内外の学習者に対して学習の機会を拡充する。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | A2レベルの前半の到達を目指す | 対象スキル | 話す（やりとり）/話す（発表）/聞く |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向）、オンデマンド | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生<br>在日留学生 |
| 参加スタイル | 母国からの参加（2023年入学希望者）、日本国内からの参加（在校している留学生等） | 学習者人数 | 6名 |
| 学習者の主な出身国・地域 | 東アジア（中国、台湾、香港）、東南アジア（マレーシア、フィリピン） | 実施期間 | 11月1日~11月24日 |
| 使用教材 | オリジナル教材①～⑥を活用<br>①ことばのリスト②ひょうげんノート（PDF）③じゅぎょうのまえに④かいわのれんしゅう（動画）⑤オンラインクイズ⑥オンラインテスト（LMS） | 学習者の使用機器 | ＰＣ、スマートフォン、タブレット |

| | |
|---|---|
| 重点目標 Can-Do | 話す（やりとり）【情報の交換】娯楽や過去の活動について質問をし、答えることができる。【製品やサービスを得るための取引】日常品やサービスを求めたり、提供したりできる。<br>話す（発表）【長く一人で話す：経験談】事項を列挙して簡単に述べたり、物語ることができる。自分の周りの環境、例えば、人や場所、仕事、学習経験などの日常を述べることができる。<br>聞く【包括的な聴解】もし、はっきりとゆっくりとした発音ならば、具体的な必要性を満たすことが可能な程度に理解できる。 |
| 独自目標 | ①授業終了後、学習者及び教師に向けて行ったアンケートの「満足」が5段階評価のうち4段階以上の回答が70%以上<br>②LMSのアクセス数（授業前にログインして予習を行ったか、また授業後にログインして復習を行ったか）<br>③オンラインテストの点数が70%以上 |

#### ■カリキュラムの概要

- 第1-3回、第5-7回では事前のオンデマンド学習を前提に、表現の形・意味・使い方の確認や「話す」「聞く」を中心とした会話練習を行った。第4回と第8回ではロールプレイを行い、それまでに学んだ言葉や表現を実践で使えるように練習した。

| 週 | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 第1-3回 | 話す、聞く | 施設の利用方法を確認することができる | ②④ | オンライン（Zoom） |
| 第4回 | 話す、聞く | 第1-3回の復習、ロールプレイ | 教師作成Word資料 | オンライン（Zoom） |
| 第5-7回 | 話す、聞く | 心身の健康について日本語で説明することができる | ②④ | オンライン（Zoom） |
| 第8回 | 話す、聞く | 第5-7回の復習、ロールプレイ | 教師作成Word資料 | オンライン（Zoom） |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

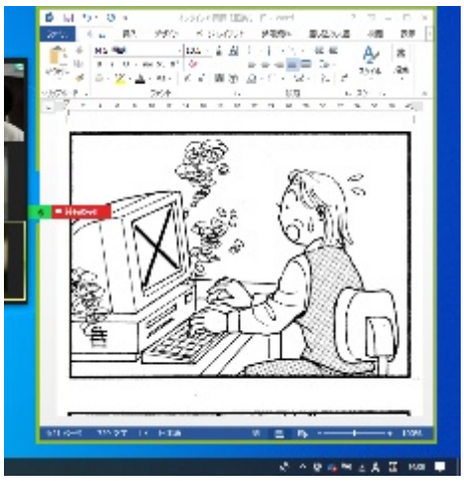
- ロールプレイの際には、口頭だけではなく文字も用いて会話場面の説明を行い、学習者の理解を促した。
- 会話文も提供するだけではなく、授業中に学習者と一緒に考えて作り上げることで、学習者の参加意欲向上を図った。
- レベルの高い学習者と低い学習者をペアにして会話練習を行うことで、レベルの高い学習者がリードできるように図った。

**構成**

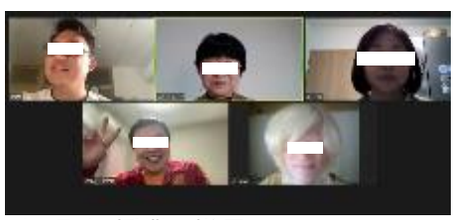
- 特に「話す」「聞く」の力を伸ばすための、反転型授業を想定した初級教材を作成した。【作成教材】①ことばのリスト：新語の意味、漢字表記、品詞を記したリスト、②ひょうげんノート：学習する表現の文法の説明、③じゅぎょうのまえに：学習する表現の説明および練習の動画、④かいわのれんしゅう：③で学習した表現を用いた短い会話を練習する動画
- 初級を4レベルに分け、初級1と2はA1レベル、初級3と4はA2レベルとしてクラスを設置した。

**運営**

- 学習者とは、メールに加えて公式ラインアカウントで連絡を取った。
- LMSはラーニングボックスを使用し、学習者がLMSにアクセスして予習や復習を行っているか確認した。アクセスが確認できない学習者に対しては、個別に連絡する等して予習・復習を促した。



作成したオンライン教材



オンライン授業の様子

## 成果と課題

**【授業終了後のオンラインテスト】**
日本語学校が独自に実施した授業終了後のオンラインテストでは、最後まで出席した学習者全員が合格点をとることができた。

**【学習者向けアンケート結果】**
総合満足度やオンライン授業による日本語能力の向上度合いについては4段階中3.5以上と評価が高かった。また、日本語学習への意欲の向上度合いについては、回答した学習者全員が最高評価である4と回答をした。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | 話す（やりとり）【情報の交換】娯楽や過去の活動について質問をし、答えることができる。【製品やサービスを得るための取引】日常品やサービスを求めたり、提供したりできる。<br>話す（発表）【長く一人で話す：経験談】事項を列挙して簡単に述べたり、物語ることができる。自分の周りの環境、例えば、人や場所、仕事、学習経験などの日常を述べることができる。<br>聞く【包括的な聴解】もし、はっきりとゆっくりとした発音ならば、具体的な必要性を満たすことが可能な程度に理解できる。 | • 【情報の交換】娯楽（施設の利用や文化体験の申し込み）や過去の活動について質問をし、答えることができた。<br>• 【製品やサービスを得るための取引】施設での店員とのやりとりを通して、日常品やサービスを求めたり、提供したりできた。<br>• 【長く一人で話す】自分の周りの環境（人間関係や仕事、学校のこと）などの日常を述べることができた。自分の状態や習慣を述べることができた。<br>• 【包括的な聴解】はっきりとゆっくりとした発音ならば、具体的な必要性を満たすことが可能な程度に理解できた。必要に応じて聞き返すこともできた。 | • 学習者からは、「教材が少ない」「書くの言語活動能力をより伸ばしたかった」という意見を受領した。今後、教材のブラッシュアップや取り扱う言語活動の検討が必要と考えられる。<br>• 最初はLMSの使い方が分からない学習者がいたが、個別に説明したことで次第に使用できるようになった。 |
| 独自目標 | ①授業終了後、学習者及び教師に向けて行ったアンケートの「満足」が5段階評価のうち4段階以上の回答が70%以上<br>②LMSのアクセス数（授業前にログインして予習を行ったか、また授業後にログインして復習を行ったか）<br>③オンラインテストの点数が70%以上 | ①学習者：85.7%、教師：66.7%<br>②概ねの学習者はLMSにログインし、予習・復習を行っていた<br>③最後まで受講した学習者全員がオンラインテストで合格点に達していた | |

## 今後の取組

今後オンライン教育を継続するにあたり、①反転授業を行う前に学習者へ授業の進め方や教材の説明を十分に行う、②開講前に通訳をつけたオリエンテーションを開く、③オリエンテーションビデオを作成する、等の取組を行い、反転授業の進め方や授業前の予習・復習等学習への取り組みを十分に理解してうことが重要である。また、対面とは違いオンラインではコミュニケーションを図るのが難しいため、授業外での学習者への働きかけや連絡を密に取ることが必要である。

# 大阪YMCA国際専門学校・大阪YMCA学院（大阪府大阪市）
## 実施クラス： A2レベルの後半の到達を目指すクラス（初級4）

A2 | オンライン | オンデマンド | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1969年 | 主要コース | 進学・就職 | 主要な学習者 | 大学進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 進学・就職等を目的とした留学生の他、現地に住む外国人生活者に対する日本語教育や語学研修等にも幅広く対応。特に、進学・就職を目的とする留学生に対しては複数の種類のコースが提供されており、日本語レベルや目標に合わせて選択することが可能。外国人のための日本語教育の他、日本語教育の振興に向けた研究や、日本語学習教材の開発等も実施している。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **A1レベル前半の到達を目標にクラスを実施。特に「話す」「聞く」の力を伸ばすための、反転型授業を想定した教材を作成し、入国・留学前のオンライン学習に活用。会話練習の際は習得してほしい文型や表現を織り込んだ会話例を示すことで、学習内容の定着を図った。**

### 実証事業背景

入国のめどが立たない学習者に対してオンライン授業を展開していたが、入国後の本校コースへの移行をスムーズに行うためには、自律的に学ぶ方法を身につけてもらうことが重要であると感じた。また、感染状況や入国制限等の状況を鑑みて、オンラインを活用した教育をより幅広く提供すべきと考えた。

### 実証目的

① 特に「話す」「聞く」の力を伸ばすための、反転型授業を想定した初級教材を作成する。
② ①の教材を入国・留学前の事前学習や入学後の自習用教材として活用するほか、「日本語オンラインステップコース」の整備を図り国内外の学習者に対して学習の機会を拡充する。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | A2レベルの後半の到達を目指す | 対象スキル | 話す（やりとり）/話す（発表）/聞く |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向）、オンデマンド | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生<br>在日留学生 |
| 参加スタイル | 母国からの参加（2023年入学希望者）、日本国内からの参加（在校している留学生等） | 学習者人数 | 6名 |
| 学習者の主な出身国・地域 | 東アジア（中国、台湾、香港）、ヨーロッパ（フランス）、北米（アメリカ） | 実施期間 | 11月1日~11月24日 |
| 使用教材 | オリジナル教材①～⑥を活用<br>①ことばのリスト②ひょうげんノート（PDF）③じゅぎょうのまえに④かいわのれんしゅう（動画）⑤オンラインクイズ⑥オンラインテスト（LMS） | 学習者の使用機器 | ＰＣ、スマートフォン、タブレット |

| | |
|---|---|
| 重点目標 Can-Do | 話す（やりとり）【対話相手の理解】時々繰り返しや言い換えを求めることが許されるなら、自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした、共通語での話は大抵理解できる。<br>話す（発表）【長く一人で話す：経験談】計画、準備、習慣、日課、過去の活動や個人の経験を述べることができる。<br>聞く：【他の話者同士の対話の理解】ゆっくりと、はっきりとした議論なら、自分の周りで議論されている話題は大方分かる。 |
| 独自目標 | ①授業終了後、学習者及び教師に向けて行ったアンケートの「満足」が5段階評価のうち4段階以上の回答が70%以上<br>②LMSのアクセス数（授業前にログインして予習を行ったか、また授業後にログインして復習を行ったか）<br>③オンラインテストの点数が70%以上 |

#### ■カリキュラムの概要

- 第1-3回、第5-7回では事前のオンデマンド学習を前提に、表現の形・意味・使い方の確認や「話す」「聞く」を中心とした会話練習を行った。第4回と第8回ではロールプレイを行い、それまでに学んだ言葉や表現を実践で使えるように練習した。

| 回 | 対象スキル | 目標とする到達レベル | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 第1-3回 | 話す、聞く | 日常の問題について自分の考えを説明することができる | 教師作成Word（文法を簡単に説明した資料、）会話練習ができるように会話モデルを記載した資料 | オンライン（Zoom） |
| 第4回 | 話す、聞く | 第1-3回で学んだ言葉や表現を実践で使うことができる | | オンライン（Zoom） |
| 第5-7回 | 話す、聞く | 将来の夢に関する自分の考えを説明することができる | | オンライン（Zoom） |
| 第8回 | 話す、聞く | 第5-7回で学んだ言葉や表現を実践で使うことができる | | オンライン（Zoom） |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

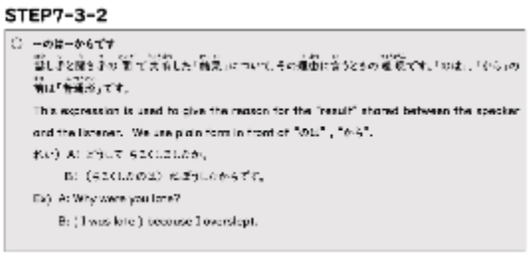
- 会話練習の際は、練習後にまとめて気になる点や注意を伝えることで、必ずフィードバックを行い、学習者がより正確に話すことができるようサポートした。
- 会話練習の会話文の文型が難しいと簡単な文型で話してしまう学習者がいたため、使ってほしい文型や表現を織り込んだ会話例をPPT資料に記載し、学習者に共有した。

**構成**

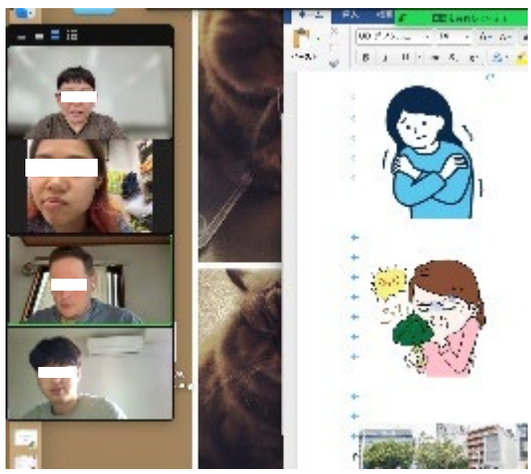
- 特に「話す」「聞く」の力を伸ばすための、反転型授業を想定した初級教材を作成した。【作成教材】①ことばのリスト：新語の意味、漢字表記、品詞を記したリスト、②ひょうげんノート：学習する表現の文法の説明、③じゅぎょうのまえに：学習する表現の説明および練習の動画、④かいわのれんしゅう：③で学習した表現を用いた短い会話を練習する動画
- 初級を4レベルに分け、初級1と2はA1レベル、初級3と4はA2レベルとしてクラスを設置した。

**運営**

- 提携しているエージェントを通して、入学予定の学習者、日本留学に興味のある学習者等幅広く募集を行った。
- 授業を欠席した学習者に対しては、授業で使用した資料を送付し、練習内容の概略の説明、LMSでの復習の催促を行った。




作成したオンライン教材



オンライン授業の様子

## 成果と課題

**【学習者向けアンケート結果】**

総合満足度については4段階中全員が最高評価である4を選択し、評価が高かった。また、日本語能力が向上したかについては回答者の平均値が4段階中3.7であった。継続して日本語学習を続けたいかについては、4段階中全員が最高評価である4を選択した。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | • 話す（やりとり）【対話相手の理解】時々繰り返しや言い換えを求めることが許されるなら、自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした、共通語での話は大抵理解できる。<br>• 話す（発表）【長く一人で話す：経験談】計画、準備、習慣、日課、過去の活動や個人の経験を述べることができる。<br>• 聞く：【他の話者同士の対話の理解】ゆっくりと、はっきりとした議論なら、自分の周りで議論されている話題は大方分かる。 | • 話す（やりとり）【対話相手の理解】時々繰り返しや言い換えを求めながら、身近な事柄や第三者の状況ににについて、はっきりとした、共通語での話は大抵理解できた。<br>• 話す（発表）【長く一人で話す】過去の経験や今現在のとの自分との違い、これからの計画やそれに必要な準備などを話すことができた。<br>• 聞く：【他の話者同士の対話の理解】ゆっくりと、はっきりとした話し方であれば、他が話している内容は大方理解することができた。 | • 学習者への説明が十分ではなかったため、予習や復習のオンラインテストを実施する割合が低かった。<br>• LMSについて十分に説明できておらず、LMSを活用して自己管理する学習者はほとんどいなかった。<br>• 海外では時差があるため、授業時間が合わずに受講をやめてしまう学習者がいた。 |
| 独自目標 | ①授業終了後、学習者及び教師に向けて行ったアンケートの「満足」が5段階評価のうち4段階以上の回答が70%以上<br>②LMSのアクセス数（授業前にログインして予習を行ったか、また授業後にログインして復習を行ったか）<br>③オンラインテストの点数が70%以上 | ①学習者：100%（回答者数3名）、教師：100%<br>②LMSへはほとんどの学習者がアクセスしておらず、予習・復習は行っていないようであった<br>③テスト学習者の点数は約50%程度であった | |

## 今後の取組

今後オンライン教育を継続するにあたり、①反転授業を行う前に学習者へ授業の進め方や教材の説明を十分に行う、②開講前に通訳をつけたオリエンテーションを開く、③オリエンテーションビデオを作成する、等の取組を行い、反転授業の進め方や授業前の予習・復習等学習への取り組みを十分に理解してうことが重要である。また、対面とは違いオンラインではコミュニケーションを図るのが難しいため、授業外での学習者への働きかけや連絡を密に取ることが必要である。

# コミュニカ学院（兵庫県神戸市）
## 実施クラス：初級者を対象としたA1レベルのクラス（AM実施）

A1 | オンライン | オンデマンド | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1988年 | 主要コース | 進学・一般 | 主要な学習者 | 大学進学・就職等を目的とする留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 教科書どおりの表現を学ぶのではなく、各学習者が自分らしくコミュニケーションできる力を養うことを大切にしている。進学コースでは、進学後の学習・研究や留学生活を見据えた、ハイレベルな日本語能力や自律学習の力を身につけることが可能。日本語研修も受託しており、テーラーメイドで企業・団体別のカリキュラムを構成して講座を提供することが可能。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **ひらがな・カタカナの読み書き、簡単な自己紹介がスムーズにできるようになることを目標として実施した。ひらがな・カタカナの読み書きはオンデマンド教材を作成して授業に組み込んだ。最終授業では、ゲストと交流し、自己紹介を実践する場を設けたことで、学習者が自信を持ってできるようになった。**

### 実証事業背景

日本語のゼロ初級者が入学するケースが増え、ゼロ初級者とある程度日本語の知識がある学習者とで、入学者の日本語レベルに差が生じていた。学習者のレベルのばらつきが大きいと授業を進めることが難しいため、入学後の学習を円滑にすべく、ゼロ初級の学習者のレベルを引き上げる必要があった。

### 実証目的

留学予定者が、日本語学校への入学決定後から実際に来日するまでの数か月間に、日本語の基礎力をつけることが可能なプログラムを開発する。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | A1 | 対象スキル | 話す（やりとり）/話す（発表）/聞く/読む/書く/日本事情・日本理解 |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン、オンデマンド | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生<br>在日留学生 |
| 参加スタイル | オンライン参加 | 学習者人数 | 15名 |
| 学習者の主な出身国・地域 | 東南アジア、南アジア、ヨーロッパ、北米、南米、オーストラリア | 実施期間 | 8月25日~9月16日 |
| 使用教材 | オリジナル教材（①「日本語オーバービュー」教材セット、②自己評価ツール、③ひらがな・カタカナ教材セット、④日本語コミュニケーション「自己紹介」教材セット、⑤漢字教材セット、⑥シャドーイング教材セット） | 学習者の使用機器 | ＰＣ、スマートフォン、タブレット |

| 重点目標 Can-Do | 話す（やりとり）【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。<br>話す（発表）【長く一人で話す：経験談】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができる。 |
|---|---|
| 独自目標 | ①プログラム終了時に、ひらがな・カタカナの読み書き、簡単な自己紹介がスムーズにできるようになる |

#### ■カリキュラムの概要

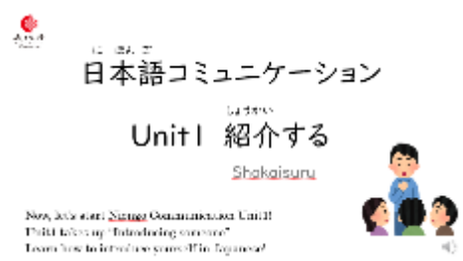
- 最初にオーバービューで言語意識を高めた上で、各回、事前にオンデマンド教材（PDFや動画）による導入、オンライン同期によるクラス授業で理解と運用練習、事後の復習クイズという、3ステップのサイクルで、基礎力の定着を図った。

| 週 | 対象スキル | 概要 | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 第1回 | 日本事情・日本理解 | 母語と日本語の特徴や違いを比較する。プログラムの始めの自己評価を行う | ①② | オンデマンド・オンライン |
| 第2回 | 読む・書く | ひらがな・カタカナの読み、書きの練習を行う | ③ | オンデマンド・オンライン |
| 第3-6回 | 話す・聞く | 初対面で簡単な自己紹介ができるように、名前・ふるさと・家族・すまい・仕事・卒業後の予定・趣味などが言えるように練習を行う | ④ | オンデマンド・オンライン |
| 第7回 | 話す・聞く | 漢字の学び方、およびシャドーイングの方法と効果を知る | ⑤⑥ | オンデマンド・オンライン |
| 第8回 | 書く | 初対面の会話にかかわる文法の整理、および文化比較 | ④ | オンデマンド・オンライン |
| 第9回 | 話す・聞く | 自己紹介の実践、日本人との交流会 | - | オンデマンド・オンライン |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

- 初級者は聞くだけではなかなか理解が難しい段階のため、授業中に投影するPPT資料に学習者への指示や練習内容を明記することで、視覚的にも理解できるように工夫した。
- オンライン授業では「書く」は学習者の手元が見えず指導が難しかったため、「書き順付練習sheet」をLMSで学習者へ配布し宿題として課すことで、習得を図った。



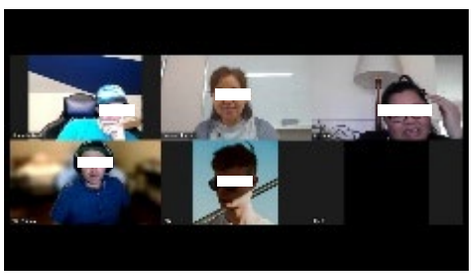

**構成**

- 海外にいる学習者がイメージして練習しやすいように、表現や言葉、会話内容を工夫して教材を作成した。
- 日本語学習歴がほとんどない学習者のため、ひらがな・カタカナの読み、書き方をオンデマンド教材として組み込み、授業に取り入れた。
- 日本語と母語の特徴や違いを初回の授業で学んでから日本語学習に入る、という流れで進めることで、スムーズな日本語学習につなげた。
- 日本人との交流を最終授業に組み込んだことで、授業で学んだことをネイティブとの会話に取り入れて話すことができ、学習者の自信につながった。

- 作成したオンライン教材

**運営**

- Zoom上で投影する資料を1つのPPTファイルにまとめることで、授業中の画面共有をスムーズにした。
- 教師同士での情報や資料の共有、授業の引継ぎをオンラインで完結させたことで、従来よりもスムーズに連携ができた。



- オンライン授業の様子

## 成果と課題

**【事前・事後テスト】**
ひらがな・カタカナの読み書きテストでは、ひらがな・カタカナともに事後テストで大幅に得点が上がった。プログラム開始時にはほぼ全員が名前と国しか言えなかったが、終了時の会話テストでは、名前・ふるさと・職業・趣味・卒業後の予定について正確に話すことができた。

**【学習者向けアンケート結果】**
総合満足度やオンライン授業による日本語能力の向上度合いについては4段階中3.5と評価が高かった。また、日本語学習への意欲の向上度合いについては、4段階中3.8であった。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | 話す（やりとり）【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。<br>話す（発表）【長く一人で話す：経験談】自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができる。 | • 話す（やりとり）：初対面の相手と名前・ふるさと・家族・すまい・職業・趣味・卒業後の予定についてやりとりすることができた。<br>• 話す（発表）：自己紹介場面において、複数人の前でモノローグ形式で自分の名前・ふるさと・家族・すまい・職業・趣味・卒業後の予定について話すことができた。 | • オンラインでは、対面よりも発音の指導が難しいと感じた。<br>• カメラの画質が悪く学習者の口元が見にくいケースがあった。また、授業中にカメラをオフにしたままの学習者がいたため、授業進行や会話練習がやりにくいケースがあった。 |
| 独自目標 | ①プログラム終了時に、ひらがな・カタカナの読み書き、簡単な自己紹介がスムーズにできるようになる | • ひらがな・カタカナの読み書きテストに関しては、プログラム開始時のテストの平均点はひらがなが18点中7点、カタカナが18点中2点だったが、プログラム終了時のテストではひらがなが18点中17点、カタカナが18点中15点にアップした。<br>• プログラム終了時の会話テストでは、名前・ふるさと・家族・すまい・職業・趣味・卒業後の予定について正確に話すことができた。 | • オンライン授業終了後から来日までの間に、学習内容を忘れてしまう学習者がおり、入学後に実施したひらがな・カタカナテストの平均点はとオンライン授業終了時と比較すると低下していた。授業期間が短く、学習内容が定着しなかったことが原因として考えられる。 |

## 今後の取組

学習者との連絡手段がメール等に限られてしまったため、講座の申し込み段階でメール以外の連絡手段（電話など）の確保が重要と考えられる。入国前プログラムでは、来日が決まっている学習者は学習意欲が高く継続して学習できるが、留学検討段階の学習者にとってはモチベーションの維持が難しくなることが想定される。学習者自身が留学までの道筋を描き、小さな目標を少しずつ立てていけるようにするなど、学習モチベーションを維持する工夫が重要と考えられる。

# 青山スクールオブジャパニーズ（東京都世田谷区）

## 実施クラス：渡日前留学予定者を対象としたA1レベルのクラス（インドネシアクラス①インドネシアクラス②）

A1 | オンライン | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く | 読む | 書く | 日本事情 日本理解 | その他

### 教育機関概要

| 設立年度 | 1976年 | 主要コース | 進学 | 主要な学習者 | 専門学校・大学進学目的の留学生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 機関概要 | 1~2年間かけて日本語をしっかりと学ぶ長期コース、4~10週間で簡単に日本語を学べる短期聴講コース、数年間日本に駐在するビジネスパーソン等を主な対象とした日本語プライベートレッスン、5日間で気軽に日本語学校を体験できるユニットコース等、様々なニーズに応じたコースを展開している。日本語教師養成講座も手掛けている。 | | | | |

### 実証結果のサマリ

- **対面授業とそん色のないオンライン授業を実施するために、学習者の理解度を深める動画・音声教材を作成し、入国前の学習者が来日までの期間で日本語能力を維持できるように授業を実施した。**
- **特に「話す」「聞く」において成果が見られ、発言数が増え自分の意見を伝えることができるようになった。**

### 実証事業背景

オンラインに適した教材が少なかったため、オンライン授業で取り扱う教材を作成し、試用を行う必要があった。
ビザ申請後、入国前の学習者が来日するまでの間に、日本語能力を維持できないケースがあった。

### 実証目的

① 対面授業とそん色のないオンライン授業を実施するために、学習者の理解度を深める動画・音声教材を作成する。
②入国前の学習者が来日までの期間で日本語能力を維持できるような授業を行う。

### 取組内容

#### ■クラスの基本情報

| 学習者レベル | A1 | 対象スキル | 話す（やりとり）/話す（発表）/聞く/読む/書く/日本事情・日本理解/その他 |
|---|---|---|---|
| 提供方法 | オンライン（双方向） | 対象学習者 | 渡日前留学予定／希望生 |
| 参加スタイル | 母国からの参加（2023年入学希望者） | 学習者人数 | インドネシアクラス①：4名<br>インドネシアクラス②：6名 |
| 学習者の主な出身国・地域 | インドネシア | 実施期間 | インドネシアクラス①：8月9日~9月29日<br>インドネシアクラス②：10月18日~12月22日 |
| 使用教材 | オリジナル作成教材（復習用音声教材－例文）、既存の教材（日本語Ⅰ・Ⅱ、漢字、会話オリジナル教材） | 学習者の使用機器 | ＰＣ、スマートフォン、タブレット |

| 重点目標 Can-Do | インドネシアクラス①　話す（やりとり）：【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。<br>インドネシアクラス②　話す（やりとり）：【目的達成のための協同作業】人に物事を要求したり、与えることができる。 |
|---|---|
| 独自目標 | ①授業満足度70％以上、自主学習教材を使用して自主学習時間が増加した学習者が70％以上（学習者アンケート）、授業がやりやすいと感じた教師が70%以上（教師アンケート）<br>②日本に来て困らない程度の会話力とN4レベルの文法を身につける |

#### ■カリキュラムの概要

- おおよそ1週間に1,2回の頻度で、1回2時間のクラスを実施した。
- クラスの構成としては、文法学習・発表をメインに行う授業と、漢字練習・会話練習をメインに行う授業の2種類を交互に進める形とした。
- 「書く」「読む」だけでは退屈してしまうケースが多いため、様々な言語活動に触れるような授業構成とした。

| 回 | 対象スキル | 授業内容 | 活用教材 | 手法 |
|---|---|---|---|---|
| 奇数回 | 話す（発表）、聞く、読む、書く、日本事情・日本理解、その他 | • 復習をメインとした文法学習<br>• 事前に作成した作文や日記等の発表 | 日本語Ⅰ及び日本語Ⅱ | オンライン（Zoom） |
| 偶数回 | 話す（やりとり）、聞く、読む、書く、日本事情・日本理解、その他 | • 漢字練習（「読む」を中心に実施）<br>• 会話練習（全員がカメラオンにしたうえで、ブレークアウト機能を使用して練習） | 漢字、会話オリジナル教材 | オンライン（Zoom） |

## 取組の特徴や工夫点

**質**

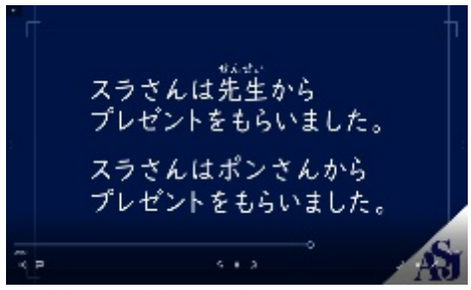
- 日本に来て困らない程度の会話力を身に付けるために、日本の生活で必要な場面を選んで会話練習をした。その際に日本の生活や習慣について触れることで、来日への意欲ひいては日本語学習意欲の維持・向上につながるように心掛けた。
- オリジナル作成教材（復習用音声教材－例文）を用いて授業で取り扱った例文を聞く宿題を出したが、学習者は正しい日本語の発音を身に付けることに加えて、教師以外の日本人の声に慣れることができた。

**構成**

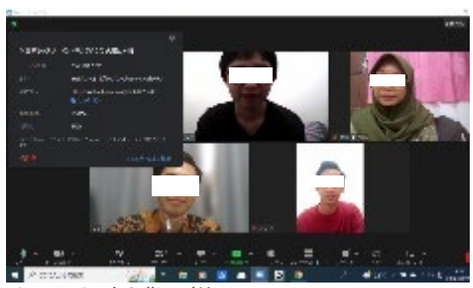
- 授業開始前に学習者と事前面談（zoom）を行い、学習者の会話能力を確認したうえで、カリキュラムの組み立てを行った。
- 事前面談では学習者のレベルがN5合格程度だったため、文法と語彙ではN4レベルを身に付けられるよう、オリジナル教材を活用しながら学習者が苦手な文法項目と漢字の練習を取り入れた。
- 既存教材・音声教材は幅広い内容を取り扱っているが、学習者のレベルやシチュエーションに合ったものをいくつか選択して授業で使用した。

**運営**

- 学習者と教師とのやり取りは、基本的にすべてFacebookのメッセンジャーで実施した。授業プリントの送付や宿題の提出・添削、授業の出欠・遅刻・早退のやり取りもメッセンジャーで完結した。
- 現地のエージェント等に仲介してもらいながら、オンライン授業実施や自主学習状況確認を行った。



作成したオンライン教材


オンライン授業の様子

## 成果と課題

**【事前・事後テスト】**
インドネシアクラス①：授業前と終了後に同じテストを実施し、合計点が平均で14点上がった。
インドネシアクラス②：授業前と終了後に同じテストを実施し、特に力を入れていた文法と漢字に関しては、ほぼ全員の点数が上がっていた。

**【学習者向けアンケート結果】**
総合満足度については4段階中全員が最高評価である4を選択し、評価が高かった。また、日本語能力が向上したかについては回答者の平均値が4段階中3.6であった。継続して日本語学習を続けたいかについては、、4段階中全員が最高評価である4を選択した。

| | 目標 | 成果 | 発見した課題 |
|---|---|---|---|
| 重点目標Can-do | インドネシアクラス①　話す（やりとり）：【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。<br>インドネシアクラス②　話す（やりとり）：【目的達成のための協同作業】人に物事を要求したり、与えることができる。 | インドネシアクラス①　話す（やりとり）：はじめは自己紹介をするだけで精一杯だったが、授業後半には自分の経験や考えが伝えられるようになった。<br>インドネシアクラス②　話す（やりとり）：はじめは発言が少なかったがクラスメイトの発表に対して意見や感想が言えるようになった。 | • 学習者のWi-Fiの接続状況が悪く、会話練習の際に雑音が入ってしまったりしてスムーズに練習できないケースがあった。 |
| 独自目標 | ①授業満足度70％以上<br>②自主学習教材を使用して自主学習時間が増加した学習者が70％以上（学習者アンケート）<br>③授業がやりやすいと感じた教師が70％以上（教師アンケート）<br>④日本に来て困らない程度の会話力とN4レベルの文法を身につける | ①授業満足度の平均は100％<br>②自主学習時間は平均で69分増加<br>③【復習用音声教材−例文】の使いやすさは、アンケート結果では80％が使いやすいと回答<br>④話す・聞く等の部分で成果が見られ、会話力は身につけられた | • ④に関して、文法の筆記試験の合計点は、クラス開始前と修了後で大きな変化はなかった。文法中心の授業ではなく、会話や発表など幅広い内容の授業を行った為、試験の結果だけでは効果がはっきりと示せなかったと考えられる。 |

## 今後の取組

ゼロから始めた学習者にとって、日本人教師と双方向オンラインで授業を行うことは対面授業よりも難しいと思われるため、今後はオンラインで自主学習できる教材やテキストの作成を検討したいと考えている。PCの所有の有無で授業の受けやすさに差が出てしまうため、①紙媒体の教材を学習者に配布②スマートフォンで完結する教材の提供、といった取組を今後検討したい。また、Wi-Fiポケット貸し出し等のネット環境サポート等の取組が考えられる。